

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
特別研究 I	Special Research I
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
	4
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
通年	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81509125
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	各指導教員	人文社会科学部	
2			
3			
4			
5			

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

研究計画に基づく研究の個別指導

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

研究の集大成にむけて:1年目の準備段階

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

総合高知研究

授業の概要【COURSE SUMMARY】

本授業では、個別の研究テーマに関する指導を、通年で行う。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	自らの研究テーマについて、これまで理解していることをベースに、新たに理解したことを説明できる。
2	自らの研究テーマについて、自身の立場から批判的に考察することができる。
3	自らの研究テーマについての最新の研究動向を意欲的に摂取し、その内容を1つ以上説明できる。
4	自らの研究テーマについての自身の立場を的確に表現し、他者と議論することができる。
5	

キーワード【KEYWORD】

人文科学・社会科学・研究計画・専門的知識

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

自らの研究テーマに対する関心と研究を遂行する意欲

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	—	
	授業内容	オリエンテーション 本授業の狙いと進め方についての説明。	
第2回	担当教員	—	
	授業内容	研究計画の精査 個別研究に向けた検討・議論を行う	
第3回	担当教員	—	
	授業内容	研究全体の概要の検討 個別研究の計画を見直し、より確かなものにする	
第4回	担当教員	—	
	授業内容	研究計画に基づき、個別研究指導を行う	
第5回	担当教員	—	
	授業内容	研究計画に基づき、個別研究指導を行う	
第6回	担当教員	—	
	授業内容	研究計画に基づき、個別研究指導を行う	
第7回	担当教員	—	
	授業内容	研究計画に基づき、個別研究指導を行う	
第8回	担当教員	—	
	授業内容	研究計画に基づき、個別研究指導を行う	
第9回	担当教員	—	
	授業内容	研究計画に基づき、個別研究指導を行う	
第10回	担当教員	—	
	授業内容	研究計画に基づき、個別研究指導を行う	
第11回	担当教員	—	
	授業内容	研究計画に基づき、個別研究指導を行う	
第12回	担当教員	—	
	授業内容	研究計画に基づき、個別研究指導を行う	
第13回	担当教員	—	
	授業内容	研究計画に基づき、個別研究指導を行う	
第14回	担当教員	—	
	授業内容	研究計画に基づき、個別研究指導を行う	
第15回	担当教員	—	
	授業内容	中間レポートの作成 中間レポートの作成についての指導	
第16回	担当教員	—	
	授業内容	プレ中間発表会 指導教員の下で行われるプレ中間発表会に参加する	
第17回	担当教員	—	
	授業内容	研究計画に基づき、個別研究指導を行う	
第18回	担当教員	—	
	授業内容	研究計画に基づき、個別研究指導を行う	
第19回	担当教員	—	
	授業内容	研究計画に基づき、個別研究指導を行う	
第20回	担当教員	—	
	授業内容		

第20回	授業内容	研究計画に基づき、個別研究指導を行う	
第21回	担当教員	—	
	授業内容	研究計画に基づき、個別研究指導を行う	
第22回	担当教員	—	
	授業内容	研究計画に基づき、個別研究指導を行う	
第23回	担当教員	—	
	授業内容	研究計画に基づき、個別研究指導を行う	
第24回	担当教員	—	
	授業内容	研究計画に基づき、個別研究指導を行う	
第25回	担当教員	—	
	授業内容	研究計画に基づき、個別研究指導を行う	
第26回	担当教員	—	
	授業内容	研究計画に基づき、個別研究指導を行う	
第27回	担当教員	—	
	授業内容	研究計画に基づき、個別研究指導を行う	
第28回	担当教員	—	
	授業内容	研究計画に基づき、個別研究指導を行う	
第29回	担当教員	—	
	授業内容	研究計画に基づき、個別研究指導を行う	
第30回	担当教員	—	
	授業内容	研究計画に基づき、個別研究指導を行う	
第31回	担当教員	—	
	授業内容	1年時最終レポートの作成 最終レポートの作成についての指導	
第32回	担当教員	—	
	授業内容	人文社会科学専攻 修士論文発表会 修士論文発表会に参加し、議論を行う。	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

関連文献の検討、報告準備

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

担当教員の指示に従うこと

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	50
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	50
その他	

【成績評価に関する補足】

・授業への参画・報告:50%
・レポート提出:50%

・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
各指導教員	未定	未定	各指導教員の研究室

【オフィスアワーに関する補足】

各教員に確認すること

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| ☐ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☒ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☐ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
特別研究Ⅱ	Special ResearchⅡ
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
	4
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
通年	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81509225
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	各指導教員	人文社会科学部	
2			
3			
4			
5			

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

研究計画に基づく研究指導、論文作成に関連する指導

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

論文の完成に向けて

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

総合高知研究

授業の概要【COURSE SUMMARY】

本授業では、研究論文の完成に向けて、綿密な指導を通年で行う。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	自らの研究テーマについて、これまで理解していることをベースに、新たに理解したことを説明できる。
2	自らの研究テーマについて、自身の立場から批判的に考察することができる。
3	自らの研究テーマについての最新の研究動向を意欲的に摂取し、その内容を1つ以上説明できる。
4	自らの研究テーマについての自身の立場を論文の形で的確に表現し、他者と議論することができる。
5	

キーワード【KEYWORD】

論文、人文学・社会科学

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

個別研究の集大成に向けて精一杯の努力をして欲しいと思います

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	—	
	授業内容	オリエンテーション 本授業の狙いと進め方についての説明。	
第2回	担当教員	—	
	授業内容	研究の取りまとめ準備 研究取りまとめに向けた課題の検討、研究敬作の修正等	
第3回	担当教員	—	
	授業内容	研究とりまとめの進捗状況の確認、取りまとめに必要な事項の整理、報告	
第4回	担当教員	—	
	授業内容	研究とりまとめの進捗状況の確認、取りまとめに必要な事項の整理、報告	
第5回	担当教員	—	
	授業内容	研究とりまとめの進捗状況の確認、取りまとめに必要な事項の整理、報告	
第6回	担当教員	—	
	授業内容	研究とりまとめの進捗状況の確認、取りまとめに必要な事項の整理、報告	
第7回	担当教員	—	
	授業内容	研究とりまとめの進捗状況の確認、取りまとめに必要な事項の整理、報告	
第8回	担当教員	—	
	授業内容	研究とりまとめの進捗状況の確認、取りまとめに必要な事項の整理、報告	
第9回	担当教員	—	
	授業内容	研究とりまとめの進捗状況の確認、取りまとめに必要な事項の整理、報告	
第10回	担当教員	—	
	授業内容	研究とりまとめの進捗状況の確認、取りまとめに必要な事項の整理、報告	
第11回	担当教員	—	
	授業内容	研究とりまとめの進捗状況の確認、取りまとめに必要な事項の整理、報告	
第12回	担当教員	—	
	授業内容	研究とりまとめの進捗状況の確認、取りまとめに必要な事項の整理、報告	
第13回	担当教員	—	
	授業内容	研究とりまとめの進捗状況の確認、取りまとめに必要な事項の整理、報告	
第14回	担当教員	—	
	授業内容	研究とりまとめの進捗状況の確認、取りまとめに必要な事項の整理、報告	
第15回	担当教員	—	
	授業内容	夏期休業中の研究計画の検討 夏期休業中の研究計画に関する指導	
第16回	担当教員	—	
	授業内容	プレ中間発表会 指導教員の下で行われるプレ中間発表会に参加する	
第17回	担当教員	—	
	授業内容	研究指導 論文作成のための指導	
第18回	担当教員	—	
	授業内容	研究指導 論文作成のための指導	
第19回	担当教員	—	
	授業内容	中間発表会 中間発表会に参加し、報告、討論等を行う	
第20回	担当教員	—	
	授業内容		

第20回	授業内容	研究指導 論文作成のための指導	
第21回	担当教員	—	
	授業内容	研究指導 論文作成のための指導	
第22回	担当教員	—	
	授業内容	研究指導 論文作成のための指導	
第23回	担当教員	—	
	授業内容	研究指導 論文作成のための指導	
第24回	担当教員	—	
	授業内容	研究指導 論文作成のための指導	
第25回	担当教員	—	
	授業内容	研究指導 論文作成のための指導	
第26回	担当教員	—	
	授業内容	研究指導 論文作成のための指導	
第27回	担当教員	—	
	授業内容	研究指導 論文作成のための指導	
第28回	担当教員	—	
	授業内容	研究指導 論文作成のための指導	
第29回	担当教員	—	
	授業内容	研究指導 論文作成のための指導	
第30回	担当教員	—	
	授業内容	研究指導 論文作成のための指導	
第31回	担当教員	—	
	授業内容	研究指導 論文作成のための指導	
第32回	担当教員	—	
	授業内容	発表会 発表会で報告を行う。	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

研究論文の草稿作成、発表準備

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

担当教員の指示に従うこと

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL 】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	50
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	
その他	50

【成績評価に関する補足】

・授業への参画・報告:50%
・研究成果の評価:50%

・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
各指導教員	未定	未定	各指導教員の研究室

【オフィスアワーに関する補足】

各教員に確認すること

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| ☐ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☒ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☐ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
アカデミック・リサーチ入門	Introduction to Academic Research
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12102	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81500121
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	小林 安那	人文社会科学部	
2	川本 真浩	人文社会科学部	
3			
4			
5			

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

総合的なアカデミックスキルを身につける

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

本授業のテーマは「総合的なアカデミックスキルを身につける」ことにある。本授業を通して、自分の専門分野にとらわれず、人文・社会科学分野の多様な研究手法と論文執筆の方法を学ぶことが大きな目的である。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

総合高知研究

授業の概要【COURSE SUMMARY】

① 研究および論文執筆の方法：基礎編

学術論文についての理解を深めるとともに研究への心構えを養う。また、文献の探し方および先行研究のレビューの仕方についての学習を通じ、学術論文執筆におおまかなイメージを掴んでもらうことが目的である。

② 研究および論文執筆の方法：発展編

基礎編で学んだことをもとに各回の担当者は自らの研究テーマに関してプレゼンし、受講生間で質疑応答とディスカッションを行う。実際に自らの研究テーマに即したアウトプットを行ってみること、受講生の多様な研究テーマの発表に対し客観的・批判的な視点を持って検討することが目的である。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	学術論文を執筆する方法を身につける
2	学術論文を批判的に検討する力を身につける
3	人文・社会科学分野で用いられている多様な研究方法を理解する
4	
5	

キーワード【KEYWORD】

アカデミックスキル、人文学・社会科学

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

学部卒業レベルの知識と教養

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業の進度は履修生の理解度等に応じて調整する場合があります。

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	—	
	授業内容	オリエンテーション 本授業のねらいと進め方についての説明	
第2回	担当教員	—	
	授業内容	基礎編：学術論文の構成(1)	
第3回	担当教員	—	
	授業内容	基礎編：学術論文の構成(2)	
第4回	担当教員	—	
	授業内容	基礎編：問いの立て方	
第5回	担当教員	—	
	授業内容	基礎編：先行研究調査(1)	
第6回	担当教員	—	
	授業内容	基礎編：先行研究調査(2)	
第7回	担当教員	—	
	授業内容	発展編：各自の研究テーマに関する発表およびディスカッション	
第8回	担当教員	—	
	授業内容	発展編：各自の研究テーマに関する発表およびディスカッション	
第9回	担当教員	—	
	授業内容	発展編：各自の研究テーマに関する発表およびディスカッション	
第10回	担当教員	—	
	授業内容	発展編：各自の研究テーマに関する発表およびディスカッション	
第11回	担当教員	—	
	授業内容	発展編：各自の研究テーマに関する発表およびディスカッション	
第12回	担当教員	—	
	授業内容	発展編：各自の研究テーマに関する発表およびディスカッション	
第13回	担当教員	—	
	授業内容	発展編：各自の研究テーマに関する発表およびディスカッション	
第14回	担当教員	—	
	授業内容	『総合高知研究』に向けた課題と手法の検討	
第15回	担当教員	—	
	授業内容	まとめ	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

当日の授業に備え、各回で取り上げる課題を読んでおくこと。
また、発表担当者はプレゼンの準備をしてくること。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

教科書は第1回オリエンテーションで指示します。
また、その他の文献や資料については各回で指示します。

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	40
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	
その他	60

【成績評価に関する補足】

・「その他」 事前準備、発表、レポート等を評価します。

・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
小林 安那	未定	未定	研究室
川本 真浩	未定	未定	研究室

【オフィスアワーに関する補足】

各教員に確認すること

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてグリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| ☐ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☒ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☒ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
総合高知研究	Integrated Kochi Studies
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12101	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81500021
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	成田 凌	人文社会科学部	
2	川本 真浩	人文社会科学部	
3			

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

高知を「フィールドワーク」する

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

- ・高知をフィールドとして幅広い知識や視野の獲得を目指す。
- ・研究報告書/報告会を実施する

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

アカデミック・リサーチ入門

授業の概要【COURSE SUMMARY】

本授業は、人文社会科学専攻の共通総合科目であり、高知をフィールドとして幅広い知識や視野の獲得を目指し、研究報告書を作成するものである。
1学期実施の「アカデミック・リサーチ入門」を前提として、調査・報告・執筆を行い、2 年次以降の研究可能性を広げることを目的とする。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標 (COURSE OBJECTIVES)
1	フィールドワークを通じて、人間・社会を批判的に検討する力を身に着ける
2	人文・社会科学分野で用いられている多様な研究方法を理解する
3	学術報告・プレゼンテーションの方法を学ぶ
4	
5	

キーワード【KEYWORD】

地域/高知研究、フィールドワーク/エクスカージョン

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

学部卒業レベルの知識・教養。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	—	
	授業内容	オリエンテーション 本授業の狙いと進め方の説明を行う	
第2回	担当教員	—	
	授業内容	フィールドの選定 フィールドの選定作業を行う	
第3回	担当教員	—	
	授業内容	フィールドの選定 フィールドの選定作業を行う	
第4回	担当教員	—	
	授業内容	フィールドの選定 フィールドの選定作業を行う	
第5回	担当教員	—	
	授業内容	フィールドワークの準備 フィールドワークの準備作業を行う	
第6回	担当教員	—	
	授業内容	フィールドワークの準備 フィールドワークの準備作業を行う	
第7回	担当教員	—	
	授業内容	現地フィールドワークの実施 現地に足を運び、フィールドワークを行う。	
第8回	担当教員	—	
	授業内容	現地フィールドワークの実施 現地に足を運び、フィールドワークを行う。	
第9回	担当教員	—	
	授業内容	現地フィールドワークの実施 現地に足を運び、フィールドワークを行う。	
第10回	担当教員	—	
	授業内容	フィールドワークの分析 フィールドワークで得られた資料・データ等の分析を行う	
第11回	担当教員	—	
	授業内容	フィールドワークの分析 フィールドワークで得られた資料・データ等の分析を行う	
第12回	担当教員	—	
	授業内容	フィールドワークの分析 フィールドワークで得られた資料・データ等の分析を行う	
第13回	担当教員	—	
	授業内容	成果報告の検討 フィールドワークの成果報告の検討を行う	
第14回	担当教員	—	
	授業内容	成果報告の検討 フィールドワークの成果報告の検討を行う	
第15回	担当教員	—	
	授業内容	成果報告の作成 成果報告の作成を行う	
第16回	担当教員	—	
	授業内容	成果報告の公表 成果報告の編集・刊行を行う	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

課題文献の検討、フィールドワークの準備作業、報告資料の作成

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

各回で指示する予定。

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	50
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	50
その他	

【成績評価に関する補足】

- ・授業への参画・報告: 50%
- ・成果報告の取組: 50%

- ・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
成田 凌	未定	未定	研究室
川本 真浩	未定	未定	研究室

【オフィスアワーに関する補足】

各教員に確認すること

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| ☐ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☒ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☐ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
西洋近現代思想論特論	Modern European Philosophy (Advanced)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12A01	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81510171
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校(社会)専修、教免—高校(公民)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR' S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	佐野 泰之	人文社会科学部	y-sano@kochi-u.ac.jp
2			
3			
4			
5			

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

「実存主義」再考

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

Rethinking "Existentialism"

授業の目的【COURSE AIMS】

実存主義について学ぶ。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

20世紀フランスにおける「実存主義」運動の展開を辿り、その今日的意義について考察する。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	実存主義の担い手となった哲学者たちの経歴や思想の概要を説明することができる。
2	実存哲学及び実存主義の歴史的展開を説明することができる。
3	実存主義の知見を活かして今日の社会や学問について独自の考察をすることができる。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

哲学、西洋哲学、実存哲学、実存主義

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

西洋哲学史の基礎的知識をもっていること。
また、ドイツ語やフランス語について初級レベルの知識があることが望ましい(必須ではない)。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員		
	授業内容	イントロダクション	
第2回	担当教員		
	授業内容	実存主義前史(1)	
第3回	担当教員		
	授業内容	実存主義前史(2)	
第4回	担当教員		
	授業内容	実存主義前史(3)	
第5回	担当教員		
	授業内容	実存主義前史(4)	
第6回	担当教員		
	授業内容	サルトルの思想(1)	
第7回	担当教員		
	授業内容	サルトルの思想(2)	
第8回	担当教員		
	授業内容	サルトルの思想(3)	
第9回	担当教員		
	授業内容	メルロ＝ポンティの思想(1)	
第10回	担当教員		
	授業内容	メルロ＝ポンティの思想(2)	
第11回	担当教員		
	授業内容	メルロ＝ポンティの思想(3)	
第12回	担当教員		
	授業内容	ボーヴォワールの思想(1)	
第13回	担当教員		
	授業内容	ボーヴォワールの思想(2)	
第14回	担当教員		
	授業内容	ボーヴォワールの思想(3)	
第15回	担当教員		
	授業内容	まとめ	
第16回	担当教員		
	授業内容		

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

授業中に紹介された参考文献を自主的に読む。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

教科書は無い。
参考書は授業中に適宜紹介する。

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	100
その他	

【成績評価に関する補足】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
佐野 泰之	木曜	5 限	人文社会科学部棟504

【オフィスアワーに関する補足】

事前にメールでアポイントを取ってください。

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☒ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|--|--|
| ☒ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ 調整中 | |

授業形態

- ☒ 講義形式が中心
- ☒ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
西洋近現代思想論演習	Modern European Philosophy (Seminar)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12A02	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81515121
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校(社会)専修、教免—高校(公民)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	佐野 泰之	人文社会科学部	
2			
3			
4			
5			

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

メルロ＝ポンティを読む

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

Reading Merleau-Ponty

授業の目的【COURSE AIMS】

哲学書を読み解く能力を身につける。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

メルロ＝ポンティ『知覚の現象学』を講読する。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	訳を参考にしながらも、原典でメルロ＝ポンティのテキストを読むことができる。
2	哲学書の内容を正確に理解し、議論することができる。
3	
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

哲学、西洋哲学、メルロ＝ポンティ

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

フランス語が読めることが望ましい。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員		
	授業内容	イントロダクション	
第2回	担当教員		
	授業内容	テキストの講読(1)	
第3回	担当教員		
	授業内容	テキストの講読(2)	
第4回	担当教員		
	授業内容	テキストの講読(3)	
第5回	担当教員		
	授業内容	テキストの講読(4)	
第6回	担当教員		
	授業内容	テキストの講読(5)	
第7回	担当教員		
	授業内容	テキストの講読(6)	
第8回	担当教員		
	授業内容	テキストの講読(7)	
第9回	担当教員		
	授業内容	テキストの講読(8)	
第10回	担当教員		
	授業内容	テキストの講読(9)	
第11回	担当教員		
	授業内容	テキストの講読(10)	
第12回	担当教員		
	授業内容	テキストの講読(11)	
第13回	担当教員		
	授業内容	テキストの講読(12)	
第14回	担当教員		
	授業内容	テキストの講読(13)	
第15回	担当教員		
	授業内容	テキストの講読(14)	
第16回	担当教員		
	授業内容	まとめ	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

テキストの指定箇所を事前に読んでくる。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

【教科書】モーリス・メルロ＝ポンティ『知覚の現象学1』（みすず書房、1967年）／『知覚の現象学2』（みすず書房、1974年）

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	100
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	
その他	

【成績評価に関する補足】

「学習意欲・授業参加度」は事前の予習や講読への取り組みを評価する。

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
佐野 泰之	木曜	5 限	人文社会科学部棟504

【オフィスアワーに関する補足】

事前にメールでアポイントを取ってください。

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☒ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|--|--|
| ☒ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☒ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
比較考古学特論	Comparative Archaeology (Advanced)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12B03	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81520271
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校(社会)専修、教免—高校(地理歴史)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	宮里 修	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

戦いの考古学

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

考古学の方法論により、物質資料から戦いの始まりと展開をあとづける。
武器の登場が社会をどのように変え構成したのかを考える。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

--

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	必要な用語と概念を整理する。
2	武器登場以前の縄文時代の関連する資料・背景を理解する。
3	起源地である朝鮮半島の青銅製・石製武器の状況を理解する。
4	武器登場期である弥生時代の状況を理解する。
5	古墳時代・古代の武装を理解する。
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

考古学、戦争、投射武器、衝撃武器、殺傷人骨、石器、青銅器、鉄器

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

考古学の基礎知識(学部講義における考古学概論相当)が必要。縄文・弥生・古墳時代、古代の考古資料についての基礎知識が必要。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	宮里 修	
	授業内容	オリエンテーション 授業内容の説明、打合せ	
第2回	担当教員	宮里 修	
	授業内容	問題提起 戦争の用語、概念	
第3回	担当教員	宮里 修	
	授業内容	概説：武器の登場と展開 弥生時代から古代にいたる全体の流れを概説する	
第4回	担当教員	宮里 修	
	授業内容	武器の登場 登場期の武器について開設する	
第5回	担当教員	宮里 修	
	授業内容	起源地の武器1 朝鮮半島における武器の登場・展開を解説する	
第6回	担当教員	宮里 修	
	授業内容	起源地の武器2 朝鮮半島における武器の登場・展開を解説する	
第7回	担当教員	宮里 修	
	授業内容	弥生時代前期の戦い1 弥生前期の武器の展開、殺傷人骨の状況を解説する	
第8回	担当教員	宮里 修	
	授業内容	弥生時代前期の戦い2 弥生前期の武器の展開、殺傷人骨の状況を解説する	
第9回	担当教員	宮里 修	
	授業内容	戦いにまつわる縄文時代の状況 縄文時代の受傷人骨、埋葬について解説する	
第10回	担当教員	宮里 修	
	授業内容	弥生時代中期の戦い1 青銅器の登場と剣の展開	
第11回	担当教員	宮里 修	
	授業内容	弥生時代中期の戦い2 青銅器の登場と戈の展開	
第12回	担当教員	宮里 修	
	授業内容	弥生時代中期の戦い3 弥生中期の殺傷人骨と断体儀礼	
第13回	担当教員	宮里 修	
	授業内容	鉄器の登場 弥生後期・古墳時代の戦い	
第14回	担当教員	宮里 修	
	授業内容	馬具と武装 古墳時代における馬の登場	
第15回	担当教員	宮里 修	
	授業内容	古代の武装 奈良・平安時代の武具・武装	
第16回	担当教員	宮里 修	
	授業内容	振り返り 講義内容を振り返り総括する	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

講義でしめす関連文献を読み、内容を整理する。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

講義で示す

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	100
その他	

【成績評価に関する補足】

レポートで評価する。戦いの起源と展開を再構成するための資料を把握し、資料を適切に歴史的脈絡に位置づけられるかを評価する。

・ 成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
宮里 修	金曜	2限	人文社会科学部棟4階 宮里研究室(439)

【オフィスアワーに関する補足】

要予約

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| ☐ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☒ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☐ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
比較考古学演習	Comparative Archaeology (Seminar)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12B04	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81525221
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校(社会)専修、教免—高校(地理歴史)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	宮里 修	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

CARL KNAPPETT "AN ARCHAEOLOGY OF INTERACTION"を読む

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

存在論的転回後の関係性としての物質文化研究の内容を把握する。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

--

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	AN ARCHAEOLOGY OF INTERACTION の内容を把握する
2	重要箇所を訳出する
3	キーワードの解説文を作成する
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

Archaeology, Interaction, Materiality, Networks, Practice.

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

考古学の基礎知識(考古学概論)が必要。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	宮里 修	
	授業内容	Interaction, Materiality, and Scale 1 Interaction, Materiality, and Scale 3	
第2回	担当教員	宮里 修	
	授業内容	Interaction, Materiality, and Scale 2 Interaction, Space, and Scale を読む	
第3回	担当教員	宮里 修	
	授業内容	Interaction, Materiality, and Scale 3 Networks Between Disciplines を読む	
第4回	担当教員	宮里 修	
	授業内容	Networks in Practice: From Micro to Macro 1 Micro-networks: Proximate Interactions を読む	
第5回	担当教員	宮里 修	
	授業内容	Networks in Practice: From Micro to Macro 2 Meso-networks: Communications of Practice を読む	
第6回	担当教員	宮里 修	
	授業内容	Networks in Practice: From Micro to Macro 3 Macro-networks: Regional Interactions を読む	
第7回	担当教員	宮里 修	
	授業内容	Why Networks? Objects, Things, and Time 1 Networks of Objects を読む	
第8回	担当教員	宮里 修	
	授業内容	Why Networks? Objects, Things, and Time 2 Meshworks of Things を読む	
第9回	担当教員	宮里 修	
	授業内容	Why Networks? Objects, Things, and Time 3 Temporalities and Biographical Care を読む	
第10回	担当教員	宮里 修	
	授業内容	Epilogue: Future Challenges Epilogue: Future Challenges を読む	
第11回	担当教員	宮里 修	
	授業内容	重要箇所の訳出1 Interaction, Materiality, and Scale の部分訳出	
第12回	担当教員	宮里 修	
	授業内容	重要箇所の訳出2 Networks in Practice: From Micro to Macro の部分訳出	
第13回	担当教員	宮里 修	
	授業内容	重要箇所の訳出3 Networks in Practice: From Micro to Macro の部分訳出	
第14回	担当教員	宮里 修	
	授業内容	重要箇所の訳出4 Why Networks? Objects, Things, and Time の部分訳出	
第15回	担当教員	宮里 修	
	授業内容	重要箇所の訳出5 Why Networks? Objects, Things, and Time の部分訳出	
第16回	担当教員	宮里 修	
	授業内容	振り返り	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

授業でしめる関連文献を読む

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

授業で示す

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	
その他	100

【成績評価に関する補足】

平常時の発言、議論、訳出により評価する。

・ 成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
宮里 修	金曜	2限	人文社会科学部棟4階 宮里研究室(439)

【オフィスアワーに関する補足】

要予約

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| ☐ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☒ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☐ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
中世日本言語文化論特論	Language and Culture in the Japanese Middle Ages (Advanced)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12C03	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81530271
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校・高校(国語)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	福島 尚	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

- ・日本中世文学作品を文献学的方法を用いて、その表現解析をおこなう方法を身に着けることを目的に、研究文献を講読する。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

日本中世文学作品を対象に、文献学的方法を用いてその表現解析を試みた研究文献を講読し、日本古典文学を研究する上での諸問題について考察する。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	文献を文献批評(クリティカル リーディング)できるようになる。
2	文献学的方法の基礎知識を身に着ける。
3	日本中世文学作品を文献学的方法を用いて研究できるようになる。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

日本中世文学、文献学

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

・日本語学・日本文学の学部教育専門科目レベルの基礎的知識を有すること。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	福島 尚	
	授業内容	オリエンテーション	
第2回	担当教員	福島 尚	
	授業内容	日本中世文学作品の文献学的研究方法(1)本文批評 当該のテーマについて講義	
第3回	担当教員	福島 尚	
	授業内容	日本中世文学作品の文献学的研究方法(2)注釈的研究 当該のテーマについて講義	
第4回	担当教員	福島 尚	
	授業内容	日本中世文学作品の文献学的研究方法と文芸批評的研究方法 当該のテーマについて講義	
第5回	担当教員	福島 尚	
	授業内容	講義の主対象として取り上げる作品『今昔物語集』の文献学的解題 当該のテーマについて講義	
第6回	担当教員	福島 尚	
	授業内容	講義の主対象として取り上げる作品『今昔物語集』の研究史解説 当該のテーマについて講義	
第7回	担当教員	福島 尚	
	授業内容	作品ならびにその研究文献の講読(1)事実から説話へーその1. 興福寺再建の霊験 報告とディスカッション	
第8回	担当教員	福島 尚	
	授業内容	作品ならびにその研究文献の講読(2)事実から説話へーその2. 花山院女王殺人事件 報告とディスカッション	
第9回	担当教員	福島 尚	
	授業内容	作品ならびにその研究文献の講読(3)説話のうらおもて 報告とディスカッション	
第10回	担当教員	福島 尚	
	授業内容	作品ならびにその研究文献の講読(4)説話の視界 報告とディスカッション	
第11回	担当教員	福島 尚	
	授業内容	作品ならびにその研究文献の講読(5)天竺から来た説話 報告とディスカッション	
第12回	担当教員	福島 尚	
	授業内容	作品ならびにその研究文献の講読(6)震旦説話の変容 報告とディスカッション	
第13回	担当教員	福島 尚	
	授業内容	作品ならびにその研究文献の講読(7)説話の翻訳 報告とディスカッション	
第14回	担当教員	福島 尚	
	授業内容	作品ならびにその研究文献の講読(8)『今昔物語集』の展望1 報告とディスカッション	
第15回	担当教員	福島 尚	
	授業内容	作品ならびにその研究文献の講読(9)『今昔物語集』の展望2 報告とディスカッション	
第16回	担当教員	福島 尚	
	授業内容	まとめー問題の所在の確認 報告とディスカッション	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

- ・テキストの精読と報告資料の作成。あわせて授業に関連する資料の収集。
- ・最低でも週4時間程度の自主的研究を基本とする。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

池上 洵『今昔物語集の世界—中世のあけぼの』

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	40
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	20
その他	40

【成績評価に関する補足】

- ・担当時の報告内容40%、毎回の議論における参加態度40%、期末レポート20%の総合評価とする。
- ・到達目標①～③について、担当時の報告内容・毎回の授業態度および期末レポートとを総合して評価する。

- ・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
福島 尚	木曜	3限	人文社会科学部5F福島研究室

【オフィスアワーに関する補足】

要予約

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| ☐ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☒ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☐ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
中世日本言語文化論演習	Language and Culture in the Japanese Middle Ages (Seminar)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12C04	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81535221
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校・高校(国語)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	福島 尚	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

--

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

--

授業の目的【COURSE AIMS】

- ・日本中世文学に関する研究文献をクリティカルリーディングする。

--

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

・日本中世文学作品に関する研究文献を文献批評(クリティカル リーディング)する。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	文献を文献批評(クリティカル リーディング)できるようになる。
2	文献批評(クリティカル リーディング)によって問題点を発見し、それを解決しようとする態度・技能を身に着ける。
3	日本中世文学作品を文献学的方法を用いて研究できるようになる。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

日本中世文学、文献学

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・日本語学・日本文学の学部専門科目レベルの基礎的知識を有すること。
- ・中世日本言語文化論特論を履修していること。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	福島 尚	
	授業内容	オリエンテーション 作品ならびにその研究文献の文献批評(クリティカル リーディング)	
第2回	担当教員	福島 尚	
	授業内容	作品ならびにその研究文献の文献批評(クリティカル リーディング) 報告とディスカッション	
第3回	担当教員	福島 尚	
	授業内容	作品ならびにその研究文献の文献批評(クリティカル リーディング) 報告とディスカッション	
第4回	担当教員	福島 尚	
	授業内容	作品ならびにその研究文献の文献批評(クリティカル リーディング) 報告とディスカッション	
第5回	担当教員	福島 尚	
	授業内容	作品ならびにその研究文献の文献批評(クリティカル リーディング) 報告とディスカッション	
第6回	担当教員	福島 尚	
	授業内容	作品ならびにその研究文献の文献批評(クリティカル リーディング) 報告とディスカッション	
第7回	担当教員	福島 尚	
	授業内容	作品ならびにその研究文献の文献批評(クリティカル リーディング) 報告とディスカッション	
第8回	担当教員	福島 尚	
	授業内容	作品ならびにその研究文献の文献批評(クリティカル リーディング) 報告とディスカッション	
第9回	担当教員	福島 尚	
	授業内容	作品ならびにその研究文献の文献批評(クリティカル リーディング) 報告とディスカッション	
第10回	担当教員	福島 尚	
	授業内容	作品ならびにその研究文献の文献批評(クリティカル リーディング) 報告とディスカッション	
第11回	担当教員	福島 尚	
	授業内容	作品ならびにその研究文献の文献批評(クリティカル リーディング) 報告とディスカッション	
第12回	担当教員	福島 尚	
	授業内容	作品ならびにその研究文献の文献批評(クリティカル リーディング) 報告とディスカッション	
第13回	担当教員	福島 尚	
	授業内容	作品ならびにその研究文献の文献批評(クリティカル リーディング) 報告とディスカッション	
第14回	担当教員	福島 尚	
	授業内容	作品ならびにその研究文献の文献批評(クリティカル リーディング) 報告とディスカッション	
第15回	担当教員	福島 尚	
	授業内容	作品ならびにその研究文献の文献批評(クリティカル リーディング) 報告とディスカッション	
第16回	担当教員	福島 尚	
	授業内容	作品ならびにその研究文献の文献批評(クリティカル リーディング) 報告とディスカッション	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

- ・文献の精読と報告資料の作成。あわせて授業に関連する資料の収集。
- ・最低でも週4時間程度の自主的研究を基本とする。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

文献批評(クリティカル リーディング)の対象は受講生と相談の上決定する。

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL 】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	40
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	20
その他	40

【成績評価に関する補足】

- ・担当時の報告内容40%、毎回の議論における参加態度40%、期末レポート20%の総合評価とする。
- ・到達目標①～③について、担当時の報告内容・毎回の授業態度および期末レポートとを総合して評価する。

- ・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
福島 尚	木曜	3限	人文社会科学部5F福島研究室

【オフィスアワーに関する補足】

要予約

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| ☐ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☒ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☐ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
言語社会論特論	Sociolinguistics (Advanced)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12D03	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81544271
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR' S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	土屋 京子	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

越境文学について学ぶ

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

What is "Border Writing"

授業の目的【COURSE AIMS】

- ・越境文学に関する重要な文献を読み進めながら、包括的な理論について理解し、考察を深める。
- ・なお本授業は、グローバル社会研究コースの中で、ドイツ語圏における言語文化ならびに異文化間問題を研究する「言語コミュニケーション領域」に属する科目である。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

近年、世界的に不安定な社会事情を背景に、「多文化主義」「多文化社会」のあり方が様々な視点から広く深く議論されている。この授業では、「越境する言語活動」をキーワードにして、様々な事情から亡命した作家たちや、難民・移民の子孫たちが創作した文学作品などを扱いながら、「多文化」的な社会の像を見ることで、現実社会の諸問題について考察を深める。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	越境文学における主要な論点について学び知る。
2	移民や難民に関する問題を自らの立場から批判的に考察することができる。
3	越境文学に関する最新の研究動向について、1つ以上説明できる。
4	越境文学研究の見地から他者と議論し、自らの考えを明快な日本語で表すことができる。
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

移民文学、母語、多文化主義、越境

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・授業では基本的に日本語を用いるが、外国語(主に英語とドイツ語)に関する一般的な知識があるのが望ましい。
- ・授業内で適宜参考資料を指示するが、その他にも自ら文献調査を積極的に行うことができること。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	土屋 京子	
	授業内容	オリエンテーション 授業の進め方、文献調査などについての説明	
第2回	担当教員	土屋 京子	
	授業内容	テキストの講読① 越境文学とは何か	
第3回	担当教員	土屋 京子	
	授業内容	テキストの講読② 越境文学とは何か	
第4回	担当教員	土屋 京子	
	授業内容	テキストの講読③ 移民・難民問題について	
第5回	担当教員	土屋 京子	
	授業内容	テキストの講読④ 移民・難民問題について	
第6回	担当教員	土屋 京子	
	授業内容	テキストの講読⑤ 移民・難民問題について	
第7回	担当教員	土屋 京子	
	授業内容	テキストの講読⑥ 越境文学を読む	
第8回	担当教員	土屋 京子	
	授業内容	テキストの講読⑦ 越境文学を読む	
第9回	担当教員	土屋 京子	
	授業内容	テキストの講読⑧ 越境文学を読む	
第10回	担当教員	土屋 京子	
	授業内容	テキストの講読⑨ 越境文学を読む	
第11回	担当教員	土屋 京子	
	授業内容	テキストの講読⑩ 越境文学を読む	
第12回	担当教員	土屋 京子	
	授業内容	テキストの講読⑪ 越境文学を読む	
第13回	担当教員	土屋 京子	
	授業内容	テキストの講読⑫ 越境文学を読む	
第14回	担当教員	土屋 京子	
	授業内容	総括ならびにディスカッション 授業内容のまとめをし、全体で議論する	
第15回	担当教員	土屋 京子	
	授業内容	レポートのピアレビューと講評① レポートのプロットを用いて、ピアレビューしたうえで、講評する	
第16回	担当教員	土屋 京子	
	授業内容	レポートのピアレビューと講評② レポートの草稿を用いて、ピアレビューしたうえで、講評する	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

- ・テキストの精読と課題レポートの作成、それらにともなう文献調査。
- ・最低でも週4時間程度、上記のための時間に充てること。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

--

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	20
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	40
その他	40

【成績評価に関する補足】

・担当時の報告内容40%、毎回の議論における参加態度20%、期末レポート40%の総合評価とする。
 ・到達目標①～③は、毎回の授業態度の中で評価する。到達目標④については、授業態度に加えて期末レポートと合わせて評価する。

・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
土屋 京子	火曜	1限	人文社会科学部棟3階、土屋京子研究室

【オフィスアワーに関する補足】

メール等でアポイントメントをとってください

この授業とSDGsの関連

- ☒ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| ☐ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☒ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☐ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
言語社会論演習	Sociolinguistics (Seminar)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12D04	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81549221
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	土屋 京子	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

越境文学について学ぶ

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

What is "Border Writing"

授業の目的【COURSE AIMS】

- ・越境文学に関する重要な文献を輪読し、議論を通じて、異文化を理解することとは何かについて考える。
- ・なお本授業は、グローバル社会研究コースの中で、ドイツ語圏における言語文化ならびに異文化間問題を研究する「言語コミュニケーション領域」に属する科目である

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

言語社会論特論

授業の概要【COURSE SUMMARY】

「言語社会論演習」での議論を踏まえ、「母語」や「越境する言語活動」を中心テーマに置き、受講生の関心や研究対象を基にして、研究発表とディスカッションを行う。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	越境文学における主要な論点について学び知る。
2	移民難民問題に関する問題を自らの立場から批判的に考察することができる。
3	越境文学に関する最新の研究動向について、1つ以上説明できる。
4	文学研究の見地から他者と議論し、自らの考えを明快な日本語で表すことができる。
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

移民文学、母語、多文化主義、越境

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・授業では基本的に日本語を用いるが、外国語(主に英語とドイツ語)に関する一般的な知識があるのが望ましい。
- ・授業内で適宜参考資料を指示するが、その他にも自ら文献調査を積極的行うことができること。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	土屋 京子	
	授業内容	オリエンテーション 授業の進め方、文献調査などについての説明	
第2回	担当教員	土屋 京子	
	授業内容	テキストの輪読 ① 越境文学に関する研究書を読む	
第3回	担当教員	土屋 京子	
	授業内容	テキストの輪読 ② 越境文学に関する研究書を読む	
第4回	担当教員	土屋 京子	
	授業内容	テキストの輪読 ③ 越境文学に関する研究書を読む	
第5回	担当教員	土屋 京子	
	授業内容	テキストの輪読 ④ 越境文学に関する研究書を読む	
第6回	担当教員	土屋 京子	
	授業内容	テキストの輪読 越境文学に関する研究書を読む	
第7回	担当教員	土屋 京子	
	授業内容	テキストの輪読 越境文学に関する研究書を読む	
第8回	担当教員	土屋 京子	
	授業内容	総括のためのディスカッションと個別テーマについて 越境文学の議論の射程をまとめたうえで、個別テーマについて発表する	
第9回	担当教員	土屋 京子	
	授業内容	個別発表 ① 受講者による口頭発表と質疑応答 ①	
第10回	担当教員	土屋 京子	
	授業内容	個別発表 ② 受講者による口頭発表と質疑応答 ②	
第11回	担当教員	土屋 京子	
	授業内容	個別発表 ③ 受講者による口頭発表と質疑応答 ③	
第12回	担当教員	土屋 京子	
	授業内容	越境文学に関する文献の講読 ① 越境文学に関する一次文献と二次文献の紹介と分析 ①	
第13回	担当教員	土屋 京子	
	授業内容	越境文学に関する文献の講読 ② 越境文学に関する一次文献と二次文献の紹介と分析 ②	
第14回	担当教員	土屋 京子	
	授業内容	レポートのピアレビューと講評 ① レポートの草稿を用いて、ピアレビューをしたうえで講評する	
第15回	担当教員	土屋 京子	
	授業内容	レポートのピアレビューと講評 ② レポートの草稿を用いて、ピアレビューをしたうえで講評する	
第16回	担当教員	土屋 京子	
	授業内容	最終総括 授業内容のまとめをし、全体で議論する	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

- ・テキストの精読と課題レポートの作成、それらにともなう文献調査。
- ・最低でも週4時間程度、上記のための時間に充てること。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

特になし、講読で使用するテキストは適宜、指示をする。

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	20
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	40
その他	40

【成績評価に関する補足】

・担当時の報告内容40%、毎回の議論における参加態度20%、期末レポート40%の総合評価とする。
 ・到達目標①～③は、毎回の授業態度の中で評価する。到達目標④については、授業態度に加えて期末レポートと合わせて評価する。

・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
土屋 京子	火曜	1限	人文社会科学部棟3階、土屋京子研究室

【オフィスアワーに関する補足】

メール等でアポイントメントをとってください

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| ☐ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☒ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☐ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
民事法特論	Civil Law (Advanced)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12G03	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81591271
ナンバリングコード2	81561271
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免一中学校(社会)専修、教免一高校(公民)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	緒方 賢一	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

相続の現代的課題

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

contemporary issues in inheritance, especially farmer inheritance.

授業の目的【COURSE AIMS】

- ・近代法体系における相続の概要を理解し、現代において、農林漁家の相続、経営継承の実態とその社会的影響について理解する。
- ・相続および経営継承がどのように行われれば、経営の継続性と地域に持続性を保てるか等について検討する。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

民法特論

授業の概要【COURSE SUMMARY】

民第5編相続を中心に、家族経営の継承問題について考えます。民法上の法定相続の特徴をりかいし、その上で、現代における農林漁家の相続にどのような課題があるのかについて検討します。

その上で、相続法が経営継承にもたらしている現代的課題について、現実的に即して考え、解決策を探ります。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	民法相続法の基本的内容を理解し、その概要を説明することができる。
2	農家相続・農地相続の現代的特徴を理解し、その概要を説明することができる。
3	農林漁家の経営継承の現代的課題について、調査、研究し、課題について考察することができる。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

民法、物権法、親族法、相続法、所有権、経営継承、農家相続

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

民法親族、相続法に興味があること。

特に、農林水産業の家族経営における財産の相続、経営継承に関心があること。

学士課程において民法の基礎的事項を理解していることが望ましい。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	緒方 賢一	
	授業内容	授業概要の説明およびスケジュールの確認 講義の全体像の提示	
第2回	担当教員	緒方 賢一	
	授業内容	民法相続法の歴史(1) 明治民法上の相続の特徴と問題点(1)	
第3回	担当教員	緒方 賢一	
	授業内容	民法相続法の歴史(2) 明治民法上の相続の特徴と問題点(2)	
第4回	担当教員	緒方 賢一	
	授業内容	民法相続法の歴史(3) 民法改正における相続法(1)	
第5回	担当教員	緒方 賢一	
	授業内容	民法相続法の歴史(4) 民法改正における相続法(2)	
第6回	担当教員	緒方 賢一	
	授業内容	民法相続法の歴史(5) 拳固民歩相続法の特徴と問題点(1)	
第7回	担当教員	緒方 賢一	
	授業内容	民法相続法の歴史(6) 拳固民歩相続法の特徴と問題点(2)	
第8回	担当教員	緒方 賢一	
	授業内容	農林漁家の経営継承と相続(1) 農家相続・農地相続(1)	
第9回	担当教員	緒方 賢一	
	授業内容	農林漁家の経営継承と相続(2) 農家相続・農地相続(2)	
第10回	担当教員	緒方 賢一	
	授業内容	農林漁家の経営継承と相続(3) 農家相続・農地相続(3)	
第11回	担当教員	緒方 賢一	
	授業内容	農林漁家の経営継承と相続(4) 林家の相続と経営継承	
第12回	担当教員	緒方 賢一	
	授業内容	農林漁家の経営継承と相続(5) 漁家の相続と経営継承	
第13回	担当教員	緒方 賢一	
	授業内容	相続・経営継承の現代的課題 自営業全般の経営継承と相続	
第14回	担当教員	緒方 賢一	
	授業内容	レポート作成経過報告 レポート作成概要説明	
第15回	担当教員	緒方 賢一	
	授業内容	レポート作成経過報告 レポート作成経過の報告	
第16回	担当教員	緒方 賢一	
	授業内容	レポート提出 レポート提出	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

授業時間外に相当な時間を費やして、民法、物権法、所有権に関する諸文献を読んでもらいます。
また、必要に応じて実態調査をしてもらう場合もあります。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

飯國他編『土地所有権の空洞化』(2018 ナカニシヤ出版)、原田純孝編『地域農業の再生と農地制度』(2011 農山漁村文化協会)、棚澤他編『現代都市法の課題と展望』(2018 日本評論社)。

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	20
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	50
その他	30

【成績評価に関する補足】

授業への参画(20%)・報告(30%)・期末試験(レポート)(50%)で総合評価します。

・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
緒方 賢一	火曜	3限	人文社会科学棟201研究室

【オフィスアワーに関する補足】

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| ☐ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☒ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☐ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
民法法演習	Civil Law (Seminar)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12G04	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81596221
ナンバリングコード2	81566221
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免一中学校(社会)専修、教免一高校(公民)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	緒方 賢一	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

相続の現代的課題

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

contemporary issues in inheritance, especially farmer inheritance.

授業の目的【COURSE AIMS】

- ・相続、特に農林漁家の相続と経営継承の課題を検討対象として、課題について理解し、課題解決に向けた研究手法や調査方法等を検討し、実践する。
- ・調査および研究した内容について、報告、議論し、文章にまとめる。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

・農林漁家の相続と経営継承問題について、調査・研究を通じて社会的現実の中から課題を設定し、その解決策を検討していくことで、修士論文作成に必要な調査研究、文章執筆能力を身につける。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	相続、特に農林漁家の相続と経営継承の現代的課題について理解できる。
2	課題解決に向けた調査・研究方法について検討できる。
3	課題解決に向けた調査・研究を行い、課題解決に向けた提案ができる。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

民法、物権法、親族法、相続法、所有権、経営継承、農家相続

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

1学期に開講する民事法特論を受講していることが望ましい。
相続問題、特に農林漁家の相続、経営継承に興味・関心があることが望ましい。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	緒方 賢一	
	授業内容	概要説明 授業のアウトラインの説明	
第2回	担当教員	緒方 賢一	
	授業内容	農林漁家相続の現代的課題(1) 農家相続・農地相続の実態把握(1)	
第3回	担当教員	緒方 賢一	
	授業内容	農林漁家相続の現代的課題(2) 農家相続・農地相続の実態把握(2)	
第4回	担当教員	緒方 賢一	
	授業内容	農林漁家相続の現代的課題(3) 林家・漁家相続の実態把握	
第5回	担当教員	緒方 賢一	
	授業内容	課題設定(1) 課題設定状況報告	
第6回	担当教員	緒方 賢一	
	授業内容	課題設定(2) 課題設定状況報告	
第7回	担当教員	緒方 賢一	
	授業内容	調査・研究手法の検討(1) 調査・研究手法の検討	
第8回	担当教員	緒方 賢一	
	授業内容	調査・研究手法の検討(2) 調査・研究手法の検討	
第9回	担当教員	緒方 賢一	
	授業内容	調査・研究報告(1) 調査・研究の経過報告	
第10回	担当教員	緒方 賢一	
	授業内容	調査・研究報告(2) 調査・研究の経過報告	
第11回	担当教員	緒方 賢一	
	授業内容	調査・研究報告(3) 調査・研究の経過報告	
第12回	担当教員	緒方 賢一	
	授業内容	総括(1) 報告の総括と総合討論	
第13回	担当教員	緒方 賢一	
	授業内容	総括(2) 報告の総括と総合討論	
第14回	担当教員	緒方 賢一	
	授業内容	レポート作成準備 レポート作成要領概説	
第15回	担当教員	緒方 賢一	
	授業内容	レポート作成経過報告 レポート作成経過報告	
第16回	担当教員	緒方 賢一	
	授業内容	レポート提出 レポート提出	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

・演習授業は基本的に報告と討論から成り立つので、そのための準備(文献収集と読解、現地調査等とそれらに基づく報告の作成)が必要になる。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

飯國他編『土地所有権の空洞化』(2018 ナカニシヤ出版)、原田純孝編『地域農業の再生と農地制度』(2011 農山漁村文化協会)、棚澤他編『現代都市法の課題と展望』(2018 日本評論社)。

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	20
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	50
その他	30

【成績評価に関する補足】

授業への参画(20%)・報告(30%)・期末試験(レポート)(50%)で総合評価します。

・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
緒方 賢一	火曜	3限	人文社会科学棟201研究室

【オフィスアワーに関する補足】

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| ☐ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☒ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☐ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
事業システム特論	Business System (Advanced)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12K05	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81581371
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	的場 竜一	人文社会科学部	rmatoba@kochi-u.ac.jp

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

現代資本主義と企業システムの諸理論に関する検討

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

本授業では現代の製造業企業を代表するトヨタ自動車を事例に、現代資本主義と企業システムの関係および理論に関する検討をおこなう。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

事業システム演習

授業の概要【COURSE SUMMARY】

本授業ではトヨタ自動車に関連するテキストの読解を通じて、企業システムの事例と理論の検討および研究をおこなう。その際、必要に応じて外国語文献の読解もおこなう。受講生はあらかじめテキストの読解をおこない、テキストの発表による議論を通じて読解と理解を深める。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	企業システムとは何かを説明できるようになる。
2	企業システムが抱える課題を説明できるようになる。
3	トヨタ自動車のシステムの進化と変容を議論できるようになる。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

企業、製造業、システム、トヨタ生産方式

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・経営学の基礎を修得済みであり、基本的な論点を理解していること。
- ・文献の精読、読解、発表を正しくおこなう態度を備えていること。
- ・経営学は金儲けの手段ではないということを理解していること。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	的場 竜一	
	授業内容	オリエンテーション	
第2回	担当教員	的場 竜一	
	授業内容	一冊目テキスト読解①	
第3回	担当教員	的場 竜一	
	授業内容	一冊目テキスト読解②	
第4回	担当教員	的場 竜一	
	授業内容	一冊目テキスト読解③	
第5回	担当教員	的場 竜一	
	授業内容	テキスト評価および総括	
第6回	担当教員	的場 竜一	
	授業内容	二冊目テキスト読解①	
第7回	担当教員	的場 竜一	
	授業内容	二冊目テキスト読解②	
第8回	担当教員	的場 竜一	
	授業内容	二冊目テキスト読解③	
第9回	担当教員	的場 竜一	
	授業内容	テキスト評価および総括	
第10回	担当教員	的場 竜一	
	授業内容	三冊目テキスト読解①	
第11回	担当教員	的場 竜一	
	授業内容	三冊目テキスト読解②	
第12回	担当教員	的場 竜一	
	授業内容	三冊目テキスト読解③	
第13回	担当教員	的場 竜一	
	授業内容	テキスト評価および総括	
第14回	担当教員	的場 竜一	
	授業内容	個人研究計画報告①	
第15回	担当教員	的場 竜一	
	授業内容	個人研究計画報告②	
第16回	担当教員	的場 竜一	
	授業内容	学期末レポートの作成・提出	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

- ・テキストを前もって精読・読解してくること。
- ・週4時間程度の自習を前提とする。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

教科書については第1回目で指示する。また授業中にも適宜指示する。

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	70
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	30
その他	

【成績評価に関する補足】

・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
的場 竜一	木曜	3, 4限	人文棟3階 333的場研究室

【オフィスアワーに関する補足】

要予約

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| ☐ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☒ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☐ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
事業システム演習	Business System (Seminar)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12K06	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81586321
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
令和元年度以降入学生対象科目	
資格等	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	的場 竜一	人文社会科学部	rmatoba@kochi-u.ac.jp

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

現代資本主義と企業システムの諸理論に関する研究

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

本授業では現代の製造業企業を代表するトヨタ自動車を事例に、現代資本主義と企業システムの関係および理論に関する研究をおこなう。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

事業システム特論

授業の概要【COURSE SUMMARY】

本授業ではトヨタ自動車に関連するテキストの読解を通じて、企業システムの事例と理論の検討および研究を批判的にこなす。その際、必要に応じて外国語文献の読解もおこなう。受講生はあらかじめテキストの読解をおこない、テキストの発表による議論を通じて読解と理解を深める。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	企業システムとは何かを発展的に説明できるようになる。
2	企業システムが抱える課題を批判的に説明できるようになる。
3	トヨタ自動車のシステムの進化と変容を議論できるようになる。
4	現代資本主義と企業システムの関係を議論できるようになる。
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

企業、製造業、システム、トヨタ生産方式、資本主義、企業の社会的責任

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・経営学の基礎を修得済みであり、基本的な論点を理解していること。
- ・文献の精読、読解、発表を正しくこなす態度を備えていること。
- ・経営学は金儲けの手段ではないということを理解していること。
- ・現代資本主義の仕組みを理解したうえで利潤とは何かを考えることができること。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	的場 竜一	
	授業内容	オリエンテーション	
第2回	担当教員	的場 竜一	
	授業内容	一冊目テキスト読解①	
第3回	担当教員	的場 竜一	
	授業内容	一冊目テキスト読解②	
第4回	担当教員	的場 竜一	
	授業内容	一冊目テキスト読解③	
第5回	担当教員	的場 竜一	
	授業内容	テキスト評価および総括	
第6回	担当教員	的場 竜一	
	授業内容	二冊目テキスト読解①	
第7回	担当教員	的場 竜一	
	授業内容	二冊目テキスト読解②	
第8回	担当教員	的場 竜一	
	授業内容	二冊目テキスト読解③	
第9回	担当教員	的場 竜一	
	授業内容	テキスト評価および総括	
第10回	担当教員	的場 竜一	
	授業内容	三冊目テキスト読解①	
第11回	担当教員	的場 竜一	
	授業内容	三冊目テキスト読解②	
第12回	担当教員	的場 竜一	
	授業内容	三冊目テキスト読解③	
第13回	担当教員	的場 竜一	
	授業内容	テキスト評価および総括	
第14回	担当教員	的場 竜一	
	授業内容	個人研究計画報告①	
第15回	担当教員	的場 竜一	
	授業内容	個人研究計画報告②	
第16回	担当教員	的場 竜一	
	授業内容	学期末レポートの作成・提出	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

- ・テキストを前もって精読・読解してくること。
- ・週4時間程度の自習を前提とする。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

教科書については第1回目で指示する。また授業中にも適宜指示する。

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	80
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	20
その他	

【成績評価に関する補足】

・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
的場 竜一	木曜	3, 4限	人文棟3階 333的場研究室

【オフィスアワーに関する補足】

前もって予約をするようにお願いします。突然の来訪は対応できない可能性があります。

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| ☐ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☒ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☒ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☒ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
中世日本地域史特論	Local History of Medieval Japan (Advanced)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12B07	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81520471
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校(社会)専修、教免—高校(地理歴史)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	津野 倫明	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

おもに古文書の分析を通して、豊臣期の政治史とくに朝鮮出兵とその国内政治への影響を実証的かつ具体的に考究する。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

--

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	豊臣期政治史に関する学術論文が理解できる。
2	古文書などの史料を解釈できる。
3	古文書などの史料解釈にもとづいて実証的に史実を考えることができる。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

豊臣政権、朝鮮出兵、秀吉死後の政局

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

学部教育で日本史学(中世・近世)に関する科目を履修した者。日本中世後期～近世初期の概説書レベルの知識が必要。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	津野 倫明	
	授業内容	オリエンテーション	
第2回	担当教員	津野 倫明	
	授業内容	蔚山の戦い その1	
第3回	担当教員	津野 倫明	
	授業内容	蔚山の戦い その2	
第4回	担当教員	津野 倫明	
	授業内容	戦況の注進方法 その1	
第5回	担当教員	津野 倫明	
	授業内容	戦況の注進方法 その2	
第6回	担当教員	津野 倫明	
	授業内容	毛利家臣に対する秀吉朱印感状 その1	
第7回	担当教員	津野 倫明	
	授業内容	毛利家臣に対する秀吉朱印感状 その2	
第8回	担当教員	津野 倫明	
	授業内容	毛利家臣に対する毛利輝元感状1 その1	
第9回	担当教員	津野 倫明	
	授業内容	毛利家臣に対する毛利輝元感状1 その2	
第10回	担当教員	津野 倫明	
	授業内容	毛利家臣に対する毛利輝元感状2 その1	
第11回	担当教員	津野 倫明	
	授業内容	毛利家臣に対する毛利輝元感状2 その2	
第12回	担当教員	津野 倫明	
	授業内容	秀吉朱印感状の意義 発給過程の再検討	
第13回	担当教員	津野 倫明	
	授業内容	秀吉朱印感状の意義 公儀—毛利間の「取次」関係	
第14回	担当教員	津野 倫明	
	授業内容	秀吉朱印感状の意義 秀吉側にとっての意義と毛利側にとっての意義	
第15回	担当教員	津野 倫明	
	授業内容	秀吉朱印感状の意義 秀吉死後の政局への影響	
第16回	担当教員	津野 倫明	
	授業内容	期末試験	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

予習は配付する資料(学術論文など)・史料(古文書など)を読むこと。復習は配付する資料(レジメなど)をもとに授業内容を確認すること。計週4時間程度を要する。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

山本博文『幕藩制の成立と近世の国制』など。

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	20
中間試験	
中間レポート	
期末試験	80
期末レポート	
その他	

【成績評価に関する補足】

期末試験80%、学習意欲(授業への積極的な参加)20%、合計100%で評価する。
到達目標1から2については授業における学習態度で確認する。到達目標1から3については期末試験で確認する。

・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
津野 倫明	金曜	5限	人文社会科学部棟 4F418津野研究室

【オフィスアワーに関する補足】

要予約

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| ☐ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☒ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☐ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
中世日本地域史演習	Local History of Medieval Japan (Seminar)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12B08	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81525421
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校(社会)専修、教免—高校(地理歴史)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	津野 倫明	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

講読する地域史関連の史料(日本中世後期～近世初期の日記もしくは文書)にもとづいた口頭発表(史料解釈・関連事項)と議論をおこなう。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

--

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	史料(日記あるいは文書)の解釈ができる。
2	史料(日記あるいは文書)に関連する学術論文等を理解できる。
3	史料(日記あるいは文書)とこれに関連する学術論文等を前提とする議論ができる。
4	史料(日記あるいは文書)とこれに関連する学術論文等にもとづき自身の考えを発表できる。
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

日本中近世、古文書、日記、講読

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

学部教育で日本史学(中世・近世)に関する科目を履修した者。日本中世後期～近世初期の概説書レベルの知識が必要。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	津野 倫明	
	授業内容	オリエンテーション 講読史料の選定など	
第2回	担当教員	津野 倫明	
	授業内容	史料の講読とレポーターによる発表を前提とする議論 その1	
第3回	担当教員	津野 倫明	
	授業内容	史料の講読とレポーターによる発表を前提とする議論 その2	
第4回	担当教員	津野 倫明	
	授業内容	史料の講読とレポーターによる発表を前提とする議論 その3	
第5回	担当教員	津野 倫明	
	授業内容	史料の講読とレポーターによる発表を前提とする議論 その4	
第6回	担当教員	津野 倫明	
	授業内容	史料の講読とレポーターによる発表を前提とする議論 その5	
第7回	担当教員	津野 倫明	
	授業内容	史料の講読とレポーターによる発表を前提とする議論 その6	
第8回	担当教員	津野 倫明	
	授業内容	史料の講読とレポーターによる発表を前提とする議論 その7	
第9回	担当教員	津野 倫明	
	授業内容	史料の講読とレポーターによる発表を前提とする議論 その8	
第10回	担当教員	津野 倫明	
	授業内容	史料の講読とレポーターによる発表を前提とする議論 その9	
第11回	担当教員	津野 倫明	
	授業内容	史料の講読とレポーターによる発表を前提とする議論 その10	
第12回	担当教員	津野 倫明	
	授業内容	史料の講読とレポーターによる発表を前提とする議論 その11	
第13回	担当教員	津野 倫明	
	授業内容	史料の講読とレポーターによる発表を前提とする議論 その12	
第14回	担当教員	津野 倫明	
	授業内容	史料の講読とレポーターによる発表を前提とする議論 その13	
第15回	担当教員	津野 倫明	
	授業内容	史料の講読とレポーターによる発表を前提とする議論 その14	
第16回	担当教員	津野 倫明	
	授業内容		

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

予習ではテキストとして選定した日記もしくは文書の読み、解釈を用意する。また、レポーターの場合には発表用のレジメも用意する。平均して週4時間程度を要する。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

佐藤進一『[新版]古文書学入門』など。

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	60
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	
その他	40

【成績評価に関する補足】

学習意欲(授業中への積極的な参加)60%、発表の内容40%、合計100%で評価する。
到達目標1から3は授業における学習態度で確認する。到達目標4は発表時のレジメの内容で確認する。

・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
津野 倫明	金曜	5限	人文社会科学部棟 4F418津野研究室

【オフィスアワーに関する補足】

要予約

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| ☐ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☒ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☐ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
外国語コミュニケーション論特論	Foreign Language Communication (Advanced)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12D07	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81540272
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免一中学校・高校(英語)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	リングリー	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

文脈」(context)の意味を概観

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

This course provides an introduction to graduate level studies in English as a foreign language with emphasis on the role of 'context.' This is an introductory graduate level course focusing on spoken and written language. Students will be expected to read a variety of materials relating to context, the functions of written and spoken language, and to consider how these relate to pedagogy.

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

--

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	Students will be expected to demonstrate understanding of the readings and be able to apply it to English pedagogy
2	Students should be able to identify basic features of spoken and written texts
3	Students should be able to cope with authentic English in use
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

English

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

Students are expected to have a strong command of English (both speaking and writing skills) to enroll in this class. Communicative ability in English is essential.
--

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	リングリー	
	授業内容	Course Introduction	
第2回	担当教員	リングリー	
	授業内容	Unit A: English in context: Context, Text, and Discourse	
第3回	担当教員	リングリー	
	授業内容	Unit A: English in context: ELF, EIL and World Englishes	
第4回	担当教員	リングリー	
	授業内容	Unit A: English in context: Issues of acceptability	
第5回	担当教員	リングリー	
	授業内容	Unit B: Written and spoken language: Exploring differences between written & spoken language	
第6回	担当教員	リングリー	
	授業内容	Unit B: Written and spoken language: Planned and unplanned discourse	
第7回	担当教員	リングリー	
	授業内容	Unit B: Written and spoken language: Pedagogical applications	
第8回	担当教員	リングリー	
	授業内容	Unit C: Functions of language: Speech act theory	
第9回	担当教員	リングリー	
	授業内容	Unit C: Functions of language: Relationships between speech acts and grammar	
第10回	担当教員	リングリー	
	授業内容	Unit C: Functions of language: Speech act theory and language study	
第11回	担当教員	リングリー	
	授業内容	Unit C: Functions of language: Pragmalinguistics	
第12回	担当教員	リングリー	
	授業内容	Unit D: Cohesion and coherence in English: Lexical cohesion	
第13回	担当教員	リングリー	
	授業内容	Unit D: Cohesion and coherence in English: Studying and teaching cohesion	
第14回	担当教員	リングリー	
	授業内容	Unit D: Cohesion and coherence in English: Coherence and patterns in texts	
第15回	担当教員	リングリー	
	授業内容	Unit D: Cohesion and coherence in English: Developing strategic competencies	
第16回	担当教員	リングリー	
	授業内容	Course wrap and final report	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

Students will be expected to do a significant amount of reading of academic article written in English each week, and prepare to lead the seminar on a selected theme of study each week.

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

All materials provided

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	
その他	100

【成績評価に関する補足】

Course assessment will be based upon strong seminar contribution, student-led seminar in an agreed upon area of study, and end-of-semester report.

・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
リングリー	木曜	1限	Humanities 407

【オフィスアワーに関する補足】

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| ☐ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☒ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☐ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
外国語コミュニケーション論演習	Foreign Language Communication (Seminar)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12D08	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81545222
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免一中学校・高校(英語)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR' S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	リングリー	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

応用言語学で用いられるジャンル分析

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

By the end of this course, students should be able to critically discuss some of the main features of natural conversation, classroom interaction, and spoken language. Prospective teachers should be able to apply course content to their teaching practice.

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

This is an intermediate-level graduate course exploring the features of spoken language in a variety of interaction formats.

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	Identify the main features of conversation
2	Identify features of spoken language
3	Apply course material in English teaching contexts
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

English, genre

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

Students are expected to have a strong command of English (both speaking and writing skills) to enroll in this class. Communicative ability in English is essential.

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	リングリー	
	授業内容	Course Introduction Unit A: Genre analysis: Discourse communities	
第2回	担当教員	リングリー	
	授業内容	Unit A: Genre analysis: Approaches to genre analysis	
第3回	担当教員	リングリー	
	授業内容	Unit A: Genre analysis: Discourse communities	
第4回	担当教員	リングリー	
	授業内容	Unit A: Genre analysis: Pedagogical applications	
第5回	担当教員	リングリー	
	授業内容	Unit B: Conversation analysis: Introduction	
第6回	担当教員	リングリー	
	授業内容	Unit B: Conversation analysis: Turn-taking	
第7回	担当教員	リングリー	
	授業内容	Unit B: Conversation analysis: Repair	
第8回	担当教員	リングリー	
	授業内容	Unit B: Conversation analysis: Pedagogical applications	
第9回	担当教員	リングリー	
	授業内容	Unit C: Classroom interaction language: Introduction	
第10回	担当教員	リングリー	
	授業内容	Unit C: Classroom interaction language: The Sinclair and Coulthard model	
第11回	担当教員	リングリー	
	授業内容	Unit C: Classroom interaction language: Insights into classroom practice	
第12回	担当教員	リングリー	
	授業内容	The nature of spoken language: Introduction	
第13回	担当教員	リングリー	
	授業内容	Unit D: The nature of spoken language: The speech – writing continuum	
第14回	担当教員	リングリー	
	授業内容	Unit D: The nature of spoken language: Interactional speech	
第15回	担当教員	リングリー	
	授業内容	Unit D: The nature of spoken language: Transactional speech	
第16回	担当教員	リングリー	
	授業内容	Final report on spoken language	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

Students will be expected to do a significant amount of reading of academic article written in English each week, and prepare to lead the seminar on a selected theme of study each week.

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

All course materials provided

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	
その他	100

【成績評価に関する補足】

Course assessment will be based upon strong seminar contribution, student-led seminar in an agreed upon area of study, and end-of-semester report.

・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
リングリー	木曜	1限	Humanities 407

【オフィスアワーに関する補足】

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| ☐ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☒ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☐ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
市民社会論特論	History of Civil Society (Advanced)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12F07	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81551471
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免一中学校(社会)専修、教免一高校(公民)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	森 直人	人文社会科学部	naohito.mori@kochi-u.ac.jp

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

スコットランド啓蒙と市民社会: デイヴィッド・ヒュームの道徳哲学と歴史叙述を題材として

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

The Scottish Enlightenment and Civil Society: Rethinking Hume's Moral Philosophy and Historiography

授業の目的【COURSE AIMS】

- ・社会思想史分野の学術文献読解の基本的なスキルを実践し、習得すること
 - ・「市民社会」の思想伝統においても重要な転換点となったスコットランド啓蒙思想について概説的な理解を得ること
 - ・特にその 主要人物であるデイヴィッド・ヒュームの市民社会に関わる思想をめぐる論争状況について、一定の理解を得ること
 - ・以上の理解について、自分自身の文章で表現できること
- * この授業は、グローバル化のもたらす社会的・文化的諸問題を研究する「比較社会文化領域」に属し、それら諸問題を考えるための一つの準拠枠として、西洋における市民社会の思想伝統の意義と問題性を探求する役割を担います。なお、対象とする思想伝統および具体的な思想家については、受講生からの希望があれば、担当教員との相談を経て変更することができます。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

市民社会論演習

授業の概要【COURSE SUMMARY】

この授業では、上述のように、スコットランド啓蒙思想およびヒュームの思想のうち、市民社会の思想伝統に関わる部分について、標準的な理解を確認した上で、専門的な論争状況を把握し、それを自分自身で表現できるようになることを目指します。そのために、標準的な解説書および専門書を学生が読解した上で、教員からのコメントおよび質疑を行う形で授業を進めていきます。なお、授業の対象とする思想伝統および思想家については、受講生の希望により変更する場合があります。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	・社会思想史分野の学術文献読解の基本的なスキルを活用できる
2	「市民社会」の思想伝統においても重要な転換点となったスコットランド啓蒙思想について概説的な理解を得ている
3	その主要人物であるデイヴィッド・ヒュームの市民社会に関わる思想をめぐる論争状況について、一定の理解を得ている
4	以上の理解について、自分自身の文章で表現できる
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

市民社会論、近代、西欧、スコットランド、18世紀、啓蒙、ヒューム

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

この授業では、参加学生の研究関心に応じ、市民社会をめぐる「西洋」の思想伝統の中から特定の思潮または思想家を対象として選択し、その対象についての学術文献の講読を行います。講読においては、学術文献読解のスキルを学びつつ、対象についての通説的理解と専門的な研究状況の把握を行います。学生には、この授業の前提として人文社会科学部授業科目「近代社会論」「社会思想史」に相当する基礎知識と、概説的文献から専門論文まで読み進める意欲および読解力が必要となります。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	森 直人	
	授業内容	オリエンテーション 授業の目的・概要の説明。参加者の希望に応じた内容の調整。リーディング・リストの配布。	
第2回	担当教員	森 直人	
	授業内容	スコットランド啓蒙、市民社会、ヒュームについての概説的理解の把握(1) 英語圏の哲学事典・伝記事典等による概要把握	
第3回	担当教員	森 直人	
	授業内容	スコットランド啓蒙、市民社会、ヒュームについての概説的理解の把握(2) 英語圏の哲学事典・伝記事典等による概要把握	
第4回	担当教員	森 直人	
	授業内容	スコットランド啓蒙とヒュームをめぐる専門的な論争状況について(1) より専門的な文献の読解(Cambridge Companion to Hume, to the Scottish Enlightenment等)	
第5回	担当教員	森 直人	
	授業内容	スコットランド啓蒙とヒュームをめぐる専門的な論争状況について(2) より専門的な文献の読解(Cambridge Companion to Hume, to the Scottish Enlightenment等)	
第6回	担当教員	森 直人	
	授業内容	スコットランド啓蒙とヒュームをめぐる専門的な論争状況について(3) より専門的な文献の読解(Cambridge Companion to Hume, to the Scottish Enlightenment等)	
第7回	担当教員	森 直人	
	授業内容	ヒュームに関する最新の知見の検討(1) 最新の研究の読解と検討(Max Skjönsberg, The Persistence of Party等)	
第8回	担当教員	森 直人	
	授業内容	ヒュームに関する最新の知見の検討(2) 最新の研究の読解と検討(Max Skjönsberg, The Persistence of Party等)	
第9回	担当教員	森 直人	
	授業内容	ヒュームに関する最新の知見の検討(3) 最新の研究の読解と検討(Max Skjönsberg, The Persistence of Party等)	
第10回	担当教員	森 直人	
	授業内容	ヒュームに関する最新の知見の検討(4) 最新の研究の読解と検討(Max Skjönsberg, The Persistence of Party等)	
第11回	担当教員	森 直人	
	授業内容	ヒュームに関する最新の知見の検討(5) 最新の研究の読解と検討(Max Skjönsberg, The Persistence of Party等)	
第12回	担当教員	森 直人	
	授業内容	ヒュームに関する最新の知見の検討(6) 最新の研究の読解と検討(Max Skjönsberg, The Persistence of Party等)	
第13回	担当教員	森 直人	
	授業内容	ヒュームに関する最新の知見の検討(7) 最新の研究の読解と検討(Max Skjönsberg, The Persistence of Party等)	
第14回	担当教員	森 直人	
	授業内容	全体のまとめと期末課題の説明 この学期に読解した内容を振り返り、全体としてどう把握すべきか議論。期末レポートの説明	
第15回	担当教員	森 直人	
	授業内容	期末レポートのチュートリアル 草稿について、教員から質問・コメント	
第16回	担当教員	森 直人	
	授業内容	試験は実施せず、期末レポートを課す。	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

解説書の読解、その内容についての発表準備、読解と議論の内容の記録、専門書の読解、その発表準備、および記録、学期末のレポート作成。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

具体的な教科書・参考書は授業参加者と調整。現時点で予定している文献は以下の通り。

- ・Broadie, Alexander (ed.) 2019. The Cambridge Companion to the Scottish Enlightenment. Cambridge: Cambridge University Press.
- ・Harris, James A. 2015. Hume: An Intellectual Biography. Oxford: Oxford University Press.
- ・Norton, David Fate and Jacqueline Taylor (eds.) 2007. The Cambridge Companion to Hume: second edition . Cambridge: Cambridge University Press.

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	30
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	40
その他	30

【成績評価に関する補足】

・担当時の発表30%、毎回の議論への貢献30%、期末レポート40%にて評価する。・到達目標1・2・3については主に担当時の発表および議論への貢献にて、また到達目標4については主に議論への貢献と期末レポートにて評価する。

・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
森 直人	金曜	2限	研究室(2025年に人文社会科学部棟5階543室から3階304室に移転予定)

【オフィスアワーに関する補足】

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|--|--|
| ☐ 対面のみ | ☒ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☒ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
市民社会論演習	History of Civil Society (Seminar)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12F08	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81556421
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免一中学校(社会)専修、教免一高校(公民)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	森 直人	人文社会科学部	naohito.mori@kochi-u.ac.jp

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

スコットランド啓蒙と市民社会: ヒュームおよび同時代の思想家のテキストの読解から

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

The Scottish Enlightenment and Civil Society: Reading Hume and his Contemporary Thinkers

授業の目的【COURSE AIMS】

- ・ヒュームのテキストを読解し、専門的な研究状況を踏まえて考察する
 - ・ヒュームと同時代の論者のテキストを読解し、専門的な研究状況を踏まえて考察する
 - ・以上の考察を踏まえ、ヒュームおよび同時代の論者のテキストについての自身の見解を提示する
 - ・研究状況と自身の見解を文章で論理的に表現する
- * この授業は、グローバル化をもたらす社会的・文化的諸問題を研究する「比較社会文化領域」に属し、それら諸問題を考えるための一つの準拠枠として、西洋における市民社会の思想伝統の意義と問題性を探求する役割を担います。なお、考察する思想伝統および具体的な思想家については、受講生からの希望があれば、担当教員との相談を経て変更することができます。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

市民社会論特論

授業の概要【COURSE SUMMARY】

この授業では、上述のように、「市民社会論特論」の内容を踏まえつつ、ヒューム自身および同時代の論者の諸著作を自分自身で読解し、専門的な論点について一定の独自性を持った解釈を提示することを目指します。そのために、ヒュームおよび同時代の論者の諸著作の精読、その内容についての教員との議論、関連する専門文献の検索・入手・読解を、教員の助言のもと、学生自身が進めてゆきます。なお、受講生からの希望により、検討対象とする思想家を変更する場合があります。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	・ヒュームのテキストを読解し、専門的な研究状況を踏まえて考察できる
2	・ヒュームと同時代の論者のテキストを読解し、専門的な研究状況を踏まえて考察できる
3	・以上の考察を踏まえ、ヒュームおよび同時代の論者のテキストについての自身の見解を提示できる
4	・先行研究と自身の見解を文章で論理的に表現できる。
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

社会思想史、近代、西欧、スコットランド、18世紀、ヒューム

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

この授業では、「市民社会論特論」における特定の思潮/思想家に関する通説的理解と専門的な議論の状況の把握を前提として、その思潮/思想家に関連する古典的テキストを精読し、その思想内容について考察・議論します。そのため、学生には前提として「市民社会論特論」の履修が必須となります。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	森 直人	
	授業内容	オリエンテーション ヒューム『道徳・政治・文学論集』および原典Essays, Moral, Political and Literaryの読解(2)	
第2回	担当教員	森 直人	
	授業内容	ヒューム『道徳・政治・文学論集』および原典Essays, Moral, Political and Literaryの読解(1) 標記テキストから、政治社会Civil Societyに関わる特定の章を選択し、日英双方のテキストを読解・議論	
第3回	担当教員	森 直人	
	授業内容	ヒューム『道徳・政治・文学論集』および原典Essays, Moral, Political and Literaryの読解(2) 標記テキストから、政治社会Civil Societyに関わる特定の章を選択し、日英双方のテキストを読解・議論	
第4回	担当教員	森 直人	
	授業内容	ヒューム『道徳・政治・文学論集』および原典Essays, Moral, Political and Literaryの読解(3) 標記テキストから、政治社会Civil Societyに関わる特定の章を選択し、日英双方のテキストを読解・議論	
第5回	担当教員	森 直人	
	授業内容	ヒューム『道徳・政治・文学論集』および原典Essays, Moral, Political and Literaryの読解(4) 標記テキストから、政治社会Civil Societyに関わる特定の章を選択し、日英双方のテキストを読解・議論	
第6回	担当教員	森 直人	
	授業内容	ヒューム『道徳・政治・文学論集』および原典Essays, Moral, Political and Literaryの読解(5) 標記テキストから、政治社会Civil Societyに関わる特定の章を選択し、日英双方のテキストを読解・議論	
第7回	担当教員	森 直人	
	授業内容	ヒューム『道徳・政治・文学論集』および原典Essays, Moral, Political and Literaryの読解(6) 標記テキストから、政治社会Civil Societyに関わる特定の章を選択し、日英双方のテキストを読解・議論	
第8回	担当教員	森 直人	
	授業内容	同時代の重要著作の読解(例: Bolingbroke, Political Writings)(1) Bolingbroke, Political Writingsの読解	
第9回	担当教員	森 直人	
	授業内容	同時代の重要著作の読解(例: Bolingbroke, Political Writings)(2) Bolingbroke, Political Writingsの読解	
第10回	担当教員	森 直人	
	授業内容	同時代の重要著作の読解(例: Bolingbroke, Political Writings)(3) Bolingbroke, Political Writingsの読解	
第11回	担当教員	森 直人	
	授業内容	同時代の重要著作の読解(例: Bolingbroke, Political Writings)(4) Bolingbroke, Political Writingsの読解	
第12回	担当教員	森 直人	
	授業内容	同時代の重要著作の読解(例: Bolingbroke, Political Writings)(5) Bolingbroke, Political Writingsの読解	
第13回	担当教員	森 直人	
	授業内容	同時代の重要著作の読解(例: Bolingbroke, Political Writings)(6) Bolingbroke, Political Writingsの読解	
第14回	担当教員	森 直人	
	授業内容	全体のまとめと期末課題の説明 この学期に読解した内容を振り返り、全体としてどう把握すべきか議論。期末レポートの説明	
第15回	担当教員	森 直人	
	授業内容	期末レポートのチュートリアル 草稿について、教員から質問・コメント	
第16回	担当教員	森 直人	
	授業内容	試験は実施せず、期末レポートを課す。	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

- ・ヒュームの諸著作の読解と発表準備
- ・同時代の論者の著作の読解と発表準備
- ・それに関わる専門文献の読解等(市民社会論特論で扱った文献を含む)

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

* 市民社会論特論の文献に加えて、以下の通り。

- ・Hume, David. 1985. Essays, Moral, Political, and Literary. Eugene F. Miller (ed.). Indianapolis: Liberty Fund. [デイヴィッド・ヒューム、田中敏弘訳。2011. ヒューム 道徳・政治・文学論集[完訳版]。名古屋大学出版会。
- ・Bolingbroke. 1997. Political Writings. David Armitage (ed.). Cambridge: Cambridge University Press.

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	30
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	40
その他	30

【成績評価に関する補足】

- ・担当時の発表30%、毎回の議論への貢献30%、期末レポート40%にて評価する。
- ・到達目標1・2・3については主に担当時の発表および議論への貢献にて、また到達目標4については主に期末レポートにて評価する。

- ・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
森 直人	金曜	2限	研究室(2025年に人文社会科学部棟5階543室から3階304室に移転予定)

【オフィスアワーに関する補足】

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|--|--|
| ☐ 対面のみ | ☒ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☒ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
ミクロ経済学特論Ⅱ	Microeconomics (Advanced II)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12J07	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81562271
ナンバリングコード2	81582271
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免一中学校(社会)専修、教免一高校(公民)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	新井 泰弘	人文社会科学部	yarai@kochi-u.ac.jp

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

応用ミクロ経済学

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

Applied Micro Economics

授業の目的【COURSE AIMS】

ミクロ経済学Ⅱや産業組織論等で学んだ基礎知識を用いて様々な事例を分析する

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

産業組織論Ⅱ

授業の概要【COURSE SUMMARY】

ミクロ経済学Ⅱや産業組織論等で学んだ基礎知識を用いて様々な事例を分析する

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	既存の理論モデルを理解する
2	既存の理論モデルを用いて、自分の興味のある問題を分析するための簡単なモデルを作成することができる
3	作成したモデルの拡張を考えることができる。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

ミクロ経済学、産業組織論

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

英語文献の講読を厭わないこと。また、ミクロ経済学の知識と数学的素養(最適化の一階条件、二階条件、ラグランジュ乗数法の理解)が必要となります

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	新井 泰弘	
	授業内容	Introduction	
第2回	担当教員	新井 泰弘	
	授業内容	Nash equilibrium	
第3回	担当教員	新井 泰弘	
	授業内容	Monopoly II	
第4回	担当教員	新井 泰弘	
	授業内容	Monopoly II	
第5回	担当教員	新井 泰弘	
	授業内容	Cournot Competiton I	
第6回	担当教員	新井 泰弘	
	授業内容	Cournot Competiton II	
第7回	担当教員	新井 泰弘	
	授業内容	Mid-term exam	
第8回	担当教員	新井 泰弘	
	授業内容	Monopolistic Competition	
第9回	担当教員	新井 泰弘	
	授業内容	Hotelling Model I	
第10回	担当教員	新井 泰弘	
	授業内容	Hotelling Model II	
第11回	担当教員	新井 泰弘	
	授業内容	Salop Model	
第12回	担当教員	新井 泰弘	
	授業内容	Vertical Differentiation	
第13回	担当教員	新井 泰弘	
	授業内容	M&A I	
第14回	担当教員	新井 泰弘	
	授業内容	M&A II	
第15回	担当教員	新井 泰弘	
	授業内容	M&A III	
第16回	担当教員	新井 泰弘	
	授業内容	Final exam	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

課題と参考文献を各トピックごとに課す。前もって文献を読み込んでおくことを求めます。英語や数学の習熟度に依存しますが、文献の読み込みには4～5時間ほどかかると思われます。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

Oz Shy "Industrial Organization: Theory and Applications" The MIT Press, 1996.

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	
中間試験	30
中間レポート	
期末試験	30
期末レポート	
その他	40

【成績評価に関する補足】

中間試験30%、期末試験30%、課題、レポート40%、合計100%で評価する。到達目標の1については、中間・期末試験や課題で確認する。到達目標2、3については、レポートで確認する。

・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
新井 泰弘	火曜	1限	人文社会科学部 新井研究室

【オフィスアワーに関する補足】

要予約

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| ☐ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☒ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☐ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
ミクロ経済学演習Ⅱ	Microeconomics (Seminar II)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12J08	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81567221
ナンバリングコード2	81587221
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免一中学校(社会)専修、教免一高校(公民)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR' S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	新井 泰弘	人文社会科学部	yarai@kochi-u.ac.jp

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

応用ミクロ経済学

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

Applied Micro Economics

授業の目的【COURSE AIMS】

- ・ミクロ経済学Ⅱや産業組織論等で学んだ基礎知識を用いて様々な事例を分析する
- ・修士論文の研究計画書を仕上げる

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

ミクロ経済学特論I

授業の概要【COURSE SUMMARY】

各人の興味に合わせて先行研究を紹介するので、それを読み込んだ上で報告を行う。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	既存の研究論文を読み込み、理解する
2	既存の研究論文を理解した後、自分でモデルを作成する
3	作成したモデルを基にして修士論文の骨組みを作る
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

ミクロ経済学、産業組織論

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

英語文献の講読を厭わないこと。また、ミクロ経済学の知識と数学的素養(最適化の一階条件、二階条件、ラグランジュ乗数法の理解)が必要となります

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	新井 泰弘	
	授業内容	イントロダクション	
第2回	担当教員	新井 泰弘	
	授業内容	研究計画書の書き方。問題設定	
第3回	担当教員	新井 泰弘	
	授業内容	関連文献の報告①	
第4回	担当教員	新井 泰弘	
	授業内容	関連文献の報告②	
第5回	担当教員	新井 泰弘	
	授業内容	関連文献の報告③	
第6回	担当教員	新井 泰弘	
	授業内容	関連文献の報告③	
第7回	担当教員	新井 泰弘	
	授業内容	研究計画書の中間報告	
第8回	担当教員	新井 泰弘	
	授業内容	関連文献の報告④	
第9回	担当教員	新井 泰弘	
	授業内容	関連文献の報告⑤	
第10回	担当教員	新井 泰弘	
	授業内容	関連文献の報告⑥	
第11回	担当教員	新井 泰弘	
	授業内容	関連文献の報告⑦	
第12回	担当教員	新井 泰弘	
	授業内容	関連文献の報告⑧	
第13回	担当教員	新井 泰弘	
	授業内容	関連文献の報告⑨	
第14回	担当教員	新井 泰弘	
	授業内容	研究計画書最終報告①	
第15回	担当教員	新井 泰弘	
	授業内容	研究計画書最終報告②	
第16回	担当教員	新井 泰弘	
	授業内容	研究計画書最終報告③	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

前もって文献を読み込んでおくことを求めます。英語や数学の習熟度に依存しますが、文献の読み込みには6時間ほどかかると思われます。また、読み込んだ文献を報告してもらいます。報告用資料の作成には2～3時間ほど要すると思われます。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

参考文献は各々の分析対象に応じて適宜指示する

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	40
その他	60

【成績評価に関する補足】

中間報告30%、期末レポート課題40%、報告30%、合計100%で評価する。到達目標の1については、担当個所の報告内容で確認する。到達目標2、3については、期末レポートで確認する。

・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
新井 泰弘	火曜	1限	人文社会科学部 新井研究室

【オフィスアワーに関する補足】

要予約

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| ☐ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☒ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☐ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
日本語コミュニケーション論特論	Japanese Communication (Advanced)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12D09	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81541171
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR' S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	渡辺 裕美	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

日本語教育、音声コミュニケーション

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

音声コミュニケーション研究の中で、日本語教育に関連の深いテーマを取り上げて、日本語の音声コミュニケーションについて知見を深め、分析・記述の方法を学ぶ。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

日本語コミュニケーション論演習

授業の概要【COURSE SUMMARY】

授業では、日本語教育に関連する音声やコミュニケーションをテーマとした論文を取り上げて、論文購読および発表者・受講者間でのディスカッションを行う。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	日本語教育、音声コミュニケーション分野の研究手法を知る。
2	論文を批判的に読むことができるようになる。
3	
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

日本語教育、音声、コミュニケーション、評価

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・日本語教育に興味を持っていること
- ・日本語の音声教育や評価に興味を持っていることが望ましい

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	渡辺 裕美	
	授業内容	オリエンテーション 授業概要の説明および発表ローテーションの決定	
第2回	担当教員	渡辺 裕美	
	授業内容	論文講読、発表とディスカッション	
第3回	担当教員	渡辺 裕美	
	授業内容	論文講読、発表とディスカッション	
第4回	担当教員	渡辺 裕美	
	授業内容	論文講読、発表とディスカッション	
第5回	担当教員	渡辺 裕美	
	授業内容	論文講読、発表とディスカッション	
第6回	担当教員	渡辺 裕美	
	授業内容	論文講読、発表とディスカッション	
第7回	担当教員	渡辺 裕美	
	授業内容	論文講読、発表とディスカッション	
第8回	担当教員	渡辺 裕美	
	授業内容	論文講読、発表とディスカッション	
第9回	担当教員	渡辺 裕美	
	授業内容	論文講読、発表とディスカッション	
第10回	担当教員	渡辺 裕美	
	授業内容	論文講読、発表とディスカッション	
第11回	担当教員	渡辺 裕美	
	授業内容	論文講読、発表とディスカッション	
第12回	担当教員	渡辺 裕美	
	授業内容	論文講読、発表とディスカッション	
第13回	担当教員	渡辺 裕美	
	授業内容	論文講読、発表とディスカッション	
第14回	担当教員	渡辺 裕美	
	授業内容	論文講読、発表とディスカッション	
第15回	担当教員	渡辺 裕美	
	授業内容	論文講読、発表とディスカッション	
第16回	担当教員	渡辺 裕美	
	授業内容	総括レポートの作成・提出	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

授業で扱う論文を読むこと。発表者は論文を批判的に読み、発表レジュメを作成する。必要に応じて、追加情報についても発表できるように準備する。授業後は授業で扱った論文について、批判的に考察しレポートを提出する。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

初回の講義で指示する

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	30
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	40
その他	30

【成績評価に関する補足】

発表担当時の内容30%、毎回の議論における参加度30%、期末レポート40%の総合評価とする。

・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
渡辺 裕美	火曜	4限	人文社会科学部棟 5階 532研究室

【オフィスアワーに関する補足】

その他、相談に応じます。要予約。

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☒ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| ☐ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☒ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☐ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
日本語コミュニケーション論演習	Japanese Communication (Seminar)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12D10	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81546121
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR' S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	渡辺 裕美	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

日本語教育、音声コミュニケーション

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

「日本語コミュニケーション論特論」の内容をふまえ、特に、日本語教育・音声を中心テーマに置き、受講生の関心や研究対象を基にして、研究発表とディスカッションを行う。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

日本語コミュニケーション特論

授業の概要【COURSE SUMMARY】

日本語教育、音声分野の文献・論文を取り上げ、論文購読および発表者・受講者間でのディスカッションを行う。扱う文献・論文は受講者が希望するものを用いる。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	日本語教育、音声コミュニケーション分野の研究手法を知る。
2	日本語教育の諸研究の中で自らの研究を位置づけ、議論することができる。
3	
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

日本語教育、音声、評価

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

・基本的な日本語教育および音声学に関する知識

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	渡辺 裕美	
	授業内容	オリエンテーション 授業概要の説明および発表ローテーションの決定	
第2回	担当教員	渡辺 裕美	
	授業内容	論文講読、発表とディスカッション	
第3回	担当教員	渡辺 裕美	
	授業内容	論文講読、発表とディスカッション	
第4回	担当教員	渡辺 裕美	
	授業内容	論文講読、発表とディスカッション	
第5回	担当教員	渡辺 裕美	
	授業内容	論文講読、発表とディスカッション	
第6回	担当教員	渡辺 裕美	
	授業内容	論文講読、発表とディスカッション	
第7回	担当教員	渡辺 裕美	
	授業内容	論文講読、発表とディスカッション	
第8回	担当教員	渡辺 裕美	
	授業内容	論文講読、発表とディスカッション	
第9回	担当教員	渡辺 裕美	
	授業内容	論文講読、発表とディスカッション	
第10回	担当教員	渡辺 裕美	
	授業内容	論文講読、発表とディスカッション	
第11回	担当教員	渡辺 裕美	
	授業内容	論文講読、発表とディスカッション	
第12回	担当教員	渡辺 裕美	
	授業内容	論文講読、発表とディスカッション	
第13回	担当教員	渡辺 裕美	
	授業内容	論文講読、発表とディスカッション	
第14回	担当教員	渡辺 裕美	
	授業内容	論文講読、発表とディスカッション	
第15回	担当教員	渡辺 裕美	
	授業内容	論文講読、発表とディスカッション	
第16回	担当教員	渡辺 裕美	
	授業内容	総括レポートの作成・提出	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

初回の講義で指示する

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	30
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	40
その他	30

【成績評価に関する補足】

発表担当時の内容30%、毎回の議論における参加度30%、期末レポート40%の総合評価とする。

・ 成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
渡辺 裕美	火曜	4限	人文社会科学部棟 5階 532研究室

【オフィスアワーに関する補足】

その他、相談に応じます。要予約。

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| ☐ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☒ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☐ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
国際金融論特論	International Finance (Advanced)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12J11	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81562471
ナンバリングコード2	81582471
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免一中学校(社会)専修、教免一高校(公民)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	卓 涓涓	人文社会科学部	zhuoji@kochi-u.ac.jp

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

貨幣マクロ経済学

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

Monetary Economics

授業の目的【COURSE AIMS】

国際金融論に関わる論文執筆に必要な理論・実証分析の知識・技術を学びます。

- (1) Real Business Cycleモデルを理解する。
- (2) Money-in-the-Utilityモデルを理解する。
- (3) Cash-in-Advanceモデルを理解する。
- (4) New Keynesianモデルを理解する。
- (5) カリブレーションを修得する。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

国際金融論演習

授業の概要【COURSE SUMMARY】

本講義では、貨幣マクロ経済学に関する教科書を輪読することで、Money-in-the-Utilityモデル、Cash-in-Advanceモデル、New Keynesianモデルなどの動学的一般均衡モデルを学習し、また、動学的最適化問題の解法としてDYNAREなどを用いたカリブレーション分析を取り上げます。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	Real Business Cycleモデルが説明できる。
2	Money-in-the-Utilityモデルが説明できる。
3	Cash-in-Advanceモデルが説明できる。
4	New Keynesianモデルが説明できる。
5	MATLAB、DYNAREを用いたカリブレーション分析を行えるようになる。
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

動学的一般均衡モデル、カリブレーション

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

学部レベルのマクロ経済学の知識、および、初等解析学(微積分)、差分方程式に関する知識を前提とします。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	卓 涓涓	
	授業内容	ガイダンス 授業の概要や学習の進め方などを説明し、報告ローテーションを決定します。	
第2回	担当教員	卓 涓涓	
	授業内容	Ramsey Model 作成したレジュメに基づき、報告・討論を行います。	
第3回	担当教員	卓 涓涓	
	授業内容	Hansen's RBC Model 作成したレジュメに基づき、報告・討論を行います。	
第4回	担当教員	卓 涓涓	
	授業内容	Log-linear Approximation 作成したレジュメに基づき、報告・討論を行います。	
第5回	担当教員	卓 涓涓	
	授業内容	Solving the log-linear model 作成したレジュメに基づき、報告・討論を行います。	
第6回	担当教員	卓 涓涓	
	授業内容	Dynamic Programming 作成したレジュメに基づき、報告・討論を行います。	
第7回	担当教員	卓 涓涓	
	授業内容	Calibration 作成したレジュメに基づき、報告・討論を行います。	
第8回	担当教員	卓 涓涓	
	授業内容	Money-in-the-Utility Function 作成したレジュメに基づき、報告・討論を行います。	
第9回	担当教員	卓 涓涓	
	授業内容	Shopping Time Model 作成したレジュメに基づき、報告・討論を行います。	
第10回	担当教員	卓 涓涓	
	授業内容	Cash-in-Advance Model 作成したレジュメに基づき、報告・討論を行います。	
第11回	担当教員	卓 涓涓	
	授業内容	Cagan Model 作成したレジュメに基づき、報告・討論を行います。	
第12回	担当教員	卓 涓涓	
	授業内容	Lucas Imperfect-Information Model 作成したレジュメに基づき、報告・討論を行います。	
第13回	担当教員	卓 涓涓	
	授業内容	Sticky-Wage MIU Model 作成したレジュメに基づき、報告・討論を行います。	
第14回	担当教員	卓 涓涓	
	授業内容	New Keynesian Model①: Closed Economy 作成したレジュメに基づき、報告・討論を行います。	
第15回	担当教員	卓 涓涓	
	授業内容	New Keynesian Model②: Open Economy 作成したレジュメに基づき、報告・討論を行います。	
第16回	担当教員	卓 涓涓	
	授業内容	総括レポートの提出 総括レポートを提出します。	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

事前学習として、各回のテキストの該当する部分を読み、式の導出過程を含め、予習しておいてください。また、事後学習として、練習問題を解き、授業中に配布する関連文献を読んでください。さらに、MATLAB、DYNAREなどによるプログラミングの実習も行ってください。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

- ・Carl E. Walsh. 2017. Monetary Theory and Policy, Fourth Edition. MIT Press. ISBN: 9780262035811.
- ・George McCallless. 2008. The ABCs of RBCs: An Introduction to Dynamic Macroeconomic Models. Harvard University Press. ISBN 9780674028142.
- ・Jordi Galí. 2015. Monetary Policy, Inflation, and the Business Cycle: An Introduction to the New Keynesian Framework and Its Applications, Second Edition. Princeton University Press. ISBN: 9780691164786.

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	30
その他	70

【成績評価に関する補足】

- ・報告内容70%、総括レポート30%、合計100%で評価します。
- ・到達目標①～④は、毎回の報告内容により評価します。到達目標⑤については、報告内容に加え、総括レポートと合わせて評価します。

- ・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィシアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
卓 涓涓	木曜	3限	人文社会科学部棟3階卓研究室

【オフィシアワーに関する補足】

--

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| ☐ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☒ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☐ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
国際金融論演習	International Finance (Seminar)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12J12	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81567421
ナンバリングコード2	81587421
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免一中学校(社会)専修、教免一高校(公民)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	卓 涓涓	人文社会科学部	zhuoji@kochi-u.ac.jp

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

時系列分析入門

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

Introduction to Time Series Analysis

授業の目的【COURSE AIMS】

国際金融論に関わる論文執筆に必要な実証分析の知識・技術を学びます。

- (1) 定常性を理解する。
- (2) 単位根検定を修得する。
- (3) 共変分析を修得する。
- (4) Grangerの因果性検定、インパルス応答関数分析および予測誤差の分散分解分析を修得する。
- (5) Stataによるプログラミングの基礎を修得する。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

国際金融論特論

授業の概要【COURSE SUMMARY】

本講義では、テキストの輪読と統計ソフトを用いた実習を行うことにより、時系列分析の基礎、Stataによるプログラミングの知識などを学び、実証分析を行う上で最低限必要な知識・技能を身につけます。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	定常性が説明できる。
2	単位根検定を行えるようになる。
3	共和分分析を行えるようになる。
4	Grangerの因果性検定、インパルス応答関数分析および予測誤差の分散分解分析を行えるようになる。
5	Stataを用いた時系列データ分析を行えるようになる。
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

単位根、共和分、VARモデル、インパルス応答関数、分散分解

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

学部レベルの計量経済学の知識は既に習得済みであることを条件とします。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	卓 涓涓	
	授業内容	ガイダンス 授業の概要や学習の進め方などを説明します。	
第2回	担当教員	卓 涓涓	
	授業内容	Basic Concepts in Time Series Analysis① 作成したレジュメに基づき、報告・討論を行います。	
第3回	担当教員	卓 涓涓	
	授業内容	Basic Concepts in Time Series Analysis② 作成したレジュメに基づき、報告・討論を行います。	
第4回	担当教員	卓 涓涓	
	授業内容	Basic Concepts in Time Series Analysis③ 作成したレジュメに基づき、報告・討論を行います。	
第5回	担当教員	卓 涓涓	
	授業内容	Basic Concepts in Time Series Analysis④ 作成したレジュメに基づき、報告・討論を行います。	
第6回	担当教員	卓 涓涓	
	授業内容	Unit Roots① 作成したレジュメに基づき、報告・討論を行います。	
第7回	担当教員	卓 涓涓	
	授業内容	Unit Roots② 作成したレジュメに基づき、報告・討論を行います。	
第8回	担当教員	卓 涓涓	
	授業内容	Unit Roots③ 作成したレジュメに基づき、報告・討論を行います。	
第9回	担当教員	卓 涓涓	
	授業内容	Cointegration① 作成したレジュメに基づき、報告・討論を行います。	
第10回	担当教員	卓 涓涓	
	授業内容	Cointegration② 作成したレジュメに基づき、報告・討論を行います。	
第11回	担当教員	卓 涓涓	
	授業内容	Cointegration③ 作成したレジュメに基づき、報告・討論を行います。	
第12回	担当教員	卓 涓涓	
	授業内容	Vector Autoregression Model① 作成したレジュメに基づき、報告・討論を行います。	
第13回	担当教員	卓 涓涓	
	授業内容	Vector Autoregression Model② 作成したレジュメに基づき、報告・討論を行います。	
第14回	担当教員	卓 涓涓	
	授業内容	Vector Autoregression Model③ 作成したレジュメに基づき、報告・討論を行います。	
第15回	担当教員	卓 涓涓	
	授業内容	Vector Autoregression Model④ 作成したレジュメに基づき、報告・討論を行います。	
第16回	担当教員	卓 涓涓	
	授業内容	総括レポートの提出 総括レポートを提出します。	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

事前学習として、各回のテキストの該当する部分を読み、式の導出過程を含め、予習しておいてください。また、事後学習として、練習問題を解き、授業中に配布する関連文献を読んでください。さらに、Stataによるプログラミングの実習も行ってください。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

・G. S. Maddala and In-Moo Kim. 1999. Unit Roots, Cointegration, and Structural Change. Cambridge University Press. ISBN: 9780521587822.
 ・James D. Hamilton. 1994. Time Series Analysis. Princeton University Press. ISBN: 9780691042893.

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	30
その他	70

【成績評価に関する補足】

・報告内容70%、総括レポート30%、合計100%で評価します。
 ・到達目標①～④は、毎回の報告内容により評価します。到達目標⑤については、報告内容に加え、総括レポートと合わせて評価します。

・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
卓 涓涓	木曜	3限	人文社会科学部棟3階卓研究室

【オフィスアワーに関する補足】

事前にメールで予約

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| ☐ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☒ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☐ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
刑事司法特論	Criminal Justice System (Advanced)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12G11	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81592271
ナンバリングコード2	81562271
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免一中学校(社会)専修、教免一高校(公民)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	稲田 朗子	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

刑事司法の現代的諸問題

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

- ・刑事司法に関する学術論文の講読・検討
- ・刑事裁判史、刑事訴訟法の基本原則、刑事人権の基本的諸論点の理解。
- ・刑法司法の現代的諸問題の考察。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

刑事司法演習

授業の概要【COURSE SUMMARY】

刑事手続に関する学術論文から、受講生の問題関心を考慮した上で検討対象とする論文をピックアップして、講読・検討を行う。上記の検討により、主として刑事裁判史、刑事訴訟法の基本原則、その他刑事人権に関する理解といった基本的知識ないし能力を応用して、刑事司法の現代的諸問題を考察する。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	自分の問題関心にそった刑事司法に関する学術論文を、ピックアップする。
2	受講生がピックアップした学術論文を講読する。
3	講読した学術論文について検討する。
4	講読した学術論文について評価する。
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

刑事司法、刑事訴訟法、刑事人権

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・刑事司法について、自分の問題関心を他者に説明できること。
- ・自分の問題関心にそった書籍や学術論文を読んでいること。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	稲田 朗子	
	授業内容	オリエンテーション 授業の概要説明。報告ローテーションの決定。	
第2回	担当教員	稲田 朗子	
	授業内容	文献の検討(1) 報告と議論	
第3回	担当教員	稲田 朗子	
	授業内容	文献の検討(2) 報告と議論	
第4回	担当教員	稲田 朗子	
	授業内容	文献の検討(3) 報告と議論	
第5回	担当教員	稲田 朗子	
	授業内容	文献の検討(4) 報告と議論	
第6回	担当教員	稲田 朗子	
	授業内容	文献の検討(5) 報告と議論	
第7回	担当教員	稲田 朗子	
	授業内容	文献の検討(6) 報告と議論	
第8回	担当教員	稲田 朗子	
	授業内容	文献の検討(7) 報告と議論	
第9回	担当教員	稲田 朗子	
	授業内容	文献の検討(8) 報告と議論	
第10回	担当教員	稲田 朗子	
	授業内容	文献の検討(9) 報告と議論	
第11回	担当教員	稲田 朗子	
	授業内容	文献の検討(10) 報告と議論	
第12回	担当教員	稲田 朗子	
	授業内容	文献の検討(11) 報告と議論	
第13回	担当教員	稲田 朗子	
	授業内容	文献の検討(12) 報告と議論	
第14回	担当教員	稲田 朗子	
	授業内容	期末レポートの構想報告(1) 受講生による期末レポートの構想報告	
第15回	担当教員	稲田 朗子	
	授業内容	期末レポートの構想報告(2) 受講生による期末レポートの構想報告	
第16回	担当教員	稲田 朗子	
	授業内容	期末レポート作成・提出 期末レポート作成・執筆	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

- ・検討する学術論文を探すこと。
- ・検討する学術論文の精読。
- ・報告レジュメの作成。
- ・最低でも週4時間程度の自主的研究を基本とする。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

参考書

森尾亮＝森川恭剛＝岡田行雄編著『人間回復の刑事法学』（日本評論社、2010年）

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	40
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	30
その他	30

【成績評価に関する補足】

- ・報告30%、授業への参画・貢献40%、期末レポート30%
- ・到達目標1～3は、授業への参画・貢献で確認する。到達目標4は、授業への参画・貢献及び期末レポートで確認する。

- ・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
稲田 朗子	木曜	3限	稲田研究室（人文社会科学部棟3階）

【オフィスアワーに関する補足】

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| ☐ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☒ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☐ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
刑事司法演習	Criminal Justice System (Seminar)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12G12	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81597221
ナンバリングコード2	81567221
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免一中学校(社会)専修、教免一高校(公民)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	稲田 朗子	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

現代社会における刑事司法

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

- ・刑罰論、刑罰制度に関する学術論文の講読・検討
- ・刑罰論、刑罰制度の基本的諸論点の理解。
- ・刑事司法の現代的諸問題の考察。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

刑事司法特論

授業の概要【COURSE SUMMARY】

受講生の問題関心を考慮した上で、主に刑罰制度に関する論点をピックアップし、研究報告とそれを受けての議論を行うことにより、現代における刑事司法の実体分析を行う。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	自分の問題関心にそった刑法各論の学術論文を、ピックアップする。
2	受講生がピックアップした学術論文を講読する。
3	講読した学術論文について検討する。
4	講読した学術論文について評価する。
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

刑罰論、刑事政策、犯罪学、刑事司法

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・刑罰論、刑罰制度において、自分の問題関心を他者に説明できること。
- ・自分の問題関心にそった書籍や学術論文を読んでいること。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	稲田 朗子	
	授業内容	オリエンテーション 授業の概要説明。報告ローテーションの決定。	
第2回	担当教員	稲田 朗子	
	授業内容	文献の検討(1) 報告と議論	
第3回	担当教員	稲田 朗子	
	授業内容	文献の検討(2) 報告と議論	
第4回	担当教員	稲田 朗子	
	授業内容	文献の検討(3) 報告と議論	
第5回	担当教員	稲田 朗子	
	授業内容	文献の検討(4) 報告と議論	
第6回	担当教員	稲田 朗子	
	授業内容	文献の検討(5) 報告と議論	
第7回	担当教員	稲田 朗子	
	授業内容	文献の検討(6) 報告と議論	
第8回	担当教員	稲田 朗子	
	授業内容	文献の検討(7) 報告と議論	
第9回	担当教員	稲田 朗子	
	授業内容	文献の検討(8) 報告と議論	
第10回	担当教員	稲田 朗子	
	授業内容	文献の検討(9) 報告と議論	
第11回	担当教員	稲田 朗子	
	授業内容	文献の検討(10) 報告と議論	
第12回	担当教員	稲田 朗子	
	授業内容	文献の検討(11) 報告と議論	
第13回	担当教員	稲田 朗子	
	授業内容	文献の検討(12) 報告と議論	
第14回	担当教員	稲田 朗子	
	授業内容	期末レポートの構想報告(1) 受講生による期末レポートの構想報告	
第15回	担当教員	稲田 朗子	
	授業内容	期末レポートの構想報告(2) 受講生による期末レポートの構想報告	
第16回	担当教員	稲田 朗子	
	授業内容	期末レポート作成・提出 期末レポート作成・提出	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

- ・検討する学術論文を探すこと。
- ・検討する学術論文の精読。
- ・報告レジュメの作成。
- ・最低でも週4時間程度の自主的研究を基本とする。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

参考書

森尾亮＝森川恭剛＝岡田行雄編著『人間回復の刑事法学』（日本評論社、2010年）

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	40
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	30
その他	30

【成績評価に関する補足】

- ・報告30%、授業への参画・貢献40%、期末レポート30%
- ・到達目標1～3は、授業への参画・貢献で確認する。到達目標4は、授業への参画・貢献及び期末レポートで確認する。

- ・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
稲田 朗子	木曜	3限	稲田研究室（人文社会科学部棟3階）

【オフィスアワーに関する補足】

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| ☐ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☒ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☐ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
財政学特論	Public Finance (Advanced)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12J13	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81561371
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免一高校(商業)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR' S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	霜田 博史	人文社会科学部	
2			
3			
4			
5			

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

現代日本の財政制度の諸課題を検討する

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

Examining the issues facing Japan's fiscal system

授業の目的【COURSE AIMS】

社会科学研究コースにおける経済学の応用分野について学ぶ

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

財政学演習

授業の概要【COURSE SUMMARY】

現代日本の財政制度の実態を取り上げ、抱えている課題について多角的に検討することを目的とする。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	日本の財政制度のありようを理解する
2	日本の財政制度の課題について理解する
3	財政制度の課題について、先行研究が何を問題にしているのか理解する
4	先行研究について、自身の立場と見解を説明できるようになる
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

財政制度、財政政策

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

特になし。積極的な参加態度を期待します。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	霜田 博史	
	授業内容	イントロダクション:授業のガイダンスとテキスト選定に関する打ち合わせ	
第2回	担当教員	霜田 博史	
	授業内容	参加者の研究テーマに関する意見交流とテキスト報告の割り振り	
第3回	担当教員	霜田 博史	
	授業内容	テキスト1冊目の検討(1)	
第4回	担当教員	霜田 博史	
	授業内容	テキスト1冊目の検討(2)	
第5回	担当教員	霜田 博史	
	授業内容	テキスト1冊目の検討(3)	
第6回	担当教員	霜田 博史	
	授業内容	テキスト1冊目の検討(4)	
第7回	担当教員	霜田 博史	
	授業内容	テキスト1冊目の検討(5)	
第8回	担当教員	霜田 博史	
	授業内容	テキスト1冊目の検討(6)	
第9回	担当教員	霜田 博史	
	授業内容	テキスト1冊目に関する総合討論	
第10回	担当教員	霜田 博史	
	授業内容	テキスト2冊目の検討(1)	
第11回	担当教員	霜田 博史	
	授業内容	テキスト2冊目の検討(2)	
第12回	担当教員	霜田 博史	
	授業内容	テキスト2冊目の検討(3)	
第13回	担当教員	霜田 博史	
	授業内容	テキスト2冊目の検討(4)	
第14回	担当教員	霜田 博史	
	授業内容	テキスト2冊目の検討(5)	
第15回	担当教員	霜田 博史	
	授業内容	テキスト2冊目に関する総合討論	
第16回	担当教員		
	授業内容		

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

テキストの独習はもちろんのこと、報告の準備が必要になる。おおむね、毎回4時間程度の準備が必要となる。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

参加者と相談のうえ、第1回の授業で決定する。2冊を選び検討する予定。

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	50
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	
その他	50

【成績評価に関する補足】

その他は、担当になったときに行う報告内容で評価する。

・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
霜田博史	月曜日	2限	研究室(人文社会科学部棟3階)

【オフィスアワーに関する補足】

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☒ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☒ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☒ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☒ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☒ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|--|--|
| ☒ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☐ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☒ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目		英文科目名【Course Title】	
財政学演習		Public Finance (Seminar)	
授業コード【Course Code】		単位数【Course Credits(Units)】	
12J14		2	
授業種別【Course Classification】		履修開始年次	
演習		1	
開講学期【Semester】		時間割【Day/Period】	
第2学期			
科目区分等			
平成27年度以降		大学院科目	
▶ナンバリングコード			
ナンバリングコード1			
ナンバリングコード2			
ナンバリングコード3			
ナンバリングコード4			
ナンバリングコード5			
ナンバリングコード6			
ナンバリングコード7			
ナンバリングコード8			
地域関連科目区分		COC+Phase	
履修における注意点			
資格等			
教免一高校(商業)専修			
メディア授業科目			

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR' S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	霜田 博史	人文社会科学部	
2			
3			
4			
5			

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

課題解決方法を念頭においた財政政策に対する批判的検討

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

Critical Review of Fiscal Policy

授業の目的【COURSE AIMS】

財政学特論と合わせ、経済学の応用分野について学ぶ。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

財政学特論

授業の概要【COURSE SUMMARY】

日本の財政政策のありようをとりあげ、討論形式でその評価を具体的に検討する。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	日本の財政政策のありようを理解する
2	日本の財政政策の課題について理解する
3	財政政策について、先行研究が何を問題にしているのか理解する
4	先行研究について、自身の立場と見解を説明できるようになる
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

財政政策、財政制度、財政学

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

特になし。積極的な参加態度を期待します。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	霜田 博史	
	授業内容	イントロダクション:授業のガイダンスとテキスト選定に関する打ち合わせ	
第2回	担当教員	霜田 博史	
	授業内容	参加者の研究テーマに関する意見交流とテキスト報告の割り振り	
第3回	担当教員	霜田 博史	
	授業内容	テキスト1冊目の検討(1)	
第4回	担当教員	霜田 博史	
	授業内容	テキスト1冊目の検討(2)	
第5回	担当教員	霜田 博史	
	授業内容	テキスト1冊目の検討(3)	
第6回	担当教員	霜田 博史	
	授業内容	テキスト1冊目の検討(4)	
第7回	担当教員	霜田 博史	
	授業内容	テキスト1冊目の検討(5)	
第8回	担当教員	霜田 博史	
	授業内容	テキスト1冊目の検討(6)	
第9回	担当教員	霜田 博史	
	授業内容	テキスト1冊目に関する総合討論	
第10回	担当教員	霜田 博史	
	授業内容	テキスト2冊目の検討(1)	
第11回	担当教員	霜田 博史	
	授業内容	テキスト2冊目の検討(2)	
第12回	担当教員	霜田 博史	
	授業内容	テキスト2冊目の検討(3)	
第13回	担当教員	霜田 博史	
	授業内容	テキスト2冊目の検討(4)	
第14回	担当教員	霜田 博史	
	授業内容	テキスト2冊目の検討(5)	
第15回	担当教員	霜田 博史	
	授業内容	テキスト2冊目に関する総合討論	
第16回	担当教員		
	授業内容		

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

テキストの独習はもちろんのこと、報告の準備が必要になる。おおむね、毎回4時間程度の準備が必要となる。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

参加者と相談のうえ、第1回の授業で決定する。2冊を選び検討する予定。

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	50
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	
その他	50

【成績評価に関する補足】

その他は、担当になったときに行う報告内容で評価する。

・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
霜田博史	月曜日	2限	研究室(人文社会科学部棟3階)

【オフィスアワーに関する補足】

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☒ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☒ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☒ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☒ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☒ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|--|--|
| ☒ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☐ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☒ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
近代日本地域史特論	Local History of Modern Japan (Advanced)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12B15	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81520871
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校(社会)専修、教免—高校(地理歴史)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	小幡 尚	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

「地域と戦争・軍」についての史的研究

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

地域の歴史を研究するための前提を知り、その方法を学ぶ。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

「地域と戦争・軍」についての諸相を具体的に講じていく。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	日本近代史の基礎的な知識と、地域の歴史を有機的に関連させて考えることができる。
2	地域についての近代史史料を読解することができる。
3	
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

近代史、戦争、軍、地域

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

史実に対する興味。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	小幡 尚	
	授業内容	ガイダンス	
第2回	担当教員	小幡 尚	
	授業内容	「地域と戦争・軍」についての先行研究について(1)	
第3回	担当教員	小幡 尚	
	授業内容	「地域と戦争・軍」についての先行研究について(2)	
第4回	担当教員	小幡 尚	
	授業内容	「地域と戦争・軍」についての先行研究について(3)	
第5回	担当教員	小幡 尚	
	授業内容	日清戦争と地域	
第6回	担当教員	小幡 尚	
	授業内容	日清戦争と高知	
第7回	担当教員	小幡 尚	
	授業内容	日露戦争と地域	
第8回	担当教員	小幡 尚	
	授業内容	日露戦争と高知(1)	
第9回	担当教員	小幡 尚	
	授業内容	日露戦争と高知(2)	
第10回	担当教員	小幡 尚	
	授業内容	日中戦争と地域	
第11回	担当教員	小幡 尚	
	授業内容	日中戦争と高知	
第12回	担当教員	小幡 尚	
	授業内容	アジア・太平洋戦争と地域	
第13回	担当教員	小幡 尚	
	授業内容	アジア・太平洋戦争と高知	
第14回	担当教員	小幡 尚	
	授業内容	アジア・太平洋戦争と四国	
第15回	担当教員	小幡 尚	
	授業内容	総括	
第16回	担当教員	小幡 尚	
	授業内容		

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

関連書籍をたくさん読む。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

未定

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	
その他	100

【成績評価に関する補足】

小テスト・小レポートをそれぞれ5回程度課す。さらに、最終レポートを課す。それを基準として採点する。

・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
小幡 尚	月曜	2限	小幡尚研究室(人文学部4階413)

【オフィスアワーに関する補足】

要連絡

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| ☐ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☒ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☐ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
近代日本地域史演習	Local History of Modern Japan (Seminar)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12B16	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81525821
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校(社会)専修、教免—高校(地理歴史)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	小幡 尚	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

日本近代史の基礎的文献と史料の講読

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

日本近代史の基礎的文献と史料を講読する。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

日本近代史の基礎的文献と史料の講読

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	日本近代史に関する文献を十全に読解できる。
2	日本近代史に関する史料を十全に解読できる。
3	
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

日本近代史、史料、文献

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

真面目に取り組むこと。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	小幡 尚	
	授業内容	ガイダンス	
第2回	担当教員	小幡 尚	
	授業内容	文献の講読(1) 政治史	
第3回	担当教員	小幡 尚	
	授業内容	文献の講読(2) 政治史	
第4回	担当教員	小幡 尚	
	授業内容	文献の講読(3) 政治史	
第5回	担当教員	小幡 尚	
	授業内容	文献の講読(4) 戦史	
第6回	担当教員	小幡 尚	
	授業内容	文献の講読(5) 戦史	
第7回	担当教員	小幡 尚	
	授業内容	文献の講読(6) 社会史	
第8回	担当教員	小幡 尚	
	授業内容	文献の講読(7) 社会史	
第9回	担当教員	小幡 尚	
	授業内容	史料の講読(1) 政治史	
第10回	担当教員	小幡 尚	
	授業内容	史料の講読(2) 政治史	
第11回	担当教員	小幡 尚	
	授業内容	史料の講読(3) 回顧録 政治家	
第12回	担当教員	小幡 尚	
	授業内容	史料の講読(4) 回顧録 政治家	
第13回	担当教員	小幡 尚	
	授業内容	史料の講読(5) 回顧録 軍人	
第14回	担当教員	小幡 尚	
	授業内容	史料の講読(6) 回顧録 兵士	
第15回	担当教員	小幡 尚	
	授業内容	総括	
第16回	担当教員	小幡 尚	
	授業内容		

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

文献・史料をたくさん読む。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

授業中に指示する

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL 】

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	
その他	100

【成績評価に関する補足】

すべての授業において何らかの報告をしてもらう。それを材料として評価する。

・ 成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
小幡 尚	月曜	2限	小幡尚研究室(人文学部4階413)

【オフィスアワーに関する補足】

要連絡

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| ☐ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☒ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☐ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
日本近代文学論特論	Advanced Studies in Modern Japanese Literature
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12C15	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81530671
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校・高校(国語)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	田鎖 数馬	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

・授業のテーマは、大江健三郎の作品の中で、個人と共同体との関係がどのように描写されて、その関係がいかに変遷しているのかを把握していくことである。
 ・この授業は、人文科学研究コースの中で、日本、中国、アメリカ、イギリスの言語文化について様々な観点から研究する「言語文化領域」に属する科目である。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

--

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	大江健三郎の作品の特質のうち、これまで理解していることをもとに、新たに理解したことを1つ以上説明できる。
2	大江健三郎に関する研究動向を自らの立場から批判的に考察することができる。
3	大江健三郎作品の中で描写される個人と共同体との関係についての自らの解釈を整理して、他者と議論することができる。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

日本現代文学 大江健三郎 谷間の村 共同体

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

日本近代文学史の基本的な知識があること。大江健三郎の小説のうちのいくつかを読んでおくこと。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	田鎖 数馬	
	授業内容	オリエンテーション 授業の概要説明。報告ローテーションの決定。文献収集についてのアドバイス	
第2回	担当教員	田鎖 数馬	
	授業内容	大江健三郎「飼育」 輪読・報告とディスカッション	
第3回	担当教員	田鎖 数馬	
	授業内容	大江健三郎『個人的な体験』 輪読・報告とディスカッション	
第4回	担当教員	田鎖 数馬	
	授業内容	大江健三郎『個人的な体験』(2) 輪読・報告とディスカッション	
第5回	担当教員	田鎖 数馬	
	授業内容	大江健三郎『万延元年のフットボール』(1) 輪読・報告とディスカッション	
第6回	担当教員	田鎖 数馬	
	授業内容	大江健三郎『万延元年のフットボール』(2) 輪読・報告とディスカッション	
第7回	担当教員	田鎖 数馬	
	授業内容	大江健三郎『万延元年のフットボール』(3) 輪読・報告とディスカッション	
第8回	担当教員	田鎖 数馬	
	授業内容	大江健三郎『同時代ゲーム』(1) 輪読・報告とディスカッション	
第9回	担当教員	田鎖 数馬	
	授業内容	大江健三郎『同時代ゲーム』(2) 輪読・報告とディスカッション	
第10回	担当教員	田鎖 数馬	
	授業内容	大江健三郎『M/Tと森のフシギの物語』(1) 輪読・報告とディスカッション	
第11回	担当教員	田鎖 数馬	
	授業内容	大江健三郎『M/Tと森のフシギの物語』(2) 輪読・報告とディスカッション	
第12回	担当教員	田鎖 数馬	
	授業内容	大江健三郎『懐かしい年への手紙』(1) 輪読・報告とディスカッション	
第13回	担当教員	田鎖 数馬	
	授業内容	大江健三郎『懐かしい年への手紙』(2) 輪読・報告とディスカッション	
第14回	担当教員	田鎖 数馬	
	授業内容	大江健三郎『燃えあがる緑の木』(1) 輪読・報告とディスカッション	
第15回	担当教員	田鎖 数馬	
	授業内容	大江健三郎『燃えあがる緑の木』(2) 輪読・報告とディスカッション	
第16回	担当教員	田鎖 数馬	
	授業内容	総括レポートの作成・提出 総括レポートの作成・提出	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

- ・作品本文の精読と報告資料の作成。授業に関連する資料の収集。
- ・最低でも週4時間程度の自主的研究を基本とする。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

『大江健三郎小説』全10巻(1996年～1997年、新潮社)

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	40
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	20
その他	40

【成績評価に関する補足】

- ・担当時の報告内容40%、毎回の議論における参加態度40%、期末レポート20%の総合評価とする。
- ・到達目標①と③は、毎回の授業態度の中で評価する。また、到達目標②は、毎回の授業態度と期末レポートによって評価する。

- ・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
田鎖 数馬	木曜	1限	人文社会学部棟5階 田鎖数馬研究室

【オフィスアワーに関する補足】

要予約

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☒ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| ☐ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☒ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☐ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
日本近代文学論演習	Modern Japanese Literature (Seminar)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12C16	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81535621
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校・高校(国語)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	田鎖 数馬	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

- ・授業テーマは、先行研究を読み、論文執筆のための方法論を身に付けることである。
- ・この授業は、人文科学研究コースの中で、日本、中国、アメリカ、イギリスの言語文化について様々な観点から研究する「言語文化領域」に属する科目である。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

--

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	先行研究の方法論について、これまで理解していることをもとに、新たに理解したことを1つ以上説明できる。
2	自らが興味のある分野の先行研究を自らの立場から批判的に考察することができる。
3	先行研究に対する自らの立場を的確に表現し、他者と議論することができる。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

日本近代文学 論文講読

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

日本近代文学史の基本的な知識があること。先行研究に対する批判的な考察を行うこと。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	田鎖 数馬	
	授業内容	授業概要説明	
第2回	担当教員	田鎖 数馬	
	授業内容	文献講読(1)	
第3回	担当教員	田鎖 数馬	
	授業内容	文献講読(2)	
第4回	担当教員	田鎖 数馬	
	授業内容	文献講読(3)	
第5回	担当教員	田鎖 数馬	
	授業内容	文献講読(4)	
第6回	担当教員	田鎖 数馬	
	授業内容	文献講読(5)	
第7回	担当教員	田鎖 数馬	
	授業内容	文献講読(6)	
第8回	担当教員	田鎖 数馬	
	授業内容	文献講読(7)	
第9回	担当教員	田鎖 数馬	
	授業内容	文献講読(8)	
第10回	担当教員	田鎖 数馬	
	授業内容	文献講読(9)	
第11回	担当教員	田鎖 数馬	
	授業内容	文献講読(10)	
第12回	担当教員	田鎖 数馬	
	授業内容	文献講読(11)	
第13回	担当教員	田鎖 数馬	
	授業内容	文献講読(12)	
第14回	担当教員	田鎖 数馬	
	授業内容	文献講読(13)	
第15回	担当教員	田鎖 数馬	
	授業内容	文献講読(14)	
第16回	担当教員	田鎖 数馬	
	授業内容	総括レポートの作成・提出	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

- ・先行研究で取り上げられている作品の精読と、先行研究に対する批判的な考察を行う。
- ・最低でも週4時間程度の自主的研究を基本とする。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

適宜プリントを配する。

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	40
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	20
その他	40

【成績評価に関する補足】

- ・担当時の報告内容40%、毎回の議論における参加態度40%、期末レポート20%の総合評価とする。
- ・到達目標①と③は、毎回の授業態度の中で評価する。また、到達目標②は、毎回の授業態度と期末レポートによって評価する。

- ・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
田鎖 数馬	木曜	1限	人文社会学部棟5階 田鎖数馬研究室

【オフィスアワーに関する補足】

要予約

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| ☐ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☒ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☐ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
日本語習得論特論II	Japanese Language Acquisition (Advanced II)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12D15	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81541471
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR' S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	小林 安那	人文社会科学部	
2			
3			
4			
5			

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

日本語教育、言語習得

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

日本語教育や第二言語習得の観点から日本語教授法の変遷を概観し、外国語として日本語を学ぶ際の習得上の留意点や困難点およびその指導方法について考える。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

第二言語習得の観点から、日本語学習・日本語教育の方法について検討する。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	日本語教育の流れと現状を把握できる。
2	日本語学習者の習得上の課題について検討することができる。
3	日本語教育における指導方法を理論を用いて説明することができる。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

日本語教育、第二言語習得、日本語学習

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・日本語教育への関心があること
- ・日本語教育や第二言語習得に関する基礎的な知識を有していることが望ましい

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	小林 安那	
	授業内容	オリエンテーション 授業の概要や発表分担の説明	
第2回	担当教員	小林 安那	
	授業内容	文献講読 担当者による発表および受講生間のディスカッション	
第3回	担当教員	小林 安那	
	授業内容	文献講読 担当者による発表および受講生間のディスカッション	
第4回	担当教員	小林 安那	
	授業内容	文献講読 担当者による発表および受講生間のディスカッション	
第5回	担当教員	小林 安那	
	授業内容	文献講読 担当者による発表および受講生間のディスカッション	
第6回	担当教員	小林 安那	
	授業内容	文献講読 担当者による発表および受講生間のディスカッション	
第7回	担当教員	小林 安那	
	授業内容	文献講読 担当者による発表および受講生間のディスカッション	
第8回	担当教員	小林 安那	
	授業内容	文献講読 担当者による発表および受講生間のディスカッション	
第9回	担当教員	小林 安那	
	授業内容	文献講読 担当者による発表および受講生間のディスカッション	
第10回	担当教員	小林 安那	
	授業内容	文献講読 担当者による発表および受講生間のディスカッション	
第11回	担当教員	小林 安那	
	授業内容	文献講読 担当者による発表および受講生間のディスカッション	
第12回	担当教員	小林 安那	
	授業内容	文献講読 担当者による発表および受講生間のディスカッション	
第13回	担当教員	小林 安那	
	授業内容	文献講読 担当者による発表および受講生間のディスカッション	
第14回	担当教員	小林 安那	
	授業内容	文献講読 担当者による発表および受講生間のディスカッション	
第15回	担当教員	小林 安那	
	授業内容	文献講読 担当者による発表および受講生間のディスカッション	
第16回	担当教員	小林 安那	
	授業内容	期末レポート	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

予習(文献の講読)と分担発表の準備

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

教科書は第1回の講義で受講生と相談のうえ決定する。

以下を予定しているが、受講生の基礎知識や関心に応じて変更する場合がある。

- ・小柳かおる(2021)『改訂版 日本語教師のための新しい言語習得概論』スリーエーネットワーク
- ・畑佐由紀子(2023)『学習者を支援する日本語指導法Ⅱ 文法 会話 作文 総合授業』くろしお出版

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	30
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	30
その他	40

【成績評価に関する補足】

- ・学習意欲・授業参加度: 授業に臨む姿勢(授業前の予習や授業中のディスカッション等)
- ・その他: 分担発表やその他の課題への取り組み

- ・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
小林 安那	月曜	3限	人文社会科学部棟 3階 312

【オフィスアワーに関する補足】

事前にメール等でご連絡ください。

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|--|--|
| ☒ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☐ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目		英文科目名【Course Title】	
日本語習得論演習Ⅱ		Japanese Language Acquisition (Seminar II)	
授業コード【Course Code】		単位数【Course Credits(Units)】	
12D16		2	
授業種別【Course Classification】		履修開始年次	
演習		1	
開講学期【Semester】		時間割【Day/Period】	
第2学期			
科目区分等			
平成27年度以降		大学院科目	
▶ナンバリングコード			
ナンバリングコード1		81546421	
ナンバリングコード2			
ナンバリングコード3			
ナンバリングコード4			
ナンバリングコード5			
ナンバリングコード6			
ナンバリングコード7			
ナンバリングコード8			
地域関連科目区分		COC+Phase	
履修における注意点			
資格等			
メディア授業科目			

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR' S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	小林 安那	人文社会科学部	
2			
3			
4			
5			

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

日本語教育、言語習得

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

「日本語習得論特論Ⅱ」で学んだ内容を踏まえ、受講生が各々の関心に応じて日本語習得に関する問いを立て、論文講読およびディスカッションを通じて、考察・発表を行う。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

日本語学習・日本語教育の方法や課題について主体的に考察する。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	日本語学習者の習得上の課題について問いを立てることができる。
2	日本語学習者の習得上の課題について根拠に基づき考察することができる。
3	
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

日本語教育、第二言語習得、日本語学習

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・日本語教育への関心があること
- ・日本語教育や第二言語習得に関する基礎的な知識を有していること
- ・「日本語習得論特論Ⅱ」を履修していることが望ましい
- ・主体的に調べ、考える姿勢

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	小林 安那	
	授業内容	オリエンテーション 授業の概要や発表分担の説明	
第2回	担当教員	小林 安那	
	授業内容	文献講読 担当者による発表および受講生間のディスカッション	
第3回	担当教員	小林 安那	
	授業内容	文献講読 担当者による発表および受講生間のディスカッション	
第4回	担当教員	小林 安那	
	授業内容	文献講読 担当者による発表および受講生間のディスカッション	
第5回	担当教員	小林 安那	
	授業内容	文献講読 担当者による発表および受講生間のディスカッション	
第6回	担当教員	小林 安那	
	授業内容	文献講読 担当者による発表および受講生間のディスカッション	
第7回	担当教員	小林 安那	
	授業内容	文献講読 担当者による発表および受講生間のディスカッション	
第8回	担当教員	小林 安那	
	授業内容	文献講読 担当者による発表および受講生間のディスカッション	
第9回	担当教員	小林 安那	
	授業内容	文献講読 各自の課題への取り組みおよび受講生間のディスカッション	
第10回	担当教員	小林 安那	
	授業内容	文献講読 各自の課題への取り組みおよび受講生間のディスカッション	
第11回	担当教員	小林 安那	
	授業内容	文献講読 各自の課題への取り組みおよび受講生間のディスカッション	
第12回	担当教員	小林 安那	
	授業内容	各自の課題への取り組みおよび受講生間のディスカッション	
第13回	担当教員	小林 安那	
	授業内容	各自の課題への取り組みおよび受講生間のディスカッション	
第14回	担当教員	小林 安那	
	授業内容	各自の課題への取り組みおよび受講生間のディスカッション	
第15回	担当教員	小林 安那	
	授業内容	各自の課題への取り組みのまとめ	
第16回	担当教員	小林 安那	
	授業内容	期末レポート	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

- ・予習(文献の講読)と分担発表の準備
- ・自らの課題への取り組み

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

授業で指示します

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	20
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	30
その他	50

【成績評価に関する補足】

- ・学習意欲・授業参加度: 授業に臨む姿勢(授業前の予習や授業中のディスカッション等)
- ・その他: 分担発表や自らの課題への取り組み

- ・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
小林 安那	月曜	3限	人文社会科学部棟 3階 312

【オフィスアワーに関する補足】

事前にメール等でご連絡ください。

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|--|--|
| ☒ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☐ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
グローバル経済論特論 I	Global Economy (Advanced I)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12F15	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81553171
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校(社会)専修、教免—高校(公民)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	岩佐 和幸	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

グローバル経済の影響に関する批判的検討

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

・本授業のテーマは、政治経済学の分析視角を用いてグローバル化と各国・地域の構造変動を理解するとともに、研究動向を批判的に捉えながら自らの研究に活かすことにある。
 ・なお、この授業は、グローバル社会研究コースの中で、グローバル化のもたらす社会的・文化的諸問題を研究する「比較社会文化領域」に属する科目である。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

グローバル経済論演習Ⅰ

授業の概要【COURSE SUMMARY】

本授業では、経済のグローバル化に関する最新のトピックならびに理論動向について、最近の日本語文献を素材に政治経済学の視角から検討する。あわせて、輪読と並行して、参加者個々の研究発表を随時盛り込むことを予定している。
なお、毎年参加者が多様であることから、関心・進捗度に応じて、それにふさわしいテキストを選択することも考慮に入りたい。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	グローバル経済の動向について、これまでの理解内容をベースにしなが、新たに理解したことを説明できる。
2	グローバル経済に関する研究動向を自らの立場から批判的に考察することができる。
3	グローバル経済の歴史・現状やそれに関する最新の研究動向について、1つ以上説明できる。
4	グローバル経済の現状や研究動向についての自らの立場を的確に表現し、他者と議論することができる。
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

グローバル化、社会経済変化

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・世界情勢とそこでの日本の情勢を理解し、日々情報収集に努めていること。
- ・政治経済学の基本概念を理解していることが望ましい。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	岩佐 和幸	
	授業内容	オリエンテーション 授業の概要説明。報告ローテーションの決定。文献収集についてのアドバイス。	
第2回	担当教員	岩佐 和幸	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第3回	担当教員	岩佐 和幸	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第4回	担当教員	岩佐 和幸	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第5回	担当教員	岩佐 和幸	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第6回	担当教員	岩佐 和幸	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第7回	担当教員	岩佐 和幸	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第8回	担当教員	岩佐 和幸	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第9回	担当教員	岩佐 和幸	
	授業内容	文献2冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第10回	担当教員	岩佐 和幸	
	授業内容	文献2冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第11回	担当教員	岩佐 和幸	
	授業内容	文献2冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第12回	担当教員	岩佐 和幸	
	授業内容	文献2冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第13回	担当教員	岩佐 和幸	
	授業内容	文献2冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第14回	担当教員	岩佐 和幸	
	授業内容	文献2冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第15回	担当教員	岩佐 和幸	
	授業内容	全体の総括 各自発表	
第16回	担当教員	岩佐 和幸	
	授業内容	総括レポートの作成・提出 総括レポートの作成・提出	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

- ・テキストの精読と報告資料の作成。あわせて授業に関連する資料の収集。
- ・最低でも週4時間程度の自主的研究を基本とする。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

マーティン・ハート＝ランズバーク(岩佐和幸監訳)『資本主義的グローバリゼーションー影響・抵抗・オルタナティブー』高菅出版、2015年
 サスキア・サッセン(伊藤茂訳)『グローバル資本主義と〈放逐〉の論理』明石書店、2017年
 冬木勝仁・岩佐和幸・関根佳恵編『アグリビジネスと現代社会』筑波書房、2021年

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	40
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	20
その他	40

【成績評価に関する補足】

・担当時の報告内容40%、毎回の議論における参加態度40%、期末レポート20%の総合評価とする。
 ・到達目標①～③は、毎回の授業態度の中で評価する。到達目標④については、授業態度に加えて期末レポートと合わせて評価する。

・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
岩佐 和幸	木曜	2限	人文社会科学部棟4F 岩佐(和)研究室

【オフィスアワーに関する補足】

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| ☐ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☒ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☐ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
グローバル経済論演習 I	Global Economy (Seminar I)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12F16	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81558121
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校(社会)専修、教免—高校(公民)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	岩佐 和幸	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

グローバル経済の影響に関する批判的検討

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

・本授業のテーマは、政治経済学の分析視角を用いてグローバル化と各国・地域の構造変動を理解するとともに、研究動向を批判的に捉えながら自らの研究に活かすことにある。
 ・なお、この授業は、グローバル社会研究コースの中で、グローバル化のもたらす社会的・文化的諸問題を研究する「比較社会文化領域」に属する科目である。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

本授業では、グローバル経済に関する最新のトピックならびに理論動向について、英語文献を素材に政治経済学の視角から検討する。あわせて、輪読と並行して、参加者個々の研究発表を随時盛り込むことを予定している。
 なお、毎年参加者が多様であることから、関心・進捗度に応じて、それにふさわしいテキストを選択することも考慮に入りたい。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	グローバル経済の構造変動について、これまで理解していることをベースに、新たに理解したことを説明できる。
2	グローバル経済に関する研究動向を自らの立場から批判的に考察することができる。
3	グローバル経済の歴史・現状やそれに関する最新の研究動向を意欲的に摂取し、その内容を1つ以上説明できる。
4	グローバル経済の現状や研究動向についての自らの立場を的確に表現し、他者と議論することができる。
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

グローバル化、社会経済変化

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・世界情勢とそこでの日本の情勢を理解し、日々情報収集に努めていること。
- ・政治経済学の基本概念を理解していることが望ましい。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	岩佐 和幸	
	授業内容	オリエンテーション 授業の概要説明。報告ローテーションの決定。海外の文献収集についてのアドバイス。	
第2回	担当教員	岩佐 和幸	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第3回	担当教員	岩佐 和幸	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第4回	担当教員	岩佐 和幸	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第5回	担当教員	岩佐 和幸	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第6回	担当教員	岩佐 和幸	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第7回	担当教員	岩佐 和幸	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第8回	担当教員	岩佐 和幸	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第9回	担当教員	岩佐 和幸	
	授業内容	文献2冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第10回	担当教員	岩佐 和幸	
	授業内容	文献2冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第11回	担当教員	岩佐 和幸	
	授業内容	文献2冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第12回	担当教員	岩佐 和幸	
	授業内容	文献2冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第13回	担当教員	岩佐 和幸	
	授業内容	文献2冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第14回	担当教員	岩佐 和幸	
	授業内容	文献2冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第15回	担当教員	岩佐 和幸	
	授業内容	全体の総括 各自発表	
第16回	担当教員	岩佐 和幸	
	授業内容	総括レポートの作成・提出 総括レポートの作成・提出	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

- ・テキストの精読と報告資料の作成。あわせて授業に関連する資料の収集。
- ・最低でも週4時間程度の自主的研究を基本とする。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

Intan Suwandi, Value Chains: The New Economic Imperialism, Monthly Review Press, 2019.
Naomi Klein, On Fire: The Burning Case for a Green New Deal, Penguin, 2020.

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	40
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	20
その他	40

【成績評価に関する補足】

・担当時の報告内容40%、毎回の議論における参加態度40%、期末レポート20%の総合評価とする。
・到達目標①～③は、毎回の授業態度の中で評価する。到達目標④については、授業態度に加えて期末レポートと合わせて評価する。

・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
岩佐 和幸	木曜	2限	人文社会科学部棟4F 岩佐(和)研究室

【オフィスアワーに関する補足】

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| ☐ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☒ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☐ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
日本政治特論	Politics of Japan (Advanced)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12G15	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81594271
ナンバリングコード2	81564271
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免一中学校(社会)専修、教免一高校(公民)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	小川 寛貴	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

日本政治の分析

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

有権者や政党・政治家の分析を通して、日本政治を自ら分析・研究する力を身につける

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

本授業では、日本政治に関する文献を読み進めながら、有権者や政党・政治家の行動から日本政治を説明する諸理論を学ぶ。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	政治現象を分析するための理論について批判的に考察することができる。
2	授業で扱った理論を用いて日本政治の分析ができる。
3	
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

政治学、日本政治

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

政治学、統計学の概論・入門以上の知識が必要

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	小川 寛貴	
	授業内容	イントロダクション 授業概要の説明	
第2回	担当教員	小川 寛貴	
	授業内容	文献1の検討 報告とディスカッション	
第3回	担当教員	小川 寛貴	
	授業内容	文献1の検討 報告とディスカッション	
第4回	担当教員	小川 寛貴	
	授業内容	文献1の検討 報告とディスカッション	
第5回	担当教員	小川 寛貴	
	授業内容	文献1の検討 報告とディスカッション	
第6回	担当教員	小川 寛貴	
	授業内容	文献1の検討 報告とディスカッション	
第7回	担当教員	小川 寛貴	
	授業内容	文献1の検討 報告とディスカッション	
第8回	担当教員	小川 寛貴	
	授業内容	文献2の検討 報告とディスカッション	
第9回	担当教員	小川 寛貴	
	授業内容	文献2の検討 報告とディスカッション	
第10回	担当教員	小川 寛貴	
	授業内容	文献2の検討 報告とディスカッション	
第11回	担当教員	小川 寛貴	
	授業内容	文献2の検討 報告とディスカッション	
第12回	担当教員	小川 寛貴	
	授業内容	文献2の検討 報告とディスカッション	
第13回	担当教員	小川 寛貴	
	授業内容	文献2の検討 報告とディスカッション	
第14回	担当教員	小川 寛貴	
	授業内容	追加文献の検討 報告とディスカッション	
第15回	担当教員	小川 寛貴	
	授業内容	授業のまとめ 全体の総括	
第16回	担当教員	小川 寛貴	
	授業内容		

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

- ・割り当てられた教科書や論文の精読
- ・データや資料の収集

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

Pekkanen, Robert J., Steven R. Reed, Ethan Scheiner, Daniel M. Smith (2018) Japan Decides 2017: The Japanese General Election. Palgrave Macmillan
 Smith, Daniel M. (2018) Dynasties and Democracy: The Inherited Incumbency Advantage in Japan. Stanford University Press

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	30
その他	70

【成績評価に関する補足】

各回のレジュメおよび報告のパフォーマンス: 70% (目標①②の評価)
 期末小論文: 30% (目標①②の評価)

・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
小川 寛貴	木曜	3限	人文社会科学部棟2階 小川研究室

【オフィスアワーに関する補足】

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| ☐ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☒ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☐ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
日本政治演習	Politics of Japan (Seminar)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12G16	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81599221
ナンバリングコード2	81569221
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免一中学校(社会)専修、教免一高校(公民)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	小川 寛貴	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

比較の中の日本政治

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

様々な民主主義国との比較分析を通して、日本政治を再考する

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

本授業では、比較の中に日本を位置付けた日本政治の分析・研究を行う。授業の前半では、主に文献輪読を通して分析のための理論枠組みと各国の事例について学習する。授業の後半では、授業前半で学んだ枠組みや手法を用いて実際に研究を行い、その成果をタームペーパーにまとめる。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	政治現象を説明する諸理論を説明できる
2	他国との比較を通じて日本政治を分析できる
3	授業で学んだ分析枠組みと統計的手法を用いた分析が実施できる
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

政治学、比較政治学、選挙研究

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

政治学、統計学の概論・入門以上の知識が必要

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	小川 寛貴	
	授業内容	イントロダクション 授業概要の説明	
第2回	担当教員	小川 寛貴	
	授業内容	文献1の検討 報告とディスカッション	
第3回	担当教員	小川 寛貴	
	授業内容	文献1の検討 報告とディスカッション	
第4回	担当教員	小川 寛貴	
	授業内容	文献1の検討 報告とディスカッション	
第5回	担当教員	小川 寛貴	
	授業内容	文献1の検討 報告とディスカッション	
第6回	担当教員	小川 寛貴	
	授業内容	文献2の検討 報告とディスカッション	
第7回	担当教員	小川 寛貴	
	授業内容	文献2の検討 報告とディスカッション	
第8回	担当教員	小川 寛貴	
	授業内容	文献2の検討 報告とディスカッション	
第9回	担当教員	小川 寛貴	
	授業内容	文献2の検討 報告とディスカッション	
第10回	担当教員	小川 寛貴	
	授業内容	文献3の検討 報告とディスカッション	
第11回	担当教員	小川 寛貴	
	授業内容	文献3の検討 報告とディスカッション	
第12回	担当教員	小川 寛貴	
	授業内容	文献3の検討 報告とディスカッション	
第13回	担当教員	小川 寛貴	
	授業内容	文献3の検討 報告とディスカッション	
第14回	担当教員	小川 寛貴	
	授業内容	研究デザインの策定 研究に向けた準備	
第15回	担当教員	小川 寛貴	
	授業内容	研究報告 各自の研究報告	
第16回	担当教員	小川 寛貴	
	授業内容		

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

- ・割り当てられた教科書や論文の精読
- ・データや資料の収集
- ・タームペーパーの作成に向けた自主的研究

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

久保慶一・末近浩太・高橋百合子(2016)『比較政治学の考え方』有斐閣
 砂原庸介(2017)『分裂と統合の日本政治—統治機構改革と政党システムの変容』千倉書房
 建林正彦(2017)『政党政治の制度分析—マルチレベルの政治競争における政党組織』千倉書房

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	40
その他	60

【成績評価に関する補足】

各回のレジュメ及び報告のパフォーマンス:60%(目標①の評価)
 研究報告及びタームペーパー:40%(目標②③の評価)

・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
小川 寛貴	木曜	3限	人文社会科学部棟2階 小川研究室

【オフィスアワーに関する補足】

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| ☐ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☒ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☐ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
比較会計制度特論	Comparative Accounting (Advanced)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12K17	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81583471
ナンバリングコード2	81593471
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免一高校(商業)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR' S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	山内 高太郎	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

日本の会計基準の特徴を国際会計基準やアメリカ会計基準との比較から考える

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

- ・収益認識、リース会計、金融商品会計をとりあげ、日本基準、国際財務報告基準、アメリカ基準の違いについて理解する。
- ・会計基準の違いが企業の財務諸表にどのような影響を与えているかについて理解し、分析を行う。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

比較会計制度演習

授業の概要【COURSE SUMMARY】

日本の会計制度では、日本基準の他、国際財務報告基準(IFRS)、アメリカ会計基準を適用することが認められている。こうした基準の選択を行える制度状況について、収益認識、リース会計、金融商品会計をとりあげ、基準間比較を通して日本の会計制度の改題や企業経営への影響について考察を行う。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	収益認識の国際比較を通して、相違点について説明することができる。
2	リース会計の国際比較を通して、相違点について説明することができる。
3	金融商品会計の国際比較を通して、相違点について説明することができる。
4	多様な会計基準を認める日本の会計制度の問題点や企業経営への影響について理解することができる。
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

収益認識、リース会計、金融商品会計、国際会計

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

会計学の基礎的な知識を有し、中級レベル以上の簿記の知識を有していること。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	山内 高太郎	
	授業内容	オリエンテーション 講義の概要及び進め方、評価についての説明。	
第2回	担当教員	山内 高太郎	
	授業内容	講義とディスカッション ASBJ、IASB、FASBの基準設定プロセスと各会計制度の概要について考える1	
第3回	担当教員	山内 高太郎	
	授業内容	講義とディスカッション ASBJ、IASB、FASBの基準設定プロセスと各会計制度の概要について考える2	
第4回	担当教員	山内 高太郎	
	授業内容	講義とディスカッション ASBJ、IASB、FASBの基準設定プロセスと各会計制度の概要について考える3	
第5回	担当教員	山内 高太郎	
	授業内容	講義とディスカッション ASBJ、IASB、FASBにおける収益認識について考える1	
第6回	担当教員	山内 高太郎	
	授業内容	講義とディスカッション ASBJ、IASB、FASBにおける収益認識について考える2	
第7回	担当教員	山内 高太郎	
	授業内容	講義とディスカッション ASBJ、IASB、FASBにおける収益認識について考える3	
第8回	担当教員	山内 高太郎	
	授業内容	講義とディスカッション ASBJ、IASB、FASBにおけるリース会計について考える1	
第9回	担当教員	山内 高太郎	
	授業内容	講義とディスカッション ASBJ、IASB、FASBにおけるリース会計について考える2	
第10回	担当教員	山内 高太郎	
	授業内容	講義とディスカッション ASBJ、IASB、FASBにおけるリース会計について考える3	
第11回	担当教員	山内 高太郎	
	授業内容	講義とディスカッション ASBJ、IASB、FASBにおける金融商品会計について考える1	
第12回	担当教員	山内 高太郎	
	授業内容	講義とディスカッション ASBJ、IASB、FASBにおける金融商品会計について考える2	
第13回	担当教員	山内 高太郎	
	授業内容	講義とディスカッション ASBJ、IASB、FASBにおける金融商品会計について考える3	
第14回	担当教員	山内 高太郎	
	授業内容	講義とディスカッション ASBJ、IASB、FASBにおける金融商品会計について考える4	
第15回	担当教員	山内 高太郎	
	授業内容	まとめ これまでのふりかえりとディスカッション	
第16回	担当教員	山内 高太郎	
	授業内容	レポートの作成・提出	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

- ・授業に関する資料やデータの収集及び分析を行い、報告資料を作成する。
- ・最低でも週4時間程度の自主的研究を基本とする。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

オリエンテーションで指示する。

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	30
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	30
その他	40

【成績評価に関する補足】

- ・授業への参画度合い(授業中の発言等で評価)30%、報告資料の内容40%、期末レポート30%
- ・到達目標への到達度合いは、上記項目の総合的評価による。

- ・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
山内 高太郎	火曜		人文社会科学部棟3F 341 山内研究室

【オフィスアワーに関する補足】

火曜日の昼休み、その他の時間を希望する場合は要予約

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| ☐ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☒ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☐ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
比較会計制度演習	Comparative Accounting (Seminar)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12K18	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81588421
ナンバリングコード2	81598421
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免一高校(商業)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR' S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	山内 高太郎	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

日本の会計基準の特徴を国際会計基準やアメリカ会計基準との比較から考える

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

- ・日本基準で作成された財務諸表と国際財務報告基準で作成された財務諸表を分析する能力を養う。
- ・日本基準から国際財務報告基準への変更や基準が選択できる状況が、企業経営に与える影響について考える。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

比較会計制度特論

授業の概要【COURSE SUMMARY】

日本基準、国際財務報告基準で作成された財務諸表の分析を通して、各受講者が企業が公表する財務諸表を分析するための知識や手法を理解し、その論点を明確に説明できる能力を得る。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	日本基準で作成された財務諸表を分析することができる。
2	国際財務報告基準で作成された財務諸表を分析することができる。
3	財務諸表の分析結果と企業経営を結びつけて説明することができる。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

財務諸表分析、IFRS、国際会計

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

会計学の基礎的な知識を有し、中級レベル以上の簿記の知識を有していること。
比較会計制度特論を受講していること。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	山内 高太郎	
	授業内容	オリエンテーション 講義の概要及び進め方、評価についての説明。	
第2回	担当教員	山内 高太郎	
	授業内容	財務諸表の分析手法を学ぶ 日本の財務諸表の分析手法を学ぶ1	
第3回	担当教員	山内 高太郎	
	授業内容	財務諸表の分析手法を学ぶ 日本の財務諸表の分析手法を学ぶ2	
第4回	担当教員	山内 高太郎	
	授業内容	財務諸表の分析手法を学ぶ 日本の財務諸表の分析手法を学ぶ3	
第5回	担当教員	山内 高太郎	
	授業内容	財務諸表の分析手法を学ぶ 日本の財務諸表の分析手法を学ぶ4	
第6回	担当教員	山内 高太郎	
	授業内容	報告1 日本の財務諸表の分析結果について報告を行う。	
第7回	担当教員	山内 高太郎	
	授業内容	財務諸表の分析手法を学ぶ IFRSで作成された財務諸表の分析手法を学ぶ1	
第8回	担当教員	山内 高太郎	
	授業内容	財務諸表の分析手法を学ぶ IFRSで作成された財務諸表の分析手法を学ぶ2	
第9回	担当教員	山内 高太郎	
	授業内容	財務諸表の分析手法を学ぶ IFRSで作成された財務諸表の分析手法を学ぶ3	
第10回	担当教員	山内 高太郎	
	授業内容	財務諸表の分析手法を学ぶ IFRSで作成された財務諸表の分析手法を学ぶ4	
第11回	担当教員	山内 高太郎	
	授業内容	財務諸表の分析手法を学ぶ IFRSで作成された財務諸表の分析手法を学ぶ5	
第12回	担当教員	山内 高太郎	
	授業内容	報告2 IFRSで作成された財務諸表の分析結果について報告を行う。	
第13回	担当教員	山内 高太郎	
	授業内容	財務諸表の比較分析 日本基準で作成された財務諸表とIFRSで作成された財務諸表の比較を行う1	
第14回	担当教員	山内 高太郎	
	授業内容	財務諸表の比較分析 日本基準で作成された財務諸表とIFRSで作成された財務諸表の比較を行う2	
第15回	担当教員	山内 高太郎	
	授業内容	報告3 日本基準で作成された財務諸表とIFRSで作成された財務諸表の比較分析結果について報告を行う	
第16回	担当教員	山内 高太郎	
	授業内容	レポートの作成・提出	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

- ・授業に関連する資料の収集し、精読する。
- ・授業中に課された課題に取り組む。
- ・最低でも週8時間程度の自主的研究が必要。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

オリエンテーションで指示する。

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	10
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	30
その他	60

【成績評価に関する補足】

- ・授業の参画度合約10%、報告30%、課題の提出約30%、期末レポート30%
- ・到達目標への到達度合いは、上記項目の総合的に評価による。

- ・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
山内 高太郎	火曜		人文社会科学部棟3F 341 山内研究室

【オフィスアワーに関する補足】

火曜日の昼休み、その他の時間を希望する場合は要予約

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| ☐ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☒ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☐ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
第二言語習得論特論	Second Language Acquisition (Advanced)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12D19	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81540471
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免一中学校・高校(英語)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	今井 典子	人文社会科学部	noimiai@kochi-u.ac.jp

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

第二言語習得のメカニズムや習得に影響を及ぼす個人者要因などを理解する。

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

第二言語習得のメカニズムや言語習得に大きな影響を及ぼす個人者要因に関して学ぶ。また、第二言語習得の知見を言語学習や言語指導に関連付けて考える。そのうえで、第二言語習得に有効とされる「タスク」の理論への理解を深める。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

第二言語習得(SLA)に関する様々な理論を学びます。その中には、言語習得のメカニズムや個人者要因(内的要因)、これまで展開されてきた仮説や理論なども取り扱います。また、SLAの知見から、「タスク」に関する言語学習や言語指導を考えます。履修生の理解度を考慮しながら授業を進めていきますので、シラバス通りにはならないこともある。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	タスクの定義、分類、難易度に関して説明することができる。
2	言語習得に関する様々な理論(仮説)の中から、タスクに必要な理論(仮説)を5つ以上説明できる。
3	学習した理論より、言語教育の重要なポイントを5つ以上述べることができる。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

第二言語習得、外国語教育、英語教育、タスク(特に、focused taskータスク活動とdictoglossなど)

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

第二言語習得の知識をある程度有しておくこと(学部第二言語習得にかかわる授業を履修していることが望ましい)、および、英語論文に言及することもありますので、研究論文を読むことができる英語力が必要です。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	今井 典子	
	授業内容	オリエンテーション(授業の進め方など)、第二言語習得研究—言語学習を多面的にとらえる	
第2回	担当教員	今井 典子	
	授業内容	母語習得と第二言語習得、L2習得の初期段階の特徴	
第3回	担当教員	今井 典子	
	授業内容	第二言語学習についての2つの見方(認知的アプローチと社会的アプローチ)(1)	
第4回	担当教員	今井 典子	
	授業内容	第二言語学習についての2つの見方(認知的アプローチと社会的アプローチ)(2)	
第5回	担当教員	今井 典子	
	授業内容	言語 習得に関わる諸問題—転移、化石化(定着化)	
第6回	担当教員	今井 典子	
	授業内容	第二言語習得における個人者要因	
第7回	担当教員	今井 典子	
	授業内容	第二言語動機付け—動機づけ理論(1)	
第8回	担当教員	今井 典子	
	授業内容	第二言語動機付け—動機づけ理論(2)	
第9回	担当教員	今井 典子	
	授業内容	言語習得に関する仮説(1)	
第10回	担当教員	今井 典子	
	授業内容	言語習得に関する仮説(2)	
第11回	担当教員	今井 典子	
	授業内容	第二言語習得研究と外国語研究—タスク(1)	
第12回	担当教員	今井 典子	
	授業内容	第二言語習得研究と外国語研究—タスク(2)	
第13回	担当教員	今井 典子	
	授業内容	TBLT とTSLT におけるタスク	
第14回	担当教員	今井 典子	
	授業内容	第二言語習得の新しい考え方—複雑系理論を考える	
第15回	担当教員	今井 典子	
	授業内容	まとめのプレゼン	
第16回	担当教員	今井 典子	
	授業内容		

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

授業の内容に関して、論文(英語・日本語)が補足として配布されることがあります。その際には与えられた内容を読み、まとめる。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

授業は配布資料を基に進めます。参考書は以下の通りです。

今井・高島(2015)『小・中・高等学校における 学習状況に応じた英語の課題解決型言語活動 ― 自律する言語使用者の育成』、東京書籍。

村野井仁・若林茂則・白畑知彦(2010)『第二言語習得研究―理論から研究法まで』、研究社。

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	25
小レポート	
学習意欲・授業参加度	50
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	
その他	25

【成績評価に関する補足】

授業での議論への積極的参加および発言、コメントシートなどからの感想など(50点)、授業で取りあつかった内容のまとめのプレゼン(25点)、授業で取りあつかった内容の記述式小テスト(25点)

・ 成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
今井 典子	月曜、木曜	2限	人文社会科学部棟 3F今井典子研究室 (315)

【オフィスアワーに関する補足】

要予約

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| ☐ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☒ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☐ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
第二言語習得論演習	Second Language Acquisition (Seminar)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12D20	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81545421
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免一中学校・高校(英語)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	今井 典子	人文社会科学部	noimiai@kochi-u.ac.jp

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

第二言語習得で求められるタスク

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

言語習得に関する論文、特に「タスク」に関する内容を講読し、習得においてどのような言語指導が必要であるのかを考える。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

第二言語習得 (SLA)をめぐる論文、特に「タスク」に関して取り上げる。ディスカッションを通して考えを深化させる。また、受講生の研究テーマと関連する論考を講読し、内容を議論する。修士論文のテーマに沿った研究発表を行い、その内容を指導する。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標 (COURSE OBJECTIVES)
1	タスク実施における教育的意義に関して、諸理論を引用しながら説明することができる。
2	日本での学習環境 (EFL)におけるタスク実施の課題点を諸理論を引用しながら説明することができる。
3	
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

第二言語習得、言語教育、英語教育、タスク

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

基本的な第二言語習得の知識（学部での第二言語習得論の授業を受講していることが望ましい）、および、英語論文を用いて議論することがありますので、研究英語論文を読むことができる英語力が必要です。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	今井 典子	
	授業内容	オリエンテーション Chapter 1-Task in SLA and language pedagogy(1)	
第2回	担当教員	今井 典子	
	授業内容	Chapter 1- Task in SLA and language pedagogy(2)	
第3回	担当教員	今井 典子	
	授業内容	Cahpter 3-Task, interaction, and SLA (1)	
第4回	担当教員	今井 典子	
	授業内容	Cahpter 3-Task, interaction, and SLA (2)	
第5回	担当教員	今井 典子	
	授業内容	Cahpter 3-Task, interaction, and SLA (3)	
第6回	担当教員	今井 典子	
	授業内容	Cahpter 4-Task, production, and SLA (1)	
第7回	担当教員	今井 典子	
	授業内容	Cahpter 4-Task, production, and SLA (2)	
第8回	担当教員	今井 典子	
	授業内容	Cahpter 4-Task, production, and SLA (3)	
第9回	担当教員	今井 典子	
	授業内容	Cahpter 5-Focused tasks and SLA (1)	
第10回	担当教員	今井 典子	
	授業内容	Cahpter 5-Focused tasks and SLA (2)	
第11回	担当教員	今井 典子	
	授業内容	Cahpter 6-Sociocultural SLA and tasks (1)	
第12回	担当教員	今井 典子	
	授業内容	Cahpter 6-Sociocultural SLA and tasks (2)	
第13回	担当教員	今井 典子	
	授業内容	Cahpter 6-Sociocultural SLA and tasks (3)	
第14回	担当教員	今井 典子	
	授業内容	Cahpter 6-Sociocultural SLA and tasks (4)	
第15回	担当教員	今井 典子	
	授業内容	研究発表とディスカッション (2)	
第16回	担当教員	今井 典子	
	授業内容		

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

毎回予習として次の授業に向けて論文を読んでくると、そして内容の概要を説明することが求められます。内容によっては、調べて追加情報を発表できること。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

Ellis, R. (2003) Task-based Language Learning and Teaching. Oxford: Oxford University Press.

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	50
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	
その他	50

【成績評価に関する補足】

授業での議論への積極的参加および発言、コメントシートなどからの感想など(50点)、授業で取りあつかった内容のまとめのプレゼン(50点)

・ 成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
今井 典子	月曜、木曜	2限	人文社会科学部棟 3F今井典子研究室 (315)

【オフィスアワーに関する補足】

要予約

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| ☐ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☒ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☐ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
グローバル経済論特論Ⅱ	Global Economy (Advanced II)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12F19	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81552271
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免一中学校(社会)専修、教免一高校(公民)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	中西 三紀	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

グローバル化を推進する理論と構造変化に対する批判的考察

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

本授業の目的は、現在あるグローバル化を推進する理論と、その結果生じた構造変化を批判的に考察することができるようになることである。
 なお、この授業は、グローバル社会研究コースの中で、グローバル化がもたらす社会的・文化的諸問題を研究する「比較社会文化領域」に属する科目である。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

グローバル経済論演習Ⅱ

授業の概要【COURSE SUMMARY】

グローバル化した世界経済について分析している文献・論文を精読する。
受講生は報告担当箇所のレジュメを用意し、それをもとにしたディスカッションを中心に授業を進める。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	グローバル化の現状について説明することができる。
2	世界経済の構造変化に関する研究動向を説明することができる
3	グローバル化した経済の現状を批判的に考察することができる。
4	グローバル化について、理論と実証に裏付けられた自らの言葉で表現することができ、他者と議論することができる。
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

グローバリゼーション、新自由主義

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

高校で世界史を履修した者。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	中西 三紀	
	授業内容	オリエンテーション 授業の概要説明、精読する文献および報告担当者の決定	
第2回	担当教員	中西 三紀	
	授業内容	文献の検討 精読、報告とディスカッション	
第3回	担当教員	中西 三紀	
	授業内容	文献の検討 精読、報告とディスカッション	
第4回	担当教員	中西 三紀	
	授業内容	文献の検討 精読、報告とディスカッション	
第5回	担当教員	中西 三紀	
	授業内容	文献の検討 精読、報告とディスカッション	
第6回	担当教員	中西 三紀	
	授業内容	文献の検討 精読、報告とディスカッション	
第7回	担当教員	中西 三紀	
	授業内容	文献の検討 精読、報告とディスカッション	
第8回	担当教員	中西 三紀	
	授業内容	文献の検討 精読、報告とディスカッション	
第9回	担当教員	中西 三紀	
	授業内容	文献の検討 精読、報告とディスカッション	
第10回	担当教員	中西 三紀	
	授業内容	文献の検討 精読、報告とディスカッション	
第11回	担当教員	中西 三紀	
	授業内容	文献の検討 精読、報告とディスカッション	
第12回	担当教員	中西 三紀	
	授業内容	文献の検討 精読、報告とディスカッション	
第13回	担当教員	中西 三紀	
	授業内容	文献の検討 精読、報告とディスカッション	
第14回	担当教員	中西 三紀	
	授業内容	文献の検討 精読、報告とディスカッション	
第15回	担当教員	中西 三紀	
	授業内容	授業の総括 受講生による総括、レポートについてのアナウンス	
第16回	担当教員	中西 三紀	
	授業内容	学期末レポート提出	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

- ・テキストの精読と報告資料の作成、および授業内容と報告に関連する資料の収集。
- ・最低でも週4時間程度の授業時間外学習を必要とする。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

教科書は特に指定しない。初回授業時に受講生と相談のうえ決定する。
参考書は授業中に随時紹介する。

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	30
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	40
その他	30

【成績評価に関する補足】

学習意欲・授業参加度は報告担当時の準備状況と報告内容(30%)、その他はディスカッションへの参加態度(30%)をもとに評価し、これに期末レポート(40%)を加えて、合計100%で評価する。
到達目標1～3は報告内容、ディスカッションへの参加態度、提出されたレポートで判断する。到達目標4はディスカッションへの参加態度から判断する。

・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
中西 三紀	木曜日	3限	中西研究室(人文社会科学部棟4階、402)

【オフィスアワーに関する補足】

オフィスアワーの時間以外でも、対応できる時は対応します。
面談を希望する人は、事前に必ずメールでアポイントメントを取ってください。

この授業とSDGsの関連

- ☒ 1 貧困をなくそう
- ☒ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☒ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| ☐ 対面のみ | ☒ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☒ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☒ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
グローバル経済論演習Ⅱ	Global Economy (Seminar II)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12F20	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81557221
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免一中学校(社会)専修、教免一高校(公民)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	中西 三紀	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

グローバル化を推進する理論と構造変化に対する批判的考察

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

本授業の目的は、現在あるグローバル化を推進する理論と、その結果生じた構造変化を批判的に考察することができるようになることである。なお、具体的な事例として、担当者の専門であるチリ農業を取り上げる。
なお、この授業は、グローバル社会研究コースの中で、グローバル化がもたらす社会的・文化的諸問題を検討する「比較社会文化領域」に属する科目である。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

グローバル経済論特論II

授業の概要【COURSE SUMMARY】

グローバリゼーション下のチリ農業について分析している文献・論文を精読する。
受講生は担当報告箇所のレジュメを用意し、それをもとにしたディスカッションを中心に授業を進める。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	グローバル化の現状について説明することができる。
2	世界経済の構造変化に関する研究動向を説明することができる。
3	チリを事例として、グローバリゼーション下で進行した構造変化を批判的に考察することができる。
4	グローバル化について、理論と実証に裏付けられた自らの言葉で表現することができ、他者と議論することができる。
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

グローバリゼーション、新自由主義、多国籍企業

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

高校で世界史を履修した者。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	中西 三紀	
	授業内容	オリエンテーション 文献の検討	
第2回	担当教員	中西 三紀	
	授業内容	文献の検討 精読、報告とディスカッション	
第3回	担当教員	中西 三紀	
	授業内容	文献の検討 精読、報告とディスカッション	
第4回	担当教員	中西 三紀	
	授業内容	文献の検討 精読、報告とディスカッション	
第5回	担当教員	中西 三紀	
	授業内容	文献の検討 精読、報告とディスカッション	
第6回	担当教員	中西 三紀	
	授業内容	文献の検討 精読、報告とディスカッション	
第7回	担当教員	中西 三紀	
	授業内容	文献の検討 精読、報告とディスカッション	
第8回	担当教員	中西 三紀	
	授業内容	文献の検討 精読、報告とディスカッション	
第9回	担当教員	中西 三紀	
	授業内容	文献の検討 精読、報告とディスカッション	
第10回	担当教員	中西 三紀	
	授業内容	文献の検討 精読、報告とディスカッション	
第11回	担当教員	中西 三紀	
	授業内容	文献の検討 精読、報告とディスカッション	
第12回	担当教員	中西 三紀	
	授業内容	文献の検討 精読、報告とディスカッション	
第13回	担当教員	中西 三紀	
	授業内容	文献の検討 精読、報告とディスカッション	
第14回	担当教員	中西 三紀	
	授業内容	文献の検討 精読、報告とディスカッション	
第15回	担当教員	中西 三紀	
	授業内容	授業の総括 受講生による総括、レポートについてのアナウンス	
第16回	担当教員	中西 三紀	
	授業内容	レポート提出	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

- ・テキストの精読と報告資料の作成、および授業内容と報告に関する資料の収集。
- ・最低でも週4時間程度の授業時間外学習を必要とする。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

教科書は特に指定しない。初回授業時に受講生と相談のうえ決定する。
参考書は授業中に随時紹介する。

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL 】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	30
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	40
その他	30

【成績評価に関する補足】

学習意欲・授業参加度は報告担当時の準備状況と報告内容(30%)を、その他はディスカッションへの参加態度(30%)より評価する。それに学期末レポート(40%)を加えて、合計100%で評価する。
到達目標1～3は報告内容、ディスカッションへの参加態度、提出されたレポートで判断する。到達目標4はディスカッションへの参加態度から判断する。

・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
中西 三紀	木曜日	3限	中西研究室(人文社会科学部棟4階、403)

【オフィスアワーに関する補足】

オフィスアワーの時間以外でも、対応できる時は対応します。
面談を希望する人は、必ず事前に、メールでアポイントメントを取ってください。

この授業とSDGsの関連

- ☒ 1 貧困をなくそう
- ☒ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☒ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| ☐ 対面のみ | ☒ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☒ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☒ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
対照言語学特論	Contrastive Linguistics (Advanced)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12D21	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
令和7年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
令和6年度以前入学生科目 対照言語論特論	
資格等	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	長田 詳平	教育学部	
2			
3			
4			
5			

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

日本語から英語を知る;英語から日本語を知る

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

To know English from a perspective of Japanese (vice versa)

授業の目的【COURSE AIMS】

生成文法理論の観点で英語および日本語の文法現象を扱った文献の講読を通し、言語事実、論証の方法論、両言語の共通点、ひいては言語普遍的性質について考察、理解を深める。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

＜進め方＞

論文講読(予習)⇒講義と解説⇒ディスカッション

*複数回で1本の論文を読み、学期中に2~3本の論文講読を目指す。

*論文は主に英語で書かれたものを読むため、生成文法に関する専門的な知識に加え、ある程度の英語力も求められる。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	言語現象の背景にある理論の存在を認識できる。
2	講読した論文について、その言語事実だけでなく、著者のargumentationまで理解することができる。
3	関連した言語現象について、自分なりの分析、論証ができる。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

生成文法、理論言語学、統語論、日英比較

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

論文は英語で書かれたものを読む可能性もあるので、英語力は多少求められる。また、生成文法についてのある程度の知識があるのが望ましい。勿論、講読中の論文で使われる術語や概念などについての解説はするつもりである。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	長田 詳平	
	授業内容	オリエンテーション	
第2回	担当教員	長田 詳平	
	授業内容	論文①(i) 講読⇒解説⇒ディスカッション	
第3回	担当教員	長田 詳平	
	授業内容	論文①(ii) 講読⇒解説⇒ディスカッション	
第4回	担当教員	長田 詳平	
	授業内容	論文①(iii) 講読⇒解説⇒ディスカッション	
第5回	担当教員	長田 詳平	
	授業内容	論文①(iv) 講読⇒解説⇒ディスカッション	
第6回	担当教員	長田 詳平	
	授業内容	論文①まとめ	
第7回	担当教員	長田 詳平	
	授業内容	論文②(i) 講読⇒解説⇒ディスカッション	
第8回	担当教員	長田 詳平	
	授業内容	論文②(ii) 講読⇒解説⇒ディスカッション	
第9回	担当教員	長田 詳平	
	授業内容	論文②(iii) 講読⇒解説⇒ディスカッション	
第10回	担当教員	長田 詳平	
	授業内容	論文②(iv) 講読⇒解説⇒ディスカッション	
第11回	担当教員	長田 詳平	
	授業内容	論文②まとめ	
第12回	担当教員	長田 詳平	
	授業内容	論文③(i) 講読⇒解説⇒ディスカッション	
第13回	担当教員	長田 詳平	
	授業内容	論文③(ii) 講読⇒解説⇒ディスカッション	
第14回	担当教員	長田 詳平	
	授業内容	論文③(iii) 講読⇒解説⇒ディスカッション	
第15回	担当教員	長田 詳平	
	授業内容	論文③(iv) 講読⇒解説⇒ディスカッション	
第16回	担当教員	長田 詳平	
	授業内容	予備日(期末試験などは行わない)	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

専門的な内容なので予習・復習は必須である。特に予習においては、疑問点を整理、言語化できるほど読み込んでくるのが望ましい。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

大学から無料でアクセス可能なジャーナル論文を使用するので、教科書の使用の予定はない。

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	30
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	70
その他	

【成績評価に関する補足】

学習意欲・授業参加度については、予習（論文講読）の質で評価する。

・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
長田 詳平	木曜	3	研究室（教育学部棟2号館4階）

【オフィスアワーに関する補足】

アポ必須

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|--|--|
| ☐ 対面のみ | ☒ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ 調整中 | |

授業形態

- ☒ 講義形式が中心
- ☒ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
対照言語学演習	Contrastive Linguistics (Seminar)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12D22	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
令和7年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
令和6年度以前入学生科目 対照言語論演習	
資格等	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	長田 詳平	教育学部	
2			
3			
4			
5			

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

日本語から英語を知る;英語から日本語を知る

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

To know English from a perspective of Japanese (vice versa)

授業の目的【COURSE AIMS】

対照言語学特論で得た学びを活かし、日英語を中心とした文法現象の記述とその理論言語学的分析の可能性を探る。授業は受講生の発表形式で行われる。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

対照言語学特論とはことなり、受講生の発表(購読論文のリポート)が中心です。
 <進め方>
 予習⇒発表⇒補足解説、ディスカッション
 *発表は分担制です。事前に割り振ります。
 *また、発表の形式を大きく2種類に分けます(下記の授業計画参照):
 論文①では、精読を行います。つまり分担した英文の正確な日本語をしてもらい、輪読を行っていきます。その都度、解釈や日本語の訳し方などの補足をします。
 論文②では、分担の内容についての解説をしてもらいます。ディスカッションのリードも各担当者に委ねます。なお、その都度内容や理解の補足は行います。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	対照言語学特論で学んだ知識を生かして、論文講読を自主的に進められる。
2	英語で書かれた論文の内容を他者に説明できる。
3	関連した言語現象について、自分なりの分析、論証ができる。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

生成文法、理論言語学、統語論、日英比較

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・内容面でも、演習という授業形態という点でも「対照言語学特論」の発展という位置づけなので、当該授業を受講していることが望ましい。
- ・発表は日本語で行う予定なので、特に留学生の場合はある程度(発表およびディスカッションに支障がない程度の)の日本語運用能力があるとよい。
- ・それ以外は基本的に「対象言語学特論」と同じものを求める。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	長田 詳平	
	授業内容	オリエンテーション	
第2回	担当教員	長田 詳平	
	授業内容	論文①(i) 演習⇒解説⇒ディスカッション	
第3回	担当教員	長田 詳平	
	授業内容	論文①(ii) 演習⇒解説⇒ディスカッション	
第4回	担当教員	長田 詳平	
	授業内容	論文①(iii) 演習⇒解説⇒ディスカッション	
第5回	担当教員	長田 詳平	
	授業内容	論文①(iv) 演習⇒解説⇒ディスカッション	
第6回	担当教員	長田 詳平	
	授業内容	論文①(v) 演習⇒解説⇒ディスカッション	
第7回	担当教員	長田 詳平	
	授業内容	論文①(vi) 演習⇒解説⇒ディスカッション	
第8回	担当教員	長田 詳平	
	授業内容	論文①(vii) 講読⇒解説⇒ディスカッション	
第9回	担当教員	長田 詳平	
	授業内容	論文①まとめ	
第10回	担当教員	長田 詳平	
	授業内容	論文②(i) 演習⇒解説⇒ディスカッション	
第11回	担当教員	長田 詳平	
	授業内容	論文②(ii) 演習⇒解説⇒ディスカッション	
第12回	担当教員	長田 詳平	
	授業内容	論文②(iii) 演習⇒解説⇒ディスカッション	
第13回	担当教員	長田 詳平	
	授業内容	論文②(iv) 演習⇒解説⇒ディスカッション	
第14回	担当教員	長田 詳平	
	授業内容	論文②(v) 演習⇒解説⇒ディスカッション	
第15回	担当教員	長田 詳平	
	授業内容	論文②(vi) 演習⇒解説⇒ディスカッション	
第16回	担当教員	長田 詳平	
	授業内容	予備日(期末試験などは行わない)	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

演習ということで主体的な姿勢が求められる。そのため、予習は特に時間をかけてほしい。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

大学から無料でアクセス可能なジャーナル論文を使用するので、教科書の使用の予定はない。

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	50
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	50
その他	

【成績評価に関する補足】

学習意欲・授業参加度は、2種類の演習の質で評価する。

・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
長田 詳平	木	3	(教育学部棟2号館4階)

【オフィスアワーに関する補足】

アポ必須

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|--|--|
| ☐ 対面のみ | ☒ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☒ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☒ その他

【授業形態(その他)】

演習形式

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
マーケティング論特論	Marketing (Advanced)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12K21	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81581671
ナンバリングコード2	81591671
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR' S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	速水建吾	人文社会科学部	
2			
3			
4			
5			

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

学術的な視点からマーケティングを学ぶ

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

- ・マーケティングに関する理論やフレームワークを学び、企業のマーケティングと関連する諸現象を分析することができるようになる。
- ・マーケティングに関する学術的な知見を学ぶ

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

マーケティング論演習

授業の概要【COURSE SUMMARY】

本講義では、マーケティングの学術的な概念や理論について学ぶ。具体的には、学術書や学術論文等の文献輪読と並行して、学習した理論的枠組について発表の機会を設ける。この他、履修学生の希望に応じて講義内容を決定する。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	企業のマーケティング活動について、理論的枠組を用いて説明できる
2	企業のマーケティング活動を理論を用いて分析できる
3	企業のマーケティング活動について、客観的・批判的に考察できる
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

マーケティング、消費者行動、ビジネス

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・マーケティング論の教科書レベルの基礎知識があること。
- ・基礎的な統計の知識があること。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	速水建吾	
	授業内容	オリエンテーション 授業概要や評価方法、授業の進め方について説明する	
第2回	担当教員	速水建吾	
	授業内容	学術書・論文の基礎知識と読み方	
第3回	担当教員	速水建吾	
	授業内容	文献の輪読、担当文献に関する報告	
第4回	担当教員	速水建吾	
	授業内容	文献の輪読、担当文献に関する報告	
第5回	担当教員	速水建吾	
	授業内容	文献の輪読、担当文献に関する報告	
第6回	担当教員	速水建吾	
	授業内容	文献の輪読、担当文献に関する報告	
第7回	担当教員	速水建吾	
	授業内容	文献の輪読、担当文献に関する報告	
第8回	担当教員	速水建吾	
	授業内容	文献の輪読、担当文献に関する報告	
第9回	担当教員	速水建吾	
	授業内容	文献の輪読、担当文献に関する報告	
第10回	担当教員	速水建吾	
	授業内容	文献の輪読、担当文献に関する報告	
第11回	担当教員	速水建吾	
	授業内容	文献の輪読、担当文献に関する報告	
第12回	担当教員	速水建吾	
	授業内容	文献の輪読、担当文献に関する報告	
第13回	担当教員	速水建吾	
	授業内容	研究計画発表①	
第14回	担当教員	速水建吾	
	授業内容	研究計画発表②	
第15回	担当教員	速水建吾	
	授業内容	研究計画発表③	
第16回	担当教員	速水建吾	
	授業内容	期末レポートの提出	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

文献の精読および報告資料の作成

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

教科書・参考書は講義中に適宜指示します

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	40
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	60
その他	

【成績評価に関する補足】

論文輪読担当時の報告内容および議論への参加態度40%、期末レポート60%

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
速水建吾	火曜	5限	速水研究室

【オフィスアワーに関する補足】

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☒ 8 働きがいも経済成長も
- ☒ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☒ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|--|--|
| ☒ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☒ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☒ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
マーケティング論演習	Marketing (Seminar)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12K22	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81586621
ナンバリングコード2	81596621
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR' S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	速水建吾	人文社会科学部	
2			
3			
4			
5			

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

マーケティングの専門的な理論や概念を学ぶ

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

- ・最新の学術的なマーケティング研究の動向を捉える
- ・マーケティングの学術論文を読解できるようになる

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

本講義では、マーケティングの専門的な理論を学び、批判的な検討を加える。具体的には、国内外の論文を主とした最新の文献を輪読する。この他、履修学生の希望に応じて講義内容を決定する。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標 (COURSE OBJECTIVES)
1	マーケティングの専門的な理論を理解できる
2	マーケティングの専門的な理論を用いた分析ができる
3	マーケティングの専門的な理論に基づき、企業のマーケティング活動を客観的・批判的に考察できる
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

マーケティング、消費者行動、ビジネス

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・マーケティング論特論を受講済みであることが望ましい
- ・学術的なマーケティングに関心が高いこと

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	速水建吾	
	授業内容	オリエンテーション 授業概要や評価方法、授業の進め方について説明する	
第2回	担当教員	速水建吾	
	授業内容	論文の基礎知識と読み方	
第3回	担当教員	速水建吾	
	授業内容	日本語論文の輪読、担当文献に関する報告	
第4回	担当教員	速水建吾	
	授業内容	日本語論文の輪読、担当文献に関する報告	
第5回	担当教員	速水建吾	
	授業内容	日本語論文の輪読、担当文献に関する報告	
第6回	担当教員	速水建吾	
	授業内容	日本語論文の輪読、担当文献に関する報告	
第7回	担当教員	速水建吾	
	授業内容	海外論文の輪読、担当文献に関する報告	
第8回	担当教員	速水建吾	
	授業内容	海外論文の輪読、担当文献に関する報告	
第9回	担当教員	速水建吾	
	授業内容	海外論文の輪読、担当文献に関する報告	
第10回	担当教員	速水建吾	
	授業内容	海外論文の輪読、担当文献に関する報告	
第11回	担当教員	速水建吾	
	授業内容	海外論文の輪読、担当文献に関する報告	
第12回	担当教員	速水建吾	
	授業内容	海外論文の輪読、担当文献に関する報告	
第13回	担当教員	速水建吾	
	授業内容	研究計画書報告①	
第14回	担当教員	速水建吾	
	授業内容	研究計画書報告②	
第15回	担当教員	速水建吾	
	授業内容	研究計画書報告③	
第16回	担当教員	速水建吾	
	授業内容	期末レポート	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

- ・論文の精読および報告資料の作成
- ・関連資料収集および分析

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

教科書・参考書は指定しません

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	40
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	60
その他	

【成績評価に関する補足】

論文輪読担当時の報告内容および議論への参加態度40%、期末レポート60%

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
速水建吾	火曜	5限	速水研究室

【オフィスアワーに関する補足】

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☒ 8 働きがいも経済成長も
- ☒ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☒ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|--|--|
| ☒ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☒ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☒ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
言語文法論特論Ⅱ	Syntax (AdvancedⅡ)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12A23	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81511471
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校・高校(英語)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	西尾 美穂	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

認知言語学の基礎を広く学ぶ

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

認知言語学の基本的な考え方を広く学ぶ。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

言語文法論演習

授業の概要【COURSE SUMMARY】

Cognitive Linguistics a Complete Guide(前半)を読む。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	認知言語学の基本概念を理解している。
2	英語で書かれた文献を読める。
3	
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

言語学、認知言語学

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

基本的な英文法の知識、母語話者程度の日本語能力

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	西尾 美穂	
	授業内容	pp.5-24	
第2回	担当教員	西尾 美穂	
	授業内容	pp.25-55	
第3回	担当教員	西尾 美穂	
	授業内容	pp.56-95	
第4回	担当教員	西尾 美穂	
	授業内容	pp.96-125	
第5回	担当教員	西尾 美穂	
	授業内容	pp.126-140	
第6回	担当教員	西尾 美穂	
	授業内容	pp.141-162	
第7回	担当教員	西尾 美穂	
	授業内容	pp.163-200	
第8回	担当教員	西尾 美穂	
	授業内容	pp.201-220	
第9回	担当教員	西尾 美穂	
	授業内容	pp.221-240	
第10回	担当教員	西尾 美穂	
	授業内容	pp.241-266	
第11回	担当教員	西尾 美穂	
	授業内容	pp.267-299	
第12回	担当教員	西尾 美穂	
	授業内容	pp.300-319	
第13回	担当教員	西尾 美穂	
	授業内容	pp.320-348	
第14回	担当教員	西尾 美穂	
	授業内容	pp.351-375	
第15回	担当教員	西尾 美穂	
	授業内容	pp.376-393	
第16回	担当教員	西尾 美穂	
	授業内容	期末テスト・期末レポート	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

割り当てられた範囲を精読し、日本語訳、補足説明できるように準備すること。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

Cognitive Linguistics a Complete Guide, Vyvian Evans, Edinburgh University Press.

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	
その他	

【成績評価に関する補足】

発表50%、期末テスト・期末レポート50%

・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
西尾 美穂	木曜	2限	人文社会科学部棟 5階 人文科学コース面談室

【オフィスアワーに関する補足】

要予約

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| ☐ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☒ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☐ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
言語文法論演習Ⅱ	Syntax (Seminar II)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12A24	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81516421
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校・高校(英語)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	西尾 美穂	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

認知言語学を深く学ぶ

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

認知言語学の観点から、言語の文法・意味について考察し、言語現象の分析・説明ができる。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

言語文法論特論

授業の概要【COURSE SUMMARY】

Cognitive Linguistics a Complete Guide(後半)を読む。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	認知言語学の考え方を理解している。
2	認知言語学の観点から言語の文法・意味現象を説明できる。
3	英語で書かれた専門的な文献を読むことができる。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

言語学、認知言語学

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

言語文法論特論Ⅱを履修していること

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	西尾 美穂	
	授業内容	pp.394-419	
第2回	担当教員	西尾 美穂	
	授業内容	pp.420-457	
第3回	担当教員	西尾 美穂	
	授業内容	pp.458-492	
第4回	担当教員	西尾 美穂	
	授業内容	pp.493-524	
第5回	担当教員	西尾 美穂	
	授業内容	pp.525-560	
第6回	担当教員	西尾 美穂	
	授業内容	pp.565-588	
第7回	担当教員	西尾 美穂	
	授業内容	pp.589-610	
第8回	担当教員	西尾 美穂	
	授業内容	pp.611-638	
第9回	担当教員	西尾 美穂	
	授業内容	pp.639-660	
第10回	担当教員	西尾 美穂	
	授業内容	pp.661-681	
第11回	担当教員	西尾 美穂	
	授業内容	pp.682-716	
第12回	担当教員	西尾 美穂	
	授業内容	pp.717-743	
第13回	担当教員	西尾 美穂	
	授業内容	pp.747-770	
第14回	担当教員	西尾 美穂	
	授業内容	pp.771-797	
第15回	担当教員	西尾 美穂	
	授業内容	pp.798-814	
第16回	担当教員	西尾 美穂	
	授業内容	期末テスト・期末レポート	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

割り当てられた範囲を精読し、日本語訳、ほそく説明できるように準備する。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

Cognitive Linguistics a Complete Guide, Vyvyan Evans, Edinburgh University Press.

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	
その他	

【成績評価に関する補足】

発表50%と期末テスト・期末レポート50%

・ 成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
西尾 美穂	木曜	2限	人文社会科学部棟 5階 人文科学コース面談室

【オフィスアワーに関する補足】

要予約

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| ☐ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☒ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☐ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
英語圏表象論特論	Representation in the English-Speaking Countries (Advanced)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12C23	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81532271
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免一中学校・高校(英語)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	宗 洋	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

英語圏文化についての修士論文を作成するために必要な英語力の養成

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

文芸作品を読みながら、歴史性・話法の意味・作品の構成の原理を考える。マンスフィールドの作品をいくつか取り上げる。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	文芸作品を歴史の中において分析する力の養成
2	話法の違いがどういう意味を担っているのかを分析する力の養成
3	作品の構成の原理を分析する力の養成
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

女性文学、モダニズム、第一次世界大戦、美術史

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

英語の小説や批評書を読むための英語力が求められます。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	宗 洋	
	授業内容	オリエンテーション、予習の進め方の説明	
第2回	担当教員	宗 洋	
	授業内容	Newb Zealand Stories 94-95	
第3回	担当教員	宗 洋	
	授業内容	96-97	
第4回	担当教員	宗 洋	
	授業内容	98-99	
第5回	担当教員	宗 洋	
	授業内容	100-101	
第6回	担当教員	宗 洋	
	授業内容	102-3	
第7回	担当教員	宗 洋	
	授業内容	104-5	
第8回	担当教員	宗 洋	
	授業内容	106-7	
第9回	担当教員	宗 洋	
	授業内容	108-9	
第10回	担当教員	宗 洋	
	授業内容	110-11	
第11回	担当教員	宗 洋	
	授業内容	112-13	
第12回	担当教員	宗 洋	
	授業内容	114-15	
第13回	担当教員	宗 洋	
	授業内容	116-17	
第14回	担当教員	宗 洋	
	授業内容	118-19	
第15回	担当教員	宗 洋	
	授業内容	120-21	
第16回	担当教員	宗 洋	
	授業内容	122-23	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

授業で進む分量の事前の丹念な予習が必要となる。具体的には和訳、範囲内の作品の分析、歴史的背景等をA4で3枚～4枚程度にまとめ、毎回授業で提出してもらう。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

Mansfield, New Zealand Stories (Oxford University Press)

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	30
その他	70

【成績評価に関する補足】

予習の努力と質(70%)に加えて、最終レポート8000字(30%)を課す。ただし最終レポートを提出しなかった場合は不可となる。

・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
宗 洋	金曜	5限	人文社会科学部棟4階 宗研究室

【オフィスアワーに関する補足】

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| ☐ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☒ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☐ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
英語圏表象論演習	Representation in the English-Speaking Countries (Seminar)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12C24	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81537221
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免一中学校・高校(英語)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	宗 洋	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

英語圏文化についての修士論文を作成するために必要な英語力の養成。批評的着眼点の先鋭化。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

文芸作品を読みながら、歴史性・話法の意味・作品の構成の原理を考える。マンスフィールドの作品をいくつか取り上げつつ、他の作家の作品との比較も試みる。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	文芸作品を歴史の中において分析する力の養成
2	話法の違いがどういう意味を担っているのかを分析する力の養成
3	作品の構成の原理を分析する力の養成
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

女性文学、モダニズム、美術史、第一次世界大戦

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

英語の小説や批評を読むための英語力が求められます。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	宗 洋	
	授業内容	オリエンテーション。予習の進め方の説明。	
第2回	担当教員	宗 洋	
	授業内容	New Zealand Stories 124-25	
第3回	担当教員	宗 洋	
	授業内容	126-27	
第4回	担当教員	宗 洋	
	授業内容	128-29	
第5回	担当教員	宗 洋	
	授業内容	130-31	
第6回	担当教員	宗 洋	
	授業内容	132-33	
第7回	担当教員	宗 洋	
	授業内容	134-35	
第8回	担当教員	宗 洋	
	授業内容	136-37	
第9回	担当教員	宗 洋	
	授業内容	138-39	
第10回	担当教員	宗 洋	
	授業内容	140-41	
第11回	担当教員	宗 洋	
	授業内容	142-43	
第12回	担当教員	宗 洋	
	授業内容	144-45	
第13回	担当教員	宗 洋	
	授業内容	146-47	
第14回	担当教員	宗 洋	
	授業内容	148-49	
第15回	担当教員	宗 洋	
	授業内容	150-51	
第16回	担当教員	宗 洋	
	授業内容	152-3	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

授業で進む分量の丹念な予習が必要となる。具体的には和訳、範囲内の作品の分析、歴史的背景等をA4で3枚～4枚程度にまとめ、毎回授業で提出してもらう。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

Mansfield, New Zealand Stories (Oxford University Press)

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	30
その他	70

【成績評価に関する補足】

予習の努力と質(70%)に加えて、最終レポート(30%)を課す。ただし最終レポートを提出しなかった場合は、不可となる。

・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
宗 洋	金曜	5限	人文社会科学部棟4階 宗研究室

【オフィスアワーに関する補足】

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| ☐ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☒ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☐ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
社会保障特論	Social Security (Advanced)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12J23	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81563271
ナンバリングコード2	81583271
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免一中学校(社会)専修、教免一高校(公民)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	西島 文香	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

社会保障制度の批判的検討

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

- ① 社会保障の理論形成や法制度の成立過程を検討する
- ② 個別の社会保障制度の機能や制度設計の詳細を理解する
- ③ 社会保障の制度設計のあり方や政策課題を考察する

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

社会保障の理論形成や法制度の成立過程を検討し、個別の社会保障制度の機能や制度設計の詳細を理解したうえで、社会保障の制度設計のあり方や政策課題を考察する。
特に文献の精読や資料作成・分析により諸学説及び諸外国との比較検討を行い、報告とディスカッションにより理解を深める。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	社会保障の理論形成や法制度の成立過程について説明できる
2	個別の社会保障制度の機能や制度設計の詳細について説明できる
3	社会保障の制度設計や政策課題について考察し、論点を抽出できる
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

社会保障、福祉政策

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ①現代社会における社会経済的問題に関心をもち、社会保障の基本理念や制度概要に関する基礎知識をもっていること
②研究テーマとして具体的な問題意識・関心を明らかにしておくこと

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	西島 文香	
	授業内容	ガイダンス:文献の選定と報告スケジュールの決定	
第2回	担当教員	西島 文香	
	授業内容	文献報告とディスカッション	
第3回	担当教員	西島 文香	
	授業内容	文献報告とディスカッション	
第4回	担当教員	西島 文香	
	授業内容	文献報告とディスカッション	
第5回	担当教員	西島 文香	
	授業内容	文献報告とディスカッション	
第6回	担当教員	西島 文香	
	授業内容	文献報告とディスカッション	
第7回	担当教員	西島 文香	
	授業内容	文献報告とディスカッション	
第8回	担当教員	西島 文香	
	授業内容	文献報告とディスカッション	
第9回	担当教員	西島 文香	
	授業内容	文献報告とディスカッション	
第10回	担当教員	西島 文香	
	授業内容	文献報告とディスカッション	
第11回	担当教員	西島 文香	
	授業内容	文献報告とディスカッション	
第12回	担当教員	西島 文香	
	授業内容	文献報告とディスカッション	
第13回	担当教員	西島 文香	
	授業内容	文献報告とディスカッション	
第14回	担当教員	西島 文香	
	授業内容	文献報告とディスカッション	
第15回	担当教員	西島 文香	
	授業内容	期末レポートのテーマと内容	
第16回	担当教員	西島 文香	
	授業内容	期末レポートの提出	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

- ①テキストの精読と報告資料の作成
- ②関連文献や資料の収集と読み込み

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

使用するテキストは受講者の興味・関心に沿って決定する

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	40
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	20
その他	40

【成績評価に関する補足】

- ・文献報告(理解・表現など)40%、ディスカッション(課題発見など)40%、期末レポート20%の総合評価とする。
- ・到達目標①～②は毎回の授業内で、到達目標③については毎回の授業内および期末レポートと併せて評価する。

- ・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
西島 文香	木曜	3限	西島研究室(人文社会科学部棟2F東)

【オフィスアワーに関する補足】

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| ☐ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☒ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☐ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
社会保障演習	Social Security (Seminar)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12J24	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81568221
ナンバリングコード2	81588221
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免一中学校(社会)専修、教免一高校(公民)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	西島 文香	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

社会保障制度の批判的検討

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

- ① 社会保障の理論形成や法制度の成立過程を検討する
- ② 個別の社会保障制度の機能や制度設計の詳細を理解する
- ③ 社会保障の制度設計のあり方や政策課題を考察する

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

社会保障の理論形成や法制度の成立過程を検討し、個別の社会保障制度の機能や制度設計の詳細を理解したうえで、社会保障の制度設計のあり方や政策課題を考察する。
特に文献の精読や資料作成・分析により諸学説及び諸外国との比較検討を行い、報告とディスカッションにより理解を深める。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	社会保障の理論形成や法制度の成立過程について説明できる
2	個別の社会保障制度の機能や制度設計の詳細について説明できる
3	社会保障の制度設計や政策課題について考察し、論点を抽出できる
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

社会保障、福祉政策

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ①現代社会における社会経済的問題に関心を持ち、社会保障の基本理念や制度概要に関する基礎知識をもっていること
②研究テーマとして具体的な問題意識・関心を明らかにしておくこと

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	西島 文香	
	授業内容	ガイダンス:文献の選定と報告スケジュールの決定	
第2回	担当教員	西島 文香	
	授業内容	文献報告とディスカッション	
第3回	担当教員	西島 文香	
	授業内容	文献報告とディスカッション	
第4回	担当教員	西島 文香	
	授業内容	文献報告とディスカッション	
第5回	担当教員	西島 文香	
	授業内容	文献報告とディスカッション	
第6回	担当教員	西島 文香	
	授業内容	文献報告とディスカッション	
第7回	担当教員	西島 文香	
	授業内容	文献報告とディスカッション	
第8回	担当教員	西島 文香	
	授業内容	文献報告とディスカッション	
第9回	担当教員	西島 文香	
	授業内容	文献報告とディスカッション	
第10回	担当教員	西島 文香	
	授業内容	文献報告とディスカッション	
第11回	担当教員	西島 文香	
	授業内容	文献報告とディスカッション	
第12回	担当教員	西島 文香	
	授業内容	文献報告とディスカッション	
第13回	担当教員	西島 文香	
	授業内容	文献報告とディスカッション	
第14回	担当教員	西島 文香	
	授業内容	文献報告とディスカッション	
第15回	担当教員	西島 文香	
	授業内容	期末レポートのテーマと内容	
第16回	担当教員	西島 文香	
	授業内容	期末レポートの提出	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

- ①テキストの精読と報告資料の作成
- ②関連文献や資料の収集と読み込み

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

使用するテキストは受講者の興味・関心に沿って決定する

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	40
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	20
その他	40

【成績評価に関する補足】

- ・文献報告(理解・表現など)40%、ディスカッション(課題発見など)40%、期末レポート20%の総合評価とする。
- ・到達目標①～②は毎回の授業内で、到達目標③については毎回の授業内および期末レポートと併せて評価する。

- ・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
西島 文香	木曜	3限	西島研究室(人文社会科学部棟2F東)

【オフィスアワーに関する補足】

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| ☐ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☒ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☐ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
発達心理学特論Ⅱ	Developmental Psychology (Advanced II)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12A27	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81512271
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免—高校(公民)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	渡邊 ひとみ	人文社会科学部	hiwatana@kochi-u.ac.jp

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

青年期以降の発達プロセスの理解

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

本授業では、青年期以降のアイデンティティ形成・発達について総合的に学ぶ。各発達段階で経験するライフイベントがどのようにアイデンティティ発達と結びついているのかを学び深めることで、(1)アイデンティティとは何なのか、(2)アイデンティティ形成とは具体的にどのような認知的作業なのか、(3)健康的なアイデンティティ形成・発達を促進するためにはどうしたらよいのか、を議論検討し、理解することを主たる目的とする。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

発達心理学特論Ⅰ，発達心理学演習Ⅰ，発達心理学演習Ⅱ

授業の概要【COURSE SUMMARY】

本授業では、自己(self)及びアイデンティティ(identity)の視点から、青年期以降の発達研究知見を学ぶ。アイデンティティは他者との関わり合い、自己の様々な経験及びその記憶や意味づけ作業により形成されるため、青年期以降の主たるライフイベントと社会的関係性に着目しながら自己発達のプロセスを総合的に議論・検討する。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	青年期以降の自己及びアイデンティティ発達について、その経時的変化を理解することができる。
2	青年期から中年期にかけての諸発達プロセスがアイデンティティ形成やその変化に及ぼす影響を説明することができる。
3	アイデンティティ理論を広く学び、各理論の特徴および長所・短所を理解することができる。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

発達，アイデンティティ，自己，青年期，成人期，中年期，ライフイベント，親密性，職業，子育て，情動

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・発達心理学はもちろんのこと、心理学全般における基礎知識を有していること。
- ・発達心理学特論Ⅰを履修していることが望ましい。
- ・英語文献の講読スキルを有していること。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	渡邊 ひとみ	
	授業内容	オリエンテーション 授業概要の説明	
第2回	担当教員	渡邊 ひとみ	
	授業内容	発達プロセスの理解(1) 成人期の発達プロセスを説明するための主要な理論・枠組みについて理解する。	
第3回	担当教員	渡邊 ひとみ	
	授業内容	発達プロセスの理解(2) エリクソンの発達理論およびその長短について批判的に議論する。	
第4回	担当教員	渡邊 ひとみ	
	授業内容	発達プロセスの理解(3) 成人形成期および成人期初期の発達の特徴について学ぶ。	
第5回	担当教員	渡邊 ひとみ	
	授業内容	発達プロセスの理解(4) 子育て期への移行プロセスについて理解・議論する。	
第6回	担当教員	渡邊 ひとみ	
	授業内容	発達プロセスの理解(5) 中年期についての論文を講読し、その特徴を理解する。	
第7回	担当教員	渡邊 ひとみ	
	授業内容	ライフイベントと発達(1) 成人期における愛着および親密な対人関係の構築について理解を深める。	
第8回	担当教員	渡邊 ひとみ	
	授業内容	ライフイベントと発達(2) 同棲や結婚生活が成人期の発達にどのような影響を及ぼすのかを理解する。	
第9回	担当教員	渡邊 ひとみ	
	授業内容	ライフイベントと発達(3) 子育ておよび世代交代の視点から自己発達を捉える。	
第10回	担当教員	渡邊 ひとみ	
	授業内容	キャリア発達(1) 職業選択・職業意思決定についての知見を学ぶ。	
第11回	担当教員	渡邊 ひとみ	
	授業内容	キャリア発達(2) 職業における変化、あるいは転職・失業が心身に及ぼす影響について理解する。	
第12回	担当教員	渡邊 ひとみ	
	授業内容	キャリア発達(3) 仕事と家庭のバランス(ワークライフバランス)における性差と課題について議論する。	
第13回	担当教員	渡邊 ひとみ	
	授業内容	情動発達(1) 情動の複雑性と統合の過程について学ぶ。	
第14回	担当教員	渡邊 ひとみ	
	授業内容	情動発達(2) 幸福感及び主観的ウェルビーイングの経時的変化について学ぶ。	
第15回	担当教員	渡邊 ひとみ	
	授業内容	総括 第14回までの授業について、総合ディスカッションを行う。	
第16回	担当教員	渡邊 ひとみ	
	授業内容		

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

各授業内容の予習及び復習を行う。また、授業計画で明記したテーマごとに発表及び質疑応答を行うため、発表のための資料収集やプレゼンテーションのための準備も必要となる。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

【教科書：必携】 特になし
 【参考書】 授業中に適宜紹介する。

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	50
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	50
その他	

【成績評価に関する補足】

本授業は、授業への参加度及びレポートにより、本授業目標(①～③)への到達度を総合的に評価する。
 【授業への参加度50%】 授業での発表内容及び質疑応答への積極的な参加を評価する。
 【レポート50%】 学期末のレポート課題内容を評価する。
 なお、本授業への出席が3分の2に満たない場合、また特別な理由なくレポートが提出されない場合は、評価対象外とする。

・ 成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評価	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
渡邊 ひとみ	月曜	5限	人文社会科学部棟 渡邊ひとみ研究室

【オフィスアワーに関する補足】

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|--|--|
| ☒ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ 調整中 | |

授業形態

- ☒ 講義形式が中心
- ☒ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
発達心理学演習Ⅱ	Developmental Psychology (Seminar II)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12A28	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81517221
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免—高校(公民)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR' S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	渡邊 ひとみ	人文社会科学部	hiwatana@kochi-u.ac.jp

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

アイデンティティ研究の批判的検討を踏まえた研究計画立案とその実施

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

- ・先行研究知見に対して批判的思考ができる。
- ・先行研究知見を自身の研究計画立案に応用できる。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

発達心理学特論Ⅰ，発達心理学演習Ⅰ，発達心理学特論Ⅱ

授業の概要【COURSE SUMMARY】

アイデンティティに関する調査・実験の実施法及びデータ分析法など，研究の実践的スキルを習得する。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	近年のアイデンティティ研究の動向をおさえ，先行研究知見を批判的に検討することができる。
2	先行研究知見を踏まえた上で，自身の研究計画立案ができる。
3	自身の研究計画案を適切に実施することができる。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

発達，アイデンティティ，自己，研究立案，データ分析，批判的思考

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・発達心理学および自己・アイデンティティ研究に関する知識を有していること。
- ・発達心理学特論Ⅰ，発達心理学演習Ⅰ，発達心理学演習Ⅱ，を受講していることが望ましい。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	渡邊 ひとみ	
	授業内容	オリエンテーション 授業概要の説明	
第2回	担当教員	渡邊 ひとみ	
	授業内容	研究計画立案と調査・実験の準備(1) 研究計画案の発表	
第3回	担当教員	渡邊 ひとみ	
	授業内容	研究計画立案と調査・実験の準備(2) 研究計画案の発表と研究実施準備	
第4回	担当教員	渡邊 ひとみ	
	授業内容	研究計画立案と調査・実験の準備(3) 研究計画案の発表と研究実施準備	
第5回	担当教員	渡邊 ひとみ	
	授業内容	調査・実験の実施(1) 研究計画案の実施	
第6回	担当教員	渡邊 ひとみ	
	授業内容	調査・実験の実施(2) 研究計画案の実施	
第7回	担当教員	渡邊 ひとみ	
	授業内容	調査・実験の実施(3) 研究計画案の実施	
第8回	担当教員	渡邊 ひとみ	
	授業内容	データ分析(1) データ分析法の学びと実践	
第9回	担当教員	渡邊 ひとみ	
	授業内容	データ分析(2) データ分析法の学びと実践	
第10回	担当教員	渡邊 ひとみ	
	授業内容	データ分析(3) データ分析法の学びと実践	
第11回	担当教員	渡邊 ひとみ	
	授業内容	調査・実験の結果のまとめと考察(1) 分析結果の適切な解釈と考察	
第12回	担当教員	渡邊 ひとみ	
	授業内容	調査・実験の結果のまとめと考察(2) 調査・実験の結果のまとめと考察	
第13回	担当教員	渡邊 ひとみ	
	授業内容	調査・実験の結果報告とディスカッション(1) 研究成果報告	
第14回	担当教員	渡邊 ひとみ	
	授業内容	調査・実験の結果報告とディスカッション(2) 研究成果報告及び今後の課題の検討	
第15回	担当教員	渡邊 ひとみ	
	授業内容	総括 第14回までの内容について、総合ディスカッションを行う。	
第16回	担当教員	渡邊 ひとみ	
	授業内容		

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

各授業内容の予習及び復習を行う。また、授業内で発表及び質疑応答を行うため、発表のための資料収集やプレゼンテーションのための準備も必要となる。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

【教科書】 特になし
【参考書】 各々の研究テーマに応じて、授業中に適宜紹介する。

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	50
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	50
その他	

【成績評価に関する補足】

本授業は、授業への参加度及びレポートにより、本授業目標(①～④)への到達度を総合的に評価する。
【授業への参加度(50%)】 授業での発表内容及び質疑応答への積極的な参加を評価する。
【レポート(50%)】 学期末のレポート課題内容を評価する。
なお、本授業への出席が3分の2に満たない場合、また特別な理由なくレポートが提出されない場合は、評価対象外とする。

・ 成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評価	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
渡邊 ひとみ	月曜	5限	人文社会科学部棟 渡邊ひとみ研究室

【オフィスアワーに関する補足】

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|--|--|
| ☒ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☒ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☒ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
西洋近現代歴史社会論特論	Modern/Contemporary History and Society in the Western World (Advanced)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12B27	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81522271
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校(社会)専修、教免—高校(地理歴史)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR' S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	川本 真浩	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

イギリス帝国=コモンウェルスの近現代史

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

British Imperial & Commonwealth History

授業の目的【COURSE AIMS】

- ・主題は、イギリス帝国及びコモンウェルスの近現代史の展開を多角的な視点から論じることである。
- ・目的は、イギリス帝国及びコモンウェルスの近現代史をベースにしながら、グローバルとローカルを結びつける視角から考え、議論する手がかりをつかむことである。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

西洋近現代史歴史社会論演習

授業の概要【COURSE SUMMARY】

イギリス帝国の形成からコモンウェルス(英連邦)への変貌をへて現在に至るまでの過程に着目し、その歴史的変容について講義する。とくにグローバル・ヒストリーの観点をとりこみながら、各地域及び世界の諸問題についても考察する。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	近現代におけるイギリス帝国およびコモンウェルスの歴史的変容について、これまで理解していることを基に、新たに理解したことを自分の言葉で説明できる。
2	イギリス帝国およびコモンウェルスの近現代史にかかる研究動向について、適確に把握し、かつ批判的に考察することができる。
3	イギリス帝国およびコモンウェルスの近現代史にかかる研究について、自らの視点とその意義を明確にししながら、他の研究者と議論ができる。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

イギリス イギリス帝国 コモンウェルス 近代史 現代史

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

学部専門科目「西洋史概論」及び「西洋社会史」で扱うような内容とレベルに相当する西洋近現代史に関する基本的な知識をもっていること。授業に継続的に出席できるよう、心身の調子を整えること。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	川本 真浩	
	授業内容	オリエンテーション 授業の概要説明。参考文献についてのアドバイス。	
第2回	担当教員	川本 真浩	
	授業内容	19世紀イギリス帝国の概観 講義と質疑・討論	
第3回	担当教員	川本 真浩	
	授業内容	19世紀イギリス帝国の経済 講義と質疑・討論	
第4回	担当教員	川本 真浩	
	授業内容	19世紀イギリス帝国の移民と移民政策 講義と質疑・討論	
第5回	担当教員	川本 真浩	
	授業内容	19世紀イギリス帝国における宗教と伝道活動 講義と質疑・討論	
第6回	担当教員	川本 真浩	
	授業内容	19世紀イギリス帝国とイギリス本国の文化 講義と質疑・討論	
第7回	担当教員	川本 真浩	
	授業内容	19世紀イギリス帝国における文化伝播 講義と質疑・討論	
第8回	担当教員	川本 真浩	
	授業内容	第1次世界大戦とイギリス帝国 講義と質疑・討論	
第9回	担当教員	川本 真浩	
	授業内容	帝国＝コモンウェルス体制とアイルランド 講義と質疑・討論	
第10回	担当教員	川本 真浩	
	授業内容	イギリス帝国と「委任統治」 講義と質疑・討論	
第11回	担当教員	川本 真浩	
	授業内容	第2次世界大戦とイギリス帝国＝コモンウェルス 講義と質疑・討論	
第12回	担当教員	川本 真浩	
	授業内容	インドの独立と帝国＝コモンウェルス体制 講義と質疑・討論	
第13回	担当教員	川本 真浩	
	授業内容	ジェンダーとイギリス帝国＝コモンウェルス 講義と質疑・討論	
第14回	担当教員	川本 真浩	
	授業内容	「新コモンウェルス」とその変容 講義と質疑・討論	
第15回	担当教員	川本 真浩	
	授業内容	全体の総括 講義と質疑・討論	
第16回	担当教員	川本 真浩	
	授業内容	総括レポートの作成・提出	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

- ・授業に関連する史資料の収集と読み解き。
- ・最低でも週4時間程度の自主的研究を基本とする。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

教科書は無し。参考書は、The Oxford History of the British Empire, vol.III-IV, 1998-1999.

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL 】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	50
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	
その他	50

【成績評価に関する補足】

「その他」は授業中に指示する課題（提出物）である。

・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
川本 真浩	月曜	5限	人文社会科学部棟4階412号室

【オフィスアワーに関する補足】

事前にアポを取ってください。

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☒ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| ☐ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☒ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☒ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
西洋近現代歴史社会論演習	Modern/Contemporary History and Society in the Western World (Seminar)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12B28	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81527221
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校(社会)専修、教免—高校(地理歴史)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR' S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	川本 真浩	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)
帝国＝コモンウェルスの近現代史
【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)
British Imperial & Commonwealth History

授業の目的【COURSE AIMS】

・主題は、イギリス及びイギリス帝国の近世・近代史の展開とその史的研究について、多角的な視点からアプローチし、論じることである。 ・目的は、イギリス帝国＝コモンウェルス史にかかる先行研究に基づき、グローバルとローカルを結びつけるなど広範な視角から考え、議論することである。
--

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

西洋近現代史歴史社会論特論

授業の概要【COURSE SUMMARY】

イギリス帝国及びコモンウェルス(英連邦)の歴史にかかる研究文献(主に英語)に拠りながら、イギリス帝国及びコモンウェルスを対象とした歴史研究のために必要な知識と技能を発展させるべく、研究発表とディスカッションをおこなう。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	研究文献(英語)を適確に読み解き、その内容を説明することができる。
2	先行研究について、批判的に考察することができる。
3	イギリス帝国＝コモンウェルス史研究について、自らの視点とその意義を明確にしながら、他の研究者と議論ができる。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

イギリス帝国史、コモンウェルス、近現代史

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

「西洋近現代史歴史社会論特論」で扱う内容とレベルに相当する帝国＝コモンウェルス史にかかる基本的な知識をもっていること。帝国＝コモンウェルス史の概説書レベルの英語を適確に和訳できる程度の英語力ならびに日本語力を備えていること。授業に継続的に出席できるよう、心身の調子を整えること。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	川本 真浩	
	授業内容	オリエンテーション 授業の概要説明。報告ローテーションの決定。参考文献検索方法等についてのアドバイス。	
第2回	担当教員	川本 真浩	
	授業内容	研究文献にかかる検討(1) 講読・報告とディスカッション	
第3回	担当教員	川本 真浩	
	授業内容	研究文献にかかる検討(2) 講読・報告とディスカッション	
第4回	担当教員	川本 真浩	
	授業内容	研究文献にかかる検討(3) 講読・報告とディスカッション	
第5回	担当教員	川本 真浩	
	授業内容	研究文献にかかる検討(4) 講読・報告とディスカッション	
第6回	担当教員	川本 真浩	
	授業内容	研究文献にかかる検討(5) 講読・報告とディスカッション	
第7回	担当教員	川本 真浩	
	授業内容	研究文献にかかる検討(6) 講読・報告とディスカッション	
第8回	担当教員	川本 真浩	
	授業内容	研究文献にかかる検討(7) 講読・報告とディスカッション	
第9回	担当教員	川本 真浩	
	授業内容	研究文献にかかる検討(8) 講読・報告とディスカッション	
第10回	担当教員	川本 真浩	
	授業内容	研究文献にかかる検討(9) 講読・報告とディスカッション	
第11回	担当教員	川本 真浩	
	授業内容	研究文献にかかる検討(10) 講読・報告とディスカッション	
第12回	担当教員	川本 真浩	
	授業内容	研究文献にかかる検討(11) 講読・報告とディスカッション	
第13回	担当教員	川本 真浩	
	授業内容	研究文献にかかる検討(12) 講読・報告とディスカッション	
第14回	担当教員	川本 真浩	
	授業内容	研究文献にかかる検討(13) 講読・報告とディスカッション	
第15回	担当教員	川本 真浩	
	授業内容	研究文献にかかる検討(14) 講読・報告とディスカッション	
第16回	担当教員	川本 真浩	
	授業内容	総括レポートの作成・提出 総括レポートの作成・提出	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

- ・講読文献にかかる史資料の収集と読み解き。
- ・最低でも週8時間程度の自主的研究を基本とする。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

教科書は、A.Burton & D.Kennedy (eds.), How Empire Shaped Us, London, 2016、参考書は授業中に指示する。ただし、最新の学界動向と受講生の関心事によって教科書を変更する場合がある。

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	50
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	
その他	50

【成績評価に関する補足】

「その他」は授業中に指示する課題（提出物）である。

・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
川本 真浩	月曜	5限	人文社会科学部棟4階412号室

【オフィスアワーに関する補足】

事前にアポを取ってください。

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☒ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてグリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| ☐ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☒ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☒ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
応用倫理学特論	Applied Ethics (Advanced)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12F27	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81550271
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免一中学校(社会)専修、教免一高校(公民)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	岩佐 光広	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

人間非中心主義的な倫理学(1)——動物から考える

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

- 1) 動物から倫理を考える。
- 2) 人間非中心主義的な倫理学について考える。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

この授業では、「人間非中心主義」の立場から倫理学を学び、再考することを試みます。
近年、人文学・社会科学の諸分野において、人間中心主義的な前提を問い直す試みが盛んに行われています。たとえば文化人類学では、人間だけでなく他の動植物も含めて異種間の創発的な出会いやかかわり合いに注目する「マルチスピーシーズ民族誌」というアプローチが展開されています。この授業では、倫理学における脱・人間中心主義のチャレンジに注目してみたいと思います。具体的には、動物という存在に注目する倫理学の議論を取り上げ、動物を含めて倫理学を構想することで、従来の倫理学のあり方を改めて捉え、その人間中心主義的な前提では十分に議論できなかった課題に取り組むことのできる「人間非中心主義の倫理学」について考えます。授業は「演習」形式で行います。具体的には、授業までにテキストを読み、各自ディスカッションペーパーを作成します。授業では、ディスカッションペーパーを共有し、そこで示された論点について議論します。なお、授業は基本的にTeamsを使ってオンラインで実施する予定です。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	倫理学の基本的な考え方を説明できる。
2	動物をめぐるどのような倫理的議論が展開されているのかを説明できる。
3	従来の倫理学と、動物から倫理学を考えることの違いについて説明できる。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

倫理学、動物、人間中心主義、人間非中心主義

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・倫理学の専門的な知識は求めませんが、基礎的なことについては事前に学習しておくことを強く求めます。
- ・基礎的なアカデミック・スキルズ(レジュメの作成、文献や資料の収集、口頭発表、レポートの執筆等)を身につけていることを強く求めます。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	岩佐 光広	
	授業内容	イントロダクション(1) 授業の進め方について説明する。	
第2回	担当教員	岩佐 光広	
	授業内容	イントロダクション(2) 倫理学という学問領域の基本について講義する。	
第3回	担当教員	岩佐 光広	
	授業内容	テキスト講読(1) テキスト序章の内容について議論する。	
第4回	担当教員	岩佐 光広	
	授業内容	テキスト講読(2) テキスト第1章の内容について議論する。	
第5回	担当教員	岩佐 光広	
	授業内容	テキスト講読(3) テキスト第2章の内容について議論する。	
第6回	担当教員	岩佐 光広	
	授業内容	テキスト講読(4) テキスト第3章の内容について議論する。	
第7回	担当教員	岩佐 光広	
	授業内容	テキスト講読(5) テキスト第4章の内容について議論する。	
第8回	担当教員	岩佐 光広	
	授業内容	プレゼンテーション(1) テキスト序章～第4章の内容についてプレゼンテーションを行う。	
第9回	担当教員	岩佐 光広	
	授業内容	テキスト講読(6) テキスト第5章の内容について議論する。	
第10回	担当教員	岩佐 光広	
	授業内容	テキスト講読(7) テキスト第6章の内容について議論する。	
第11回	担当教員	岩佐 光広	
	授業内容	テキスト講読(8) テキスト第7章の内容について議論する。	
第12回	担当教員	岩佐 光広	
	授業内容	テキスト講読(9) テキスト終章の内容について議論する。	
第13回	担当教員	岩佐 光広	
	授業内容	プレゼンテーション(2) テキスト第5章～終章の内容についてプレゼンテーションを行う。	
第14回	担当教員	岩佐 光広	
	授業内容	まとめ:あらためて「人間以外から倫理学する」というアプローチについて考える(1) 「人間以外から倫理学する」というアプローチについて議論する。	
第15回	担当教員	岩佐 光広	
	授業内容	まとめ:あらためて「人間以外から倫理学する」というアプローチについて考える(2) 「人間以外から倫理学する」というアプローチについて議論する。	
第16回	担当教員	岩佐 光広	
	授業内容	期末プレゼンテーション 「人間以外から倫理学する」というアプローチについてプレゼンテーションをする。	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

- ・テキストをしっかりと読み、ディスカッションペーパーを作成すること。
- ・参考書をはじめ、授業のテーマに関連する論文等を積極的に読むこと。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

【必携】伊勢田哲治『動物からの倫理学入門』（名古屋大学出版会、2008年）
 【参考書】品川哲彦『倫理学入門』（中央公論社、2020年）

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	
その他	100

【成績評価に関する補足】

目標1については、授業第8回のプレゼンテーション(1)によって評価する(25点)。
 目標2については、授業第13回のプレゼンテーション(2)によって評価する(25点)。
 目標3については、期末プレゼンテーションによって評価する(50点)。

・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
岩佐 光広	水曜	1限	岩佐光広研究室(人文社会科学部棟4階東側)

【オフィスアワーに関する補足】

要予約
 面談は基本的にMicrosoft Teamsを用いてオンラインで行う予定です。

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| ☐ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☒ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☐ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
応用倫理学演習	Applied Ethics (Seminar)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12F28	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81555221
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免一中学校(社会)専修、教免一高校(公民)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	岩佐 光広	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

人間非中心主義的な倫理学(2)——ロボットから考える

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

- 1) ロボットから倫理を考える。
- 2) 人間非中心主義的な倫理学について考える。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

この授業では、「人間非中心主義」の立場から倫理学を学び、再考することを試みます。
近年、人文学・社会科学の諸分野において、人間中心主義的な前提を問い直す試みが盛んに行われています。たとえば文化人類学では、人間だけでなく他の動植物も含めて異種間の創発的な出会いやかかわり合いに注目する「マルチスピーシーズ民族誌」というアプローチが展開されています。この授業では、倫理学における脱・人間中心主義のチャレンジに注目してみたいと思います。具体的には、ロボットをめぐる倫理的な議論を取り上げ、ロボットを含めて倫理学を構想することで、従来の倫理学のあり方を改めて捉え、その人間中心主義的な前提では十分に議論できなかった課題に取り組むことのできる「人間非中心主義の倫理学」について考えます。
授業は「演習」形式で行います。具体的には、授業までにテキストを読み、各自ディスカッションペーパーを作成します。授業では、ディスカッションペーパーを共有し、そこで示された論点について議論します。なお、授業は基本的にTeamsを使ってオンラインで実施する予定です。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	ロボットめぐりどのような倫理的な議論が行われているのか説明できる。
2	従来の倫理学と、ロボットから倫理学を考えることの違いについて説明できる。
3	人間以外から倫理学をすることの意義について説明できる。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

倫理学、ロボット、人間中心主義、人間非中心主義

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・倫理学の専門的な知識は求めませんが、基礎的なことについては事前に学習しておくことを強く求めます。
- ・基礎的なアカデミック・スキルズ(レジュメの作成、文献や資料の収集、口頭発表、レポートの執筆等)を身につけていることを強く求めます。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

- ・授業は基本的にMicrosoft Teamsを用いてオンラインで実施する予定です。

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	岩佐 光広	
	授業内容	イントロダクション(1) 授業の進め方について説明する。	
第2回	担当教員	岩佐 光広	
	授業内容	イントロダクション(2) 倫理学の基本について講義する。	
第3回	担当教員	岩佐 光広	
	授業内容	テキスト講読(1) テキストはじめにおよび第1章の内容について議論する。	
第4回	担当教員	岩佐 光広	
	授業内容	テキスト講読(2) テキスト第2章の内容について議論する。	
第5回	担当教員	岩佐 光広	
	授業内容	テキスト講読(3) テキスト第3章の内容について議論する。	
第6回	担当教員	岩佐 光広	
	授業内容	テキスト講読(4) テキスト第4章の内容について議論する。	
第7回	担当教員	岩佐 光広	
	授業内容	プレゼンテーション(1) テキスト第1章～第4章の内容についてプレゼンテーションをする。	
第8回	担当教員	岩佐 光広	
	授業内容	テキスト講読(5) テキスト第5章の内容について議論する。	
第9回	担当教員	岩佐 光広	
	授業内容	テキスト講読(6) テキスト第6章の内容について議論する。	
第10回	担当教員	岩佐 光広	
	授業内容	テキスト講読(7) テキスト第7章の内容について議論する。	
第11回	担当教員	岩佐 光広	
	授業内容	テキスト講読(8) テキスト第8章の内容について議論する。	
第12回	担当教員	岩佐 光広	
	授業内容	プレゼンテーション(2) テキスト第5章～第8章の内容についてプレゼンテーションをする。	
第13回	担当教員	岩佐 光広	
	授業内容	あらためて「人間以外から倫理学する」というアプローチについて考える(1) テキストの内容を踏まえ「人間以外から倫理学する」というアプローチについて議論する。	
第14回	担当教員	岩佐 光広	
	授業内容	あらためて「人間以外から倫理学する」というアプローチについて考える(2) テキストの内容を踏まえ「人間以外から倫理学する」というアプローチについて議論する。	
第15回	担当教員	岩佐 光広	
	授業内容	あらためて「人間以外から倫理学する」というアプローチについて考える(3) テキストの内容を踏まえ「人間以外から倫理学する」というアプローチについて議論する。	
第16回	担当教員	岩佐 光広	
	授業内容	期末プレゼンテーション 「人間以外から倫理学する」というアプローチについてプレゼンテーションをする。	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

- ・テキストをしっかりと読み、ディスカッションペーパーを作成すること。
- ・授業のテーマに関連する論文等を積極的に読むこと。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

【必携】 久木田水生・神崎宣次・佐々木拓『ロボットからの倫理学入門』（名古屋大学出版会、2017年）
 【参考書】 品川哲彦『倫理学入門』（中央公論社、2020年）

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	
その他	100

【成績評価に関する補足】

目標1については、授業第7回のプレゼンテーション(1)によって評価する(25点)。
 目標2については、授業第12回のプレゼンテーション(2)によって評価する(25点)。
 目標3については、期末プレゼンテーションによって評価する(50点)。

・ 成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
岩佐 光広	水曜	1限	岩佐光広研究室(人文社会科学部棟4階東側)

【オフィスアワーに関する補足】

要予約
 面談は基本的にMicrosoft Teamsを用いてオンラインで行う予定です。

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| ☐ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☒ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☐ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
会社証券取引法特論	Law of Corporations and Securities (Advanced)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12G27	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81591871
ナンバリングコード2	81561871
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR' S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	切詰 和雅	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

企業間取引で使用する証券(特に手形)に関する諸制度を理解するとともに、有価証券に関する法的問題について検討する能力を身につける。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

--

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	有価証券に関する諸制度について、制度の設立の趣旨、機能等を踏まえて説明できる。
2	有価証券に関する法的問題について、問題の所在、原因を説明できる。
3	有価証券に関する法的問題について、判例・学説を説明できる。
4	有価証券に関する法的問題について、理論的に私見を述べることができる。
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

会社、証券、手形

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

民法、会社法、手形法の基礎知識が必要

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	切詰 和雅	
	授業内容	手形小切手の意義・経済的機能	
第2回	担当教員	切詰 和雅	
	授業内容	手形法と電子記録債権法	
第3回	担当教員	切詰 和雅	
	授業内容	手形行為の概念・特性	
第4回	担当教員	切詰 和雅	
	授業内容	手形理論	
第5回	担当教員	切詰 和雅	
	授業内容	手形法と民法	
第6回	担当教員	切詰 和雅	
	授業内容	他人による手形行為	
第7回	担当教員	切詰 和雅	
	授業内容	偽造と無権代理	
第8回	担当教員	切詰 和雅	
	授業内容	裏書の効力	
第9回	担当教員	切詰 和雅	
	授業内容	善意取得制度	
第10回	担当教員	切詰 和雅	
	授業内容	善意取得に関する諸問題	
第11回	担当教員	切詰 和雅	
	授業内容	手形抗弁(総論)	
第12回	担当教員	切詰 和雅	
	授業内容	手形抗弁(各論)	
第13回	担当教員	切詰 和雅	
	授業内容	特殊の裏書	
第14回	担当教員	切詰 和雅	
	授業内容	手形の支払と遡求	
第15回	担当教員	切詰 和雅	
	授業内容	手形保証	
第16回	担当教員	切詰 和雅	
	授業内容	期末試験	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

授業内容についての復習
課題(レポート)の作成

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

〔必須〕六法(コンパクト六法、ポケット六法等)。
教科書は、第1回目の講義において指示する。

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	30
中間試験	
中間レポート	
期末試験	70
期末レポート	
その他	

【成績評価に関する補足】

期末試験70%、レポート課題や学習意欲(授業中への積極的な参加)30%、合計100%で評価する。
到達目標1から4については、期末試験やレポートで確認する。

・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
切詰 和雅	金曜	2限	人文社会科学部棟2階、切詰研究室

【オフィスアワーに関する補足】

要予約

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☒ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|--|--|
| ☒ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ 調整中 | |

授業形態

- ☒ 講義形式が中心
- ☐ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
会社証券取引法演習	Law of Corporations and Securities (Seminar)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12G28	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81596821
ナンバリングコード2	81566821
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
0	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR' S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	切詰 和雅	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

--

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

--

授業の目的【COURSE AIMS】

有価証券に関する法的問題について、参考文献を収集し理解を深めたうえで、検討する能力を身につける。

--

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

手形法に関する判例を取り扱います。
1つの判決につき、2, 3回程度、授業を行うことになろうかと思います。1. 手形の振出に関する判例、2. 手形の裏書に関する判例、3. 手形の支払に関する判例について、順次取り扱います。なお、その時々実際に起こっている問題について、問題の所在を明らかにし、検討することもあります。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	有価証券に関する法的問題について、適切な文献を検索、収集することができる。
2	有価証券に関する法的問題について、判例・学説を自分の言葉で説明することができる。
3	有価証券に関する法的問題について、理論的根拠(他説への批判、自説への批判に対する反批判等)を示して、私見を述べることができる。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

会社、証券、手形

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

民法、会社法、手形法の基礎知識が必要

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	切詰 和雅	
	授業内容	判例①の報告(事実・判旨の理解)	
第2回	担当教員	切詰 和雅	
	授業内容	判例①の報告・検討	
第3回	担当教員	切詰 和雅	
	授業内容	判例①の報告・検討・解説	
第4回	担当教員	切詰 和雅	
	授業内容	判例②の報告(事実・判旨の理解)	
第5回	担当教員	切詰 和雅	
	授業内容	判例②の報告・検討	
第6回	担当教員	切詰 和雅	
	授業内容	判例②の報告・検討・解説	
第7回	担当教員	切詰 和雅	
	授業内容	判例③の報告(事実・判旨の理解)	
第8回	担当教員	切詰 和雅	
	授業内容	判例③の報告・検討	
第9回	担当教員	切詰 和雅	
	授業内容	判例③の報告・検討・解説	
第10回	担当教員	切詰 和雅	
	授業内容	判例④の報告(事実・判旨の理解)	
第11回	担当教員	切詰 和雅	
	授業内容	判例④の報告・検討	
第12回	担当教員	切詰 和雅	
	授業内容	判例④の報告・検討・解説	
第13回	担当教員	切詰 和雅	
	授業内容	判例⑤の報告(事実・判旨の理解)	
第14回	担当教員	切詰 和雅	
	授業内容	判例⑤の報告・検討	
第15回	担当教員	切詰 和雅	
	授業内容	判例⑤の報告・検討・解説	
第16回	担当教員	切詰 和雅	
	授業内容		

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

授業内容についての予習(文献の収集と理解)
課題(レポート等)の作成

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

[必須]六法(コンパクト六法、ポケット六法等)。
教科書は、第1回目の講義において指示する。

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	40
学習意欲・授業参加度	60
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	
その他	

【成績評価に関する補足】

課題(レポート等)や学習意欲(授業中への積極的な参加)、合計100%で評価する。
到達目標1から3については、課題(レポート等)や授業における学習態度で確認する。

・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
切 詰 和 雅	金 曜	2 限	人文社会科学部棟2階、切詰研究室

【オフィスアワーに関する補足】

要予約

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☒ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|--|--|
| ☒ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☒ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
言語文化論特論	Language and Culture (Advanced)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12D31	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81540871
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校・高校(英語)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	古閑 恭子	人文社会科学部	koga@kochi-u.ac.jp

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

言語学、社会言語学

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

Linguistics, Sociolinguistics

授業の目的【COURSE AIMS】

・言語学、社会言語学、言語文化論の領域における諸研究、動向、方法論を理解し、自らの研究テーマに活かす。 お、本授業はグローバル社会研究コースの言語コミュニケーション領域に属する科目である。	・な
---	----

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

文献講読を通じて、言語研究の最新のトピックおよび理論動向について検討する。並行して受講生の研究発表も随時行う。講読文献については、受講生の関心に応じて、希望も聞きつつ決めたい。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標 (COURSE OBJECTIVES)
1	言語研究に必要な知識、考え方を身につける。
2	言語研究における動向を理解し、批判的に考察することができる。
3	諸言語研究の中で自分の研究を位置づけ、議論することができる。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

言語学、社会言語学、言語文化論

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

言語学、社会言語学に関する基本的知識を有すること。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	古閑 恭子	
	授業内容	オリエンテーション 授業概要の説明および発表ローテーションの決定。	
第2回	担当教員	古閑 恭子	
	授業内容	文献購読 輪読、発表およびディスカッション	
第3回	担当教員	古閑 恭子	
	授業内容	文献購読 輪読、発表およびディスカッション	
第4回	担当教員	古閑 恭子	
	授業内容	文献購読 輪読、発表およびディスカッション	
第5回	担当教員	古閑 恭子	
	授業内容	文献購読 輪読、発表およびディスカッション	
第6回	担当教員	古閑 恭子	
	授業内容	文献購読 輪読、発表およびディスカッション	
第7回	担当教員	古閑 恭子	
	授業内容	文献購読 輪読、発表およびディスカッション	
第8回	担当教員	古閑 恭子	
	授業内容	文献購読 輪読、発表およびディスカッション	
第9回	担当教員	古閑 恭子	
	授業内容	文献購読 輪読、発表およびディスカッション	
第10回	担当教員	古閑 恭子	
	授業内容	文献購読 輪読、発表およびディスカッション	
第11回	担当教員	古閑 恭子	
	授業内容	文献購読 輪読、発表およびディスカッション	
第12回	担当教員	古閑 恭子	
	授業内容	文献購読 輪読、発表およびディスカッション	
第13回	担当教員	古閑 恭子	
	授業内容	文献購読 輪読、発表およびディスカッション	
第14回	担当教員	古閑 恭子	
	授業内容	文献購読 輪読、発表およびディスカッション	
第15回	担当教員	古閑 恭子	
	授業内容	文献購読 輪読、発表およびディスカッション	
第16回	担当教員	古閑 恭子	
	授業内容	課題作成、提出 課題作成、提出	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

- ・テキストの精読、関連資料の収集およびレジュメの作成。
- ・最低週4時間程度の自主学習を必要とする。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

未定。受講生と相談の上決める。

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	
その他	

【成績評価に関する補足】

発表内容40%、授業参加態度40%、期末レポート20%。

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
古閑 恭子	月曜	1限	人文社会科学部棟3階 古閑研究室

【オフィスアワーに関する補足】

不定、メール連絡してください。

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| ☐ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☒ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☐ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
言語文化論演習	Language and Culture (Seminar)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12D32	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81545821
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校・高校(英語)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	古閑 恭子	人文社会科学部	koga@kochi-u.ac.jp

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

言語学、社会言語学

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

Linguistics, Sociolinguistics

授業の目的【COURSE AIMS】

・言語学、社会言語学、言語文化論の領域における諸研究、動向、方法論を理解し、自らの研究テーマに活かす。
 お、本授業はグローバル社会研究コースの言語コミュニケーション領域に属する科目である。

・な

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

文献講読を通じて、言語研究の最新のトピックおよび理論動向について検討する。並行して受講生の研究発表も随時行う。講読文献については、受講生の関心に応じて、希望も聞きつつ決めたい。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標 (COURSE OBJECTIVES)
1	言語研究に必要な知識、考え方を身につける。
2	言語研究における動向を理解し、批判的に考察することができる。
3	言語研究の諸研究の中で自らの研究を位置づけ、議論することができる。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

言語学、社会言語学、言語文化論

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

言語学、社会言語学に関する基本的な知識を有すること。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	古閑 恭子	
	授業内容	オリエンテーション 授業概要の説明および発表ローテーションの決定。	
第2回	担当教員	古閑 恭子	
	授業内容	文献講読 輪読、発表およびディスカッション	
第3回	担当教員	古閑 恭子	
	授業内容	文献講読 輪読、発表およびディスカッション	
第4回	担当教員	古閑 恭子	
	授業内容	文献講読 輪読、発表およびディスカッション	
第5回	担当教員	古閑 恭子	
	授業内容	文献講読 輪読、発表およびディスカッション	
第6回	担当教員	古閑 恭子	
	授業内容	文献講読 輪読、発表およびディスカッション	
第7回	担当教員	古閑 恭子	
	授業内容	文献講読 輪読、発表およびディスカッション	
第8回	担当教員	古閑 恭子	
	授業内容	文献講読 輪読、発表およびディスカッション	
第9回	担当教員	古閑 恭子	
	授業内容	文献講読 輪読、発表およびディスカッション	
第10回	担当教員	古閑 恭子	
	授業内容	文献講読 輪読、発表およびディスカッション	
第11回	担当教員	古閑 恭子	
	授業内容	文献講読 輪読、発表およびディスカッション	
第12回	担当教員	古閑 恭子	
	授業内容	文献講読 輪読、発表およびディスカッション	
第13回	担当教員	古閑 恭子	
	授業内容	文献講読 輪読、発表およびディスカッション	
第14回	担当教員	古閑 恭子	
	授業内容	文献講読 輪読、発表およびディスカッション	
第15回	担当教員	古閑 恭子	
	授業内容	文献講読 輪読、発表およびディスカッション	
第16回	担当教員	古閑 恭子	
	授業内容	課題作成、提出 課題作成、提出	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

・テキストの精読、関連資料の収集およびレジュメの作成。
週4時間程度の自主学習を必要とする。

・最低

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

未定。受講生と相談の上決める。

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	
その他	

【成績評価に関する補足】

発表内容40%、授業参加態度40%、期末レポート20%。

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
古閑 恭子	月曜	1限	人文社会科学部棟3階 古閑研究室

【オフィスアワーに関する補足】

不定、メール連絡してください。

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| ☐ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☒ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☐ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
現代メディア論特論	Contemporary Media (Advanced)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12F31	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81550471
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免一中学校(社会)専修、教免一高校(公民)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	遠山 茂樹	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

メディア論の基礎

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

Fundamentals of Media Theory

授業の目的【COURSE AIMS】

【主題】

本授業では、「メディア」の社会学の視点から、基礎文献の輪読を通じて、メディア研究の基礎を修得し、応用することができることを目指す。

【目的】

- ・メディア研究の基礎的な理論について説明できる
- ・メディア理論を通じて社会現象を理解することができる
- ・メディア理論を関連づけて自らの研究テーマを構想することができる

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

現代メディア論演習

授業の概要【COURSE SUMMARY】

メディア・テクノロジーの登場・普及・発展は、近代以降の社会を大きく変容してきた。本授業は、社会科学の立場から、各種メディアの登場とその影響について、主だった文献を中心に考えていく。

前半はメディア史の視点から、近代以降の社会におけるメディアの生成・普及とその影響について検討する。特にアナログメディアの発展と社会変容との関連に着目し、マスメディア論やマクルーハンやキットラーなどのメディア論について扱う。

後半はデジタルメディアの登場からインターネットが普及した現在におけるメディア状況について検討する。デジタルメディアの基礎となる基礎情報学や、インターネット普及後のソーシャルメディアに関わる内容について扱う。

基本的には、各回のテーマに沿った文献を輪読した上でディスカッションを行う。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標 (COURSE OBJECTIVES)
1	メディア研究の基礎的な理論について説明できる(「知識・理解」)
2	メディア理論を通じて社会現象を理解することができる(「思考・判断」)
3	メディア理論を関連づけて自らの研究テーマを構想することができる(「関心・意欲」)
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

メディア史、マスメディア、デジタルメディア、ソーシャルメディア、社会学

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

メディアへの関心
社会学もしくは社会科学の基礎知識

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	遠山 茂樹	
	授業内容	ガイダンス	
第2回	担当教員	遠山 茂樹	
	授業内容	マスメディアの理論(1)弾丸理論・皮下注射理論	
第3回	担当教員	遠山 茂樹	
	授業内容	マスメディアの理論(2)限定効果論	
第4回	担当教員	遠山 茂樹	
	授業内容	マスメディアの理論(3)強力効果論	
第5回	担当教員	遠山 茂樹	
	授業内容	メディアとテクノロジー(1):マクルーハンの理論1	
第6回	担当教員	遠山 茂樹	
	授業内容	メディアとテクノロジー(2):マクルーハンの理論2	
第7回	担当教員	遠山 茂樹	
	授業内容	メディアとテクノロジー(3):キットラーの理論	
第8回	担当教員	遠山 茂樹	
	授業内容	デジタルメディアの理論(1)基礎情報学1:西垣(2004, 2008)	
第9回	担当教員	遠山 茂樹	
	授業内容	デジタルメディアの理論(2)基礎情報学2:西垣(2004, 2008)	
第10回	担当教員	遠山 茂樹	
	授業内容	デジタルメディアの理論(2)基礎情報学3:西垣(2004, 2008)	
第11回	担当教員	遠山 茂樹	
	授業内容	ソーシャルメディアの理論(1)常時接続の生活:ボイド(2014=2014)とターナー(2016=2017)	
第12回	担当教員	遠山 茂樹	
	授業内容	ソーシャルメディアの理論(2)ツイッター研究:北村・佐々木・河井(2016)	
第13回	担当教員	遠山 茂樹	
	授業内容	ソーシャルメディアの理論(3)デモクラシー:サンスティーン(2001=2003)・パリサー(2011=2016)	
第14回	担当教員	遠山 茂樹	
	授業内容	ソーシャルメディアの理論(4)ネットワーク科学:カルダレリ・カンタンツァロ(2012=2014)	
第15回	担当教員	遠山 茂樹	
	授業内容	研究発表	
第16回	担当教員	遠山 茂樹	
	授業内容		

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

基本的に、各講義内容の予習・復習は授業時間外学習とする。
 授業における発表・報告の準備も授業外学習で対応するものとする。
 レポート執筆も授業外学習で対応するものとする。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

田崎篤郎・児島和人(1996)『マス・コミュニケーション効果研究の展開[新版]』北樹出版
 マクルーハン, M. (1964=1987)『メディア論』みすず出版
 キットラー, F.A. (1986=1999)『グラモフォン・フィルム・タイプライター』筑摩書房
 西垣通(2004)『基礎情報学』NTT出版
 西垣通(2008)『続 基礎情報学』NTT出版
 ボイド, D. (2014=2014)『つながりっぱなしの日常を生きる』草思社
 タークル, S. (2016=2017)『一緒にいてもスマホ』青土社
 北村智・佐々木裕一・河井大介(2016)『ツイッターの心理学』誠信書房
 サンスディーン, C. (2001=2003)『インターネットは民主主義の敵か』毎日新聞社
 パリサー, E. (2011=2016)『フィルターバブル』早川書房
 カルダレリ, G. & カンタンツァロ, M. (2012=2014)『ネットワーク科学』丸善出版

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	20
中間試験	
中間レポート	60
期末試験	
期末レポート	
その他	20

【成績評価に関する補足】

演習への貢献(20%)、中間レポート(4回)(60%=15%×4回)、プレゼンテーション(20%)を総合的に判断する。
 到達目標1と2は、演習への貢献と中間レポートで確認する。到達目標3はプレゼンテーションで確認する。

・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
遠山 茂樹	木曜	3限	人文社会科学部棟3F 遠山研究室

【オフィスアワーに関する補足】

要予約

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| ☐ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☒ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☐ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
現代メディア論演習	Contemporary Media (Seminar)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12F32	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81555421
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免一中学校(社会)専修、教免一高校(公民)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR' S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	遠山 茂樹	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

メディア調査の実践

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

Conducting Media Research

授業の目的【COURSE AIMS】

【主題】

本授業の主題は、メディア調査の実践である。受講生の関心テーマに沿ってメディア調査をデザインし、試行するまでを目的としている。

【目的】

- ・社会学的基礎概念を駆使して、現代メディアに関わる現象を自らの視点から考察できる
- ・メディアと社会との関連性を主題に社会調査研究を実践することができる
- ・社会調査結果を分析し、研究報告として発表することができる

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

現代メディア論特講

授業の概要【COURSE SUMMARY】

本授業の主題は、メディア調査の実践である。メディアに関わる社会的現実を把握するためには、現実社会を何らかの方法で”切り取る”ことが必要であり、そのために社会調査がおこなわれる。本演習では、受講者の関心テーマの下で、メディア研究に関わる調査法を学び、調査計画から実践までを「試行」したい。

授業では、受講生各自の関心テーマの下で文献レビューをしてもらい、対象テーマにおける研究アプローチを万でもらう。その上で、自らも調査研究を計画し、その一部を実践してもらう。最終的には実践した社会調査の報告をしてもらう。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	社会学的基礎概念を駆使して、現代メディアに関わる現象を自らの視点から考察できる(「思考・判断」)
2	メディアと社会との関連性を主題に社会調査研究を実践することができる(「技能・表現」)
3	社会調査結果を分析し、研究報告として発表することができる(「技能・表現」)
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

メディア、社会調査、文献レビュー、メディア論、社会学

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・メディア論の基礎知識を修得していること
- ・社会調査の基礎を理解していること

※統計に関する基礎知識があると望ましい

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	遠山 茂樹	
	授業内容	ガイダンス	
第2回	担当教員	遠山 茂樹	
	授業内容	テーマ設定:本演習で受講生が取り組む研究領域を設定する	
第3回	担当教員	遠山 茂樹	
	授業内容	文献レビュー1:各受講生が設定したテーマに即した文献収集を行う	
第4回	担当教員	遠山 茂樹	
	授業内容	文献レビュー2:各受講生が設定したテーマに即した文献収集の継続	
第5回	担当教員	遠山 茂樹	
	授業内容	文献レビュー3:各受講生が設定したテーマに即した文献レビュー	
第6回	担当教員	遠山 茂樹	
	授業内容	研究アプローチ探求1:受講生が設定したテーマへのアプローチ方法の検討	
第7回	担当教員	遠山 茂樹	
	授業内容	研究アプローチ探求2:受講生が設定したテーマへのアプローチ方法の検討継続	
第8回	担当教員	遠山 茂樹	
	授業内容	研究アプローチ探求3:受講生が設定したテーマへのアプローチ方法の決定	
第9回	担当教員	遠山 茂樹	
	授業内容	研究調査実践1:社会調査の準備	
第10回	担当教員	遠山 茂樹	
	授業内容	研究調査実践2:社会調査の実践	
第11回	担当教員	遠山 茂樹	
	授業内容	研究調査実践3:社会調査のまとめ	
第12回	担当教員	遠山 茂樹	
	授業内容	分析1:社会調査データの整理・分析	
第13回	担当教員	遠山 茂樹	
	授業内容	分析2:社会調査データの整理・分析	
第14回	担当教員	遠山 茂樹	
	授業内容	研究報告の作成	
第15回	担当教員	遠山 茂樹	
	授業内容	研究発表	
第16回	担当教員	遠山 茂樹	
	授業内容		

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

演習の準備や社会調査実践は授業時間外での取り組みとなる。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

(参考書等)

大谷信介ほか編著(2013)『新・社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房

小宮あすか・布井雅人(2018)『Excelで今すぐはじめる心理統計: 簡単ツールHADで基本を身につける』講談社

北澤毅・古閑正義編(2008)『質的調査法を学ぶ人のために』世界思想社

浪田陽子・福岡良明編(2012)『はじめてのメディア研究』世界思想社

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	25
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	
その他	75

【成績評価に関する補足】

演習への貢献(25%)、文献レビュー(25%)、プレゼンテーション(25%)、調査報告書(25%)を総合的に判断する。
到達目標1については演習への貢献、および、文献レビューで確認する。到達目標2と3は、プレゼンテーション、および、調査報告書で確認する。

・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィシアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
遠山 茂樹	木曜	3限	人文社会科学部棟3F 遠山研究室

【オフィシアワーに関する補足】

要予約

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| ☐ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☒ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☐ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
憲法特論Ⅱ	Constitutional Law (Advanced II)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12G31	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81590671
ナンバリングコード2	81560671
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免一中学校(社会)専修、教免一高校(公民)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	岡田 健一郎	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

--

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

--

授業の目的【COURSE AIMS】

憲法(海外の憲法を含む)に関する諸問題について、学部よりも深いレベルで理解できるようになることを目指す。

--

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

憲法演習Ⅱ

授業の概要【COURSE SUMMARY】

憲法の諸課題につき、文献や判例の講読を通して戦前や海外の憲法との比較を行っていく。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	憲法(海外の憲法を含む)の基本的な知識を理解できるようになる
2	憲法(海外の憲法を含む)に関する基本的な文献を精読できるようになる
3	憲法(海外の憲法を含む)に関する基本的な文献を探せるようになる
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

憲法、基本的人権、議会、政府、裁判所、地方自治、平和主義、民主主義、立憲主義

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

学部で憲法の講義を履修していることが望ましい。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	岡田 健一郎	
	授業内容	オリエンテーション 授業の概要説明。報告ローテーションの決定。文献収集についてのアドバイス。	
第2回	担当教員	岡田 健一郎	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第3回	担当教員	岡田 健一郎	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第4回	担当教員	岡田 健一郎	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第5回	担当教員	岡田 健一郎	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第6回	担当教員	岡田 健一郎	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第7回	担当教員	岡田 健一郎	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第8回	担当教員	岡田 健一郎	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第9回	担当教員	岡田 健一郎	
	授業内容	文献2冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第10回	担当教員	岡田 健一郎	
	授業内容	文献2冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第11回	担当教員	岡田 健一郎	
	授業内容	文献2冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第12回	担当教員	岡田 健一郎	
	授業内容	文献2冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第13回	担当教員	岡田 健一郎	
	授業内容	文献2冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第14回	担当教員	岡田 健一郎	
	授業内容	文献2冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第15回	担当教員	岡田 健一郎	
	授業内容	全体の総括 各自発表	
第16回	担当教員	岡田 健一郎	
	授業内容	総括レポートの作成・提出 総括レポートの作成・提出	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

- ・テキストの精読と報告資料の作成。あわせて授業に関連する資料の収集。
- ・最低でも週4時間程度の自主的研究を基本とする。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

第1回の授業の際に相談して決める。

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	40
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	20
その他	40

【成績評価に関する補足】

- ・担当時の報告内容40%、毎回の議論における参加態度40%、期末レポート20%の総合評価とする。
- ・到達目標1～3は、毎回の授業態度の中で評価する。到達目標1については、授業態度に加えて期末レポートと合わせて評価する。

- ・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
岡田 健一郎	火曜	2限	人文社会科学部棟3階 岡田研究室

【オフィスアワーに関する補足】

要予約

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| ☐ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☒ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☐ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
憲法演習Ⅱ	Constitutional Law (Seminar II)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12G32	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81595621
ナンバリングコード2	81565621
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免一中学校(社会)専修、教免一高校(公民)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	岡田 健一郎	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

--

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

--

授業の目的【COURSE AIMS】

憲法(海外の憲法を含む)に関する諸問題について、自分で問いを設定し、調査・発表ができるようになること。

--

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

憲法特論Ⅱ

授業の概要【COURSE SUMMARY】

憲法の諸課題につき、戦前や海外の憲法などについて受講生がテーマを設定し、調査を行っていく。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	憲法(海外の憲法を含む)の知識を用いて問いを設定できるようになる
2	憲法(海外の憲法を含む)に関する問いについて、調査・発表できるようになる
3	調査・発表を通じて、憲法(海外の憲法を含む)を深く理解できるようになる
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

憲法、基本的人権、議会、政府、裁判所、地方自治、平和主義、民主主義、立憲主義

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

学部で憲法の講義を履修していることが望ましい。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	岡田 健一郎	
	授業内容	オリエンテーション 授業の概要説明。報告ローテーションの決定。文献収集についてのアドバイス。	
第2回	担当教員	岡田 健一郎	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第3回	担当教員	岡田 健一郎	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第4回	担当教員	岡田 健一郎	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第5回	担当教員	岡田 健一郎	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第6回	担当教員	岡田 健一郎	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第7回	担当教員	岡田 健一郎	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第8回	担当教員	岡田 健一郎	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第9回	担当教員	岡田 健一郎	
	授業内容	文献2冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第10回	担当教員	岡田 健一郎	
	授業内容	文献2冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第11回	担当教員	岡田 健一郎	
	授業内容	文献2冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第12回	担当教員	岡田 健一郎	
	授業内容	文献2冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第13回	担当教員	岡田 健一郎	
	授業内容	文献2冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第14回	担当教員	岡田 健一郎	
	授業内容	文献2冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第15回	担当教員	岡田 健一郎	
	授業内容	全体の総括 各自発表	
第16回	担当教員	岡田 健一郎	
	授業内容	総括レポートの作成・提出 総括レポートの作成・提出	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

- ・テキストの精読と報告資料の作成。あわせて授業に関連する資料の収集。
- ・最低でも週4時間程度の自主的研究を基本とする。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

第1回の授業の際に相談して決める。

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	40
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	20
その他	40

【成績評価に関する補足】

- ・担当時の報告内容40%、毎回の議論における参加態度40%、期末レポート20%の総合評価とする。
- ・到達目標1～3は、毎回の授業態度の中で評価する。到達目標3については、授業態度に加えて期末レポートと合わせて評価する。

- ・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
岡田 健一郎	火曜	2限	人文社会科学部棟3階 岡田研究室

【オフィスアワーに関する補足】

要予約

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| ☐ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☒ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☐ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
地域環境経済学特論	Economics for Regional Environment (Advanced)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12J31	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81564471
ナンバリングコード2	81584471
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免一高校(商業)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	新保 輝幸	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

--

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

--

授業の目的【COURSE AIMS】

地域におけるさまざまな環境問題→自然資源の劣化問題、およびそれに対する政策的対応に関し、経済学的にアプローチする基礎を習得する。

--

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

地域におけるさまざまな環境問題について、その実態、発生のメカニズム、その問題に対する政策的対応等について、関連文献を輪読し、経済学的に検討する。以上を通して、地域の環境問題に関する理論的研究・実証研究の基礎を身につける。 テーマや文献は受講者と相談して決めるが、授業計画は、主に自然資源の劣化問題を取り上げる場合の進行案である。
--

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	環境問題について、単なる感情論ではなく、事実やデータに基づいた意見を示すことができる
2	環境問題について、経済学の観点から分析し、説明することができる
3	
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

環境経済学, 環境問題の経済分析, 自然資源の劣化, 自然資源の最適利用

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

学部レベルのミクロ経済学の知識と分析能力、環境問題への関心があるのが望ましい。
--

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	新保 輝幸	
	授業内容	0. 顔合わせとオリエンテーション	
第2回	担当教員	新保 輝幸	
	授業内容	1. 自然資源の持続的利用に関わる経済理論(1)コモンズの悲劇	
第3回	担当教員	新保 輝幸	
	授業内容	2. 自然資源の持続的利用に関わる経済理論(2)再生可能資源	
第4回	担当教員	新保 輝幸	
	授業内容	3. 自然資源の持続的利用に関わる経済理論(3)所有権アプローチ	
第5回	担当教員	新保 輝幸	
	授業内容	4. 自然資源とその所有形態:世界の森林問題を事例に(1)概観	
第6回	担当教員	新保 輝幸	
	授業内容	5. 自然資源とその所有形態:世界の森林問題を事例に(2)無所有・オープンアクセス	
第7回	担当教員	新保 輝幸	
	授業内容	6. 自然資源とその所有形態:世界の森林問題を事例に(3)国有	
第8回	担当教員	新保 輝幸	
	授業内容	7. 自然資源とその所有形態:世界の森林問題を事例に(4):私有	
第9回	担当教員	新保 輝幸	
	授業内容	8. 自然資源とその所有形態:世界の森林問題を事例に(5):共有	
第10回	担当教員	新保 輝幸	
	授業内容	9. 日本の森林問題(1)	
第11回	担当教員	新保 輝幸	
	授業内容	10. 日本の森林問題(2)	
第12回	担当教員	新保 輝幸	
	授業内容	11. サンゴ礁の劣化問題と持続的利用(1): 概観	
第13回	担当教員	新保 輝幸	
	授業内容	12. サンゴ礁の劣化問題と持続的利用(2): 高知県柏島の事例	
第14回	担当教員	新保 輝幸	
	授業内容	13. サンゴ礁の劣化問題と持続的利用(3): 鹿児島県与論島の事例	
第15回	担当教員	新保 輝幸	
	授業内容	14. サンゴ礁の劣化問題と持続的利用(4): フィリピン・ビコール地方の海洋保護区	
第16回	担当教員	新保 輝幸	
	授業内容	最終レポートの提出	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

教員から示された本ないし論文を精読し、レジュメ等にまとめる。
併せて授業に関連する資料を調査・収集する
必要に応じて、レポートを作成する。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

受講生と相談の上、決定する

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	30～50
その他	50～70

【成績評価に関する補足】

各回のレジュメや議論への貢献:5-7割
最終レポート:3-5割

・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
新保 輝幸	火曜	4限	研究室

【オフィスアワーに関する補足】

要予約
人文学部棟2階210研究室においでいただければ、空いているゼミ室で対応します。

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| ☐ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☒ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☐ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
地域環境経済学演習	Economics for Regional Environment (Seminar)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12J32	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81569421
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免一高校(商業)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	新保 輝幸	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

環境や自然資源に関わるさまざまな問題について、環境経済学の観点からの理論的・実証的に研究するための基礎を習得する。必要に応じて、実証研究のための計量経済学的手法や統計学的手法も勉強する。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

地域の環境や自然資源に関わるさまざまな問題についての実証研究に関わる研究発表とディスカッションを中心に進める。まずはじめに個々の問題関心について報告してもらい、それを通じて明らかになったそれぞれの関心領域の基礎となる文献を選定する。それらを順次講読するとともに、随時個々の研究の発展について報告してもらい、ディスカッションを行う。

また、実証研究の要となる計量分析は、基本的にコンピュータおよびそのアプリケーションを用いて行われる。受講生の希望がある場合、それを利用するための基本的な知識・技能を実習を交えて勉強するが、これは下記の内、文献の輪読部分や研究の中間報告部分等を随時振り替える。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	環境や自然資源に関わる問題について、経済学的な理論・実証研究の手法の基礎を身につける。
2	環境問題や自然資源の劣化問題が起こるメカニズムやそれに対する政策的対応に関し、深い理解に到達する。
3	
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

環境経済学, 環境問題の経済分析, 自然資源の最適利用, 自然資源の劣化問題

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

学部レベルのミクロ経済学の知識と分析能力、環境問題への関心があるのが望ましい。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	新保 輝幸	
	授業内容	顔合わせとオリエンテーション	
第2回	担当教員	新保 輝幸	
	授業内容	個々の問題関心の報告と文献購読計画の策定	
第3回	担当教員	新保 輝幸	
	授業内容	文献の輪読: 報告とディスカッション	
第4回	担当教員	新保 輝幸	
	授業内容	文献の輪読: 報告とディスカッション	
第5回	担当教員	新保 輝幸	
	授業内容	文献の輪読: 報告とディスカッション	
第6回	担当教員	新保 輝幸	
	授業内容	文献の輪読: 報告とディスカッション	
第7回	担当教員	新保 輝幸	
	授業内容	文献の輪読: 報告とディスカッション	
第8回	担当教員	新保 輝幸	
	授業内容	研究の中間報告: 報告とディスカッション	
第9回	担当教員	新保 輝幸	
	授業内容	文献の輪読: 報告とディスカッション	
第10回	担当教員	新保 輝幸	
	授業内容	文献の輪読: 報告とディスカッション	
第11回	担当教員	新保 輝幸	
	授業内容	文献の輪読: 報告とディスカッション	
第12回	担当教員	新保 輝幸	
	授業内容	文献の輪読: 報告とディスカッション	
第13回	担当教員	新保 輝幸	
	授業内容	文献の輪読: 報告とディスカッション	
第14回	担当教員	新保 輝幸	
	授業内容	研究の中間報告: 報告とディスカッション	
第15回	担当教員	新保 輝幸	
	授業内容	文献の輪読: 報告とディスカッション	
第16回	担当教員	新保 輝幸	
	授業内容	最終レポートの提出	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

教員・学生の議論により選定された本ないし論文を精読し、レジュメ等にまとめる。
併せて授業に関連する資料を調査・収集する
必要に応じて、レポートを作成する。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

受講生と相談の上、決定する

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	30～50
その他	50～70

【成績評価に関する補足】

各回のレジュメや議論への貢献:5-7割
最終レポート:3-5割

・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
新保 輝幸	火曜	4限	研究室

【オフィスアワーに関する補足】

要予約
人文学部棟2階210研究室においでいただければ、空いているゼミ室で対応します。

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| ☐ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☒ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☐ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
地域水産社会特論	Regional Fishery (Advanced)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12J35	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81564671
ナンバリングコード2	81584671
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免一中学校(社会)専修、教免一高校(公民)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	堀 美菜	人文社会科学部	mina@kochi-u.ac.jp

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

高知県及び黒潮圏における水産社会経済の基礎を学ぶ
事例を通じて地域の漁業が抱える問題点と解決策を考察する

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

漁村社会特論、地域水産社会演習

授業の概要【COURSE SUMMARY】

この授業では、高知県及び黒潮圏における漁業生産、加工、流通、販売、資源管理、水産政策などの水産社会経済の基礎を学び、各地の事例を通じて地域の漁業が抱える問題点と解決策を考察します。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	高知県の漁業の現状と課題を説明できる
2	黒潮圏の漁業の現状と課題を説明できる
3	
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

水産振興、漁業経済、漁業制度、水産政策、黒潮圏

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

水産業や漁村社会に関する基礎知識が必要
漁村社会特論を履修していることが望ましい

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	堀 美菜	
	授業内容	ガイダンス 受講生の基礎知識の確認	
第2回	担当教員	堀 美菜	
	授業内容	高知県の漁業① 海面漁業の生産	
第3回	担当教員	堀 美菜	
	授業内容	高知県の漁業② 内水面漁業の生産	
第4回	担当教員	堀 美菜	
	授業内容	高知県の漁業③ 養殖業	
第5回	担当教員	堀 美菜	
	授業内容	高知県の漁業④ 加工	
第6回	担当教員	堀 美菜	
	授業内容	高知県の漁業⑤ 流通	
第7回	担当教員	堀 美菜	
	授業内容	高知県の漁業⑥ 販売	
第8回	担当教員	堀 美菜	
	授業内容	高知県の漁業⑦ 資源管理	
第9回	担当教員	堀 美菜	
	授業内容	高知県の漁業⑧ 水産政策	
第10回	担当教員	堀 美菜	
	授業内容	黒潮圏の漁業① 地域の特徴	
第11回	担当教員	堀 美菜	
	授業内容	黒潮圏の漁業② 生産	
第12回	担当教員	堀 美菜	
	授業内容	黒潮圏の漁業③ 課題	
第13回	担当教員	堀 美菜	
	授業内容	黒潮圏の漁業④ 資源管理	
第14回	担当教員	堀 美菜	
	授業内容	黒潮圏の漁業⑤ 水産政策	
第15回	担当教員	堀 美菜	
	授業内容	まとめ 受講者による発表	
第16回	担当教員	堀 美菜	
	授業内容		

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

授業の一部は演習形式で行うため、科学論文の講読、発表準備などが必要です。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

受講生と相談して決定、講義中に随時紹介

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	40
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	60
その他	

【成績評価に関する補足】

議論への貢献4割とレポート6割により評価

・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
堀 美菜	金曜	4限	人文社会科学部棟2階207号室(オンラインも可)

【オフィスアワーに関する補足】

要予約

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| ☐ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☒ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☐ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
地域水産社会演習	Regional Fishery (Seminar)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12J36	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81569621
ナンバリングコード2	81589621
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免一中学校(社会)専修、教免一高校(公民)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	堀 美菜	人文社会科学部	mina@kochi-u.ac.jp

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

--

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

--

授業の目的【COURSE AIMS】

地域漁業のあり方を文献購読により考察する。
個別課題として、現地調査を通じ地域の水産業を事例に研究発表とディスカッションを実施する。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

地域水産社会特論、漁村社会特論

授業の概要【COURSE SUMMARY】

地域水産社会特論を履修した学生が、より実践的に研究に取り組むための演習です。前半で教員と相談の上選んだ論文の講読により専門知識の理解を深めます。後半では個別の課題設定を行い、現地調査の設計と実施、得られた結果の分析を行います。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	地域の漁業に関する論文講読から課題の抽出を行える。
2	個別課題を設定し、現地調査を設計、実施、得られた結果の分析を行える。
3	
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

水産振興、漁業経済、漁業制度、水産政策、黒潮圏

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

地域水産社会特論を履修していること
漁村社会特論を履修していることが望ましい

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	堀 美菜	
	授業内容	ガイダンス、文献の収集方法、発表方法と資料の作り方 文献②の発表、解説と議論	
第2回	担当教員	堀 美菜	
	授業内容	文献①の発表、解説と議論	
第3回	担当教員	堀 美菜	
	授業内容	文献②の発表、解説と議論	
第4回	担当教員	堀 美菜	
	授業内容	文献③の発表、解説と議論	
第5回	担当教員	堀 美菜	
	授業内容	文献④の発表、解説と議論	
第6回	担当教員	堀 美菜	
	授業内容	文献⑤の発表、解説と議論	
第7回	担当教員	堀 美菜	
	授業内容	個別課題の設定、研究背景の整理	
第8回	担当教員	堀 美菜	
	授業内容	個別課題:研究方法の整理	
第9回	担当教員	堀 美菜	
	授業内容	個別課題:現地調査準備	
第10回	担当教員	堀 美菜	
	授業内容	個別課題:現地調査準備	
第11回	担当教員	堀 美菜	
	授業内容	個別課題:現地調査の実施	
第12回	担当教員	堀 美菜	
	授業内容	個別課題:現地調査の報告	
第13回	担当教員	堀 美菜	
	授業内容	個別課題:現地調査の結果分析	
第14回	担当教員	堀 美菜	
	授業内容	個別課題:現地調査の考察	
第15回	担当教員	堀 美菜	
	授業内容	最終報告	
第16回	担当教員	堀 美菜	
	授業内容		

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

論文購読、発表準備、現地調査の準備、実施、データ整理、分析などは授業時間外にも実施します

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

受講生と相談して決定、講義中に随時紹介

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	40
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	60
その他	

【成績評価に関する補足】

議論への貢献4割と個別課題6割により評価

・ 成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
堀 美菜	金曜	4限	人文社会科学部棟2階207号室(オンラインも可)

【オフィスアワーに関する補足】

要予約

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| ☐ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☒ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☐ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
英米言語文化論特論	British and American Language and Culture (Advanced)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12D37	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81542371
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
令和6年度以前入学生科目: イギリス言語文化論特論	
資格等	
教免一中学校・高校(英語)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR' S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	渡邊 裕子	人文社会科学部	yuko-w@kochi-u.ac.jp
2			
3			
4			
5			

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

英米文学作品講読

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

この授業は修論作成に向け、文学研究の基礎を学び直すことを目的とする授業です。英語で書かれた文学作品を読み、それを研究するとはどういう作業であるかを学び直します。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

英米言語文化論演習

授業の概要【COURSE SUMMARY】

この授業では英語で書かれた文学作品を1つ(以上)取り上げて、それを実際に読み、作中から読み取れるテーマを議論し合います。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	英語で書かれた文学作品を読み通す力を身に着ける。
2	文学作品を通して自分の興味のあるテーマを見つける。
3	自分の興味のあるテーマに関して、文学作品を論じることができる。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

文学、英語

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

高校修了程度の英語読解力。また、知らない単語を辞書等で調べる根気強さを持つこと。
文学作品(散文、詩、演劇、映画など)に興味があること。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員		
	授業内容	オリエンテーション(今後の授業の進め方の確認)	
第2回	担当教員		
	授業内容	作品講読	
第3回	担当教員		
	授業内容	作品講読	
第4回	担当教員		
	授業内容	作品講読	
第5回	担当教員		
	授業内容	作品講読	
第6回	担当教員		
	授業内容	作品講読	
第7回	担当教員		
	授業内容	作品講読	
第8回	担当教員		
	授業内容	作品講読	
第9回	担当教員		
	授業内容	作品講読	
第10回	担当教員		
	授業内容	作品講読	
第11回	担当教員		
	授業内容	作品講読	
第12回	担当教員		
	授業内容	作品講読	
第13回	担当教員		
	授業内容	作品講読	
第14回	担当教員		
	授業内容	作品講読	
第15回	担当教員		
	授業内容	作品講読	
第16回	担当教員		
	授業内容		

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

毎回の授業は、予習が必須です。次の授業範囲分の作品のページ(1週につき大体10ページ前後)を読み、気になった点や疑問点をまとめる予習を行ってください。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

教科書は必携です。ただし、教科書(授業で講読する作品)は履修者と相談して決めます。詳細は1回目授業のオリエンテーションで説明します。

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	40
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	60
その他	

【成績評価に関する補足】

学習意欲・態度は、毎回の授業で発表してもらう「予習内容」で評価します。

・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
渡邊裕子	火曜日	1,2時限	人文社会科学部棟 3階

【オフィスアワーに関する補足】

オフィスアワー利用時は必ずメール(yuko-w@kochi-u.ac.jp)で事前予約をしてください。また、上記時間帯以外でも調整可能です。

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|--|--|
| ☒ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☒ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
英米言語文化論演習	British and American Language and Culture (Seminar)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12D38	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81547321
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
令和6年度以前入学生科目: イギリス言語文化論演習	
資格等	
教免一中学校・高校(英語)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	渡邊 裕子	人文社会科学部	yuko-w@kochi-u.ac.jp
2			
3			
4			
5			

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

英米文学作品講読

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

この授業は、修論作成に向けて、「英米言語文化論特論」よりも発展的な研究方法を学び直すことを目的とする授業です。英語で書かれた文学作品、また先行研究を読み、自分の興味のあるテーマについて論じる練習を行います。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

英米言語文化論特論

授業の概要【COURSE SUMMARY】

この授業では、英語で書かれた文学作品また先行研究を1つ以上取り上げて、それらを実際に読み、作中にあらわれているテーマを議論し合います。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	英語で書かれた文学作品、また先行研究を読み通す力を身に着ける。
2	自分の興味あるテーマに関しての先行研究史を提示できる。
3	自分の興味のあるテーマに関して、先行研究と自分の研究の共通点と相違点を説明できる。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

文学、英語

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

高校修了程度の英語読解力。また、知らない単語を辞書等で調べる根気強さを持つこと。
文学作品(散文、詩、演劇、映画など)に興味があること。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員		
	授業内容	オリエンテーション(今後の授業の方針の確認)	
第2回	担当教員		
	授業内容	作品講読	
第3回	担当教員		
	授業内容	作品講読	
第4回	担当教員		
	授業内容	作品講読	
第5回	担当教員		
	授業内容	作品講読	
第6回	担当教員		
	授業内容	作品講読	
第7回	担当教員		
	授業内容	作品講読	
第8回	担当教員		
	授業内容	作品講読	
第9回	担当教員		
	授業内容	作品講読	
第10回	担当教員		
	授業内容	作品講読	
第11回	担当教員		
	授業内容	作品講読	
第12回	担当教員		
	授業内容	作品講読	
第13回	担当教員		
	授業内容	作品講読	
第14回	担当教員		
	授業内容	作品講読	
第15回	担当教員		
	授業内容	作品講読	
第16回	担当教員		
	授業内容		

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

毎回の授業は、予習が必須です。次の授業範囲分の作品のページ(1週につき大体10ページ前後)を読み、気になった点や疑問点をまとめる予習を行ってください。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

教科書は必携です。ただし、教科書(授業で講読する作品)は履修者と相談して決めます。詳細は1回目授業のオリエンテーションで説明します。

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	40
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	60
その他	

【成績評価に関する補足】

学習意欲・態度は、毎回の授業で発表してもらう「予習内容」で評価します。

・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
渡邊裕子	火曜日	1,2時限	人文社会科学部棟 3階

【オフィスアワーに関する補足】

オフィスアワー利用時は必ずメール(yuko-w@kochi-u.ac.jp)で事前予約をしてください。また、上記時間帯以外でも調整可能です。

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|--|--|
| ☒ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☒ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
国際協力論特論	International Cooperation (advanced)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12F39	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
令和7年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81550771
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR' S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	山本 沙希	人文社会科学部	
2			
3			
4			
5			

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

本授業の目的は、国際協力・開発援助に関する既存の議論を批判的に検討しながら、授業内で取り上げた諸概念及び研究アプローチを自分自身の研究に応用するための実践力を養うことである。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

本授業では、国際協力及び開発援助の諸問題を論じているテキスト輪読とディスカッションを通して、開発研究の意義と課題を検討します。
とりわけ新自由主義的経済アプローチの潮流や、住民主体の内発的な取り組みについて理解を深めながら、国際協力及び開発援助の概念的・制度的問題について履修生の皆さんと議論したいと思います。
テキストとしては、社会的排除／包摂、ジェントリフィケーション、NGOに関する文献のいずれか(2冊程度)を使用予定ですが、履修生の関心を確認したうえで初回授業時に確定します。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	・国際協力・開発援助の諸現象を理解するための、専門的な知識と思考力を養う。
2	・グローバル化と貧困格差、社会的マイノリティの排除といった開発課題を自らの日常と結びつけ、身近な問題として考察できる。
3	・授業内で扱った議論や諸概念を自身の研究関心に援用し、批判的に分析できる。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

社会的排除、マイノリティ、貧困格差、グローバル化

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

国際協力や開発援助に関心を持ち、貧困や社会的排除を身近な問題として捉える視点を有していること。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	山本 沙希	
	授業内容	オリエンテーション 授業内容の説明、成績評価方法、スケジュールの確認	
第2回	担当教員	山本 沙希	
	授業内容	テキスト①の輪読、ディスカッション	
第3回	担当教員	山本 沙希	
	授業内容	テキスト①の輪読、ディスカッション	
第4回	担当教員	山本 沙希	
	授業内容	テキスト①の輪読、ディスカッション	
第5回	担当教員	山本 沙希	
	授業内容	テキスト①の輪読、ディスカッション	
第6回	担当教員	山本 沙希	
	授業内容	テキスト①の輪読、ディスカッション	
第7回	担当教員	山本 沙希	
	授業内容	テキスト①の輪読、ディスカッション	
第8回	担当教員	山本 沙希	
	授業内容	テキスト①の輪読、ディスカッション	
第9回	担当教員	山本 沙希	
	授業内容	テキスト②の輪読、ディスカッション	
第10回	担当教員	山本 沙希	
	授業内容	テキスト②の輪読、ディスカッション	
第11回	担当教員	山本 沙希	
	授業内容	テキスト②の輪読、ディスカッション	
第12回	担当教員	山本 沙希	
	授業内容	テキスト②の輪読、ディスカッション	
第13回	担当教員	山本 沙希	
	授業内容	テキスト②の輪読、ディスカッション	
第14回	担当教員	山本 沙希	
	授業内容	テキスト②の輪読、ディスカッション	
第15回	担当教員	山本 沙希	
	授業内容	テキスト②の輪読、ディスカッション	
第16回	担当教員	山本 沙希	
	授業内容	課題レポートの作成・提出	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

- ・テキスト輪読に向けた予習、発表用資料の作成、関連する情報資料の収集と整理。
- ・最低でも週4時間程度の自主学習時間を要する。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

フリードマン, J.1995『市民・政府・NGO―「力の剥奪」からエンパワーメントへ』新評論.
 若井晋ほか編2001『学び・未来・NGO―NGOに携わるとは何か』新評論.
 バラ, アジット.S、ラペール, フレデリック 2005『グローバル化と社会的排除―貧困と社会問題への新しいアプローチ』、昭和堂.
 森千香子 2023『ブルックリン化する世界―ジェントリフィケーションを問いなおす』東京大学出版会.

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	30
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	40
その他	30

【成績評価に関する補足】

- ・輪読担当回の発表内容(30%)、ディスカッションへの参加・授業への貢献(30%)、期末レポート(40%)
- ・到達目標1～3は発表内容、ディスカッションへの参加・授業への貢献、期末レポートで判断する。

- ・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
山本 沙希	火曜	2, 3限 要予約	

【オフィスアワーに関する補足】

事前にメール等でアポイントを取ってください。なお上記時間以外でも面談のための日程調整は可能です。

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☒ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☒ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☒ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|--|--|
| ☐ 対面のみ | ☒ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☒ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
国際協力論演習	International Cooperation (Seminar)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12F40	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
令和7年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81555721
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	山本 沙希	人文社会科学部	
2			
3			
4			
5			

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

本授業の目的は、現代の紛争や暴力を地域固有の文脈で理解すると同時に、紛争処理ないし平和構築の課題を考察するための学術的視野を養うことである。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

国際協力論特論

授業の概要【COURSE SUMMARY】

本授業では、紛争と平和構築に関するテキスト輪読とディスカッションを通じて、紛争ないし暴力に関する従来の議論を批判的に考察します。履修生には、紛争や平和構築のあり方について考えるうえで「途上国」あるいは「第3 世界」の文化や伝統を固定化せず、異文化を相対的に理解し、紛争処理の手法を多角的に検討する視点を持つことを期待します。
なおテキストはあくまで候補であり、初回授業時に履修生の関心を確認したうえで確定します。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	紛争・戦争の歴史と平和の諸概念について理解を深め、その課題を批判的に考察できる。
2	授業で取り上げる分析アプローチや諸概念を、自身の研究関心・テーマと結びつけて説明できる。
3	地域に応じて多様な紛争処理及び平和構築の在り方を理解できる。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

紛争処理、暴力、平和構築

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

紛争や暴力、平和構築の問題に関心を持ち、それらを理解するための複眼的な視点をもっていること。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	山本 沙希	
	授業内容	オリエンテーション 授業内容の説明、成績評価方法、スケジュールの確認	
第2回	担当教員	山本 沙希	
	授業内容	テキスト①の輪読、ディスカッション	
第3回	担当教員	山本 沙希	
	授業内容	テキスト①の輪読、ディスカッション	
第4回	担当教員	山本 沙希	
	授業内容	テキスト①の輪読、ディスカッション	
第5回	担当教員	山本 沙希	
	授業内容	テキスト①の輪読、ディスカッション	
第6回	担当教員	山本 沙希	
	授業内容	テキスト①の輪読、ディスカッション	
第7回	担当教員	山本 沙希	
	授業内容	テキスト①の輪読、ディスカッション	
第8回	担当教員	山本 沙希	
	授業内容	テキスト①の輪読、ディスカッション	
第9回	担当教員	山本 沙希	
	授業内容	テキスト②の輪読、ディスカッション	
第10回	担当教員	山本 沙希	
	授業内容	テキスト②の輪読、ディスカッション	
第11回	担当教員	山本 沙希	
	授業内容	テキスト②の輪読、ディスカッション	
第12回	担当教員	山本 沙希	
	授業内容	テキスト②の輪読、ディスカッション	
第13回	担当教員	山本 沙希	
	授業内容	テキスト②の輪読、ディスカッション	
第14回	担当教員	山本 沙希	
	授業内容	テキスト②の輪読、ディスカッション	
第15回	担当教員	山本 沙希	
	授業内容	テキスト②の輪読、ディスカッション	
第16回	担当教員	山本 沙希	
	授業内容	課題レポートの作成・提出	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

- ・テキスト輪読に向けた予習、発表用資料の作成、関連する情報資料の収集と整理。
- ・最低でも週4時間程度の自主学習時間を要する。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

佐川徹ほか編 2024『歴史が生み出す紛争、紛争が生み出す歴史』春風社。
佐川徹 2011『暴力と虐待の民族誌』昭和堂。
戸田真紀子2015『貧困、紛争、ジェンダー—アフリカにとっての比較政治学』晃洋書房。
Eltringham, Nigel. 2021 *The Anthropology of Peace and Reconciliation: Pax Humana*. Routledge.

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	30
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	40
その他	30

【成績評価に関する補足】

- ・輪読担当回の発表内容(30%)、ディスカッションへの参加・授業への貢献(30%)、期末レポート(40%)
- ・到達目標1～3は発表内容、ディスカッションへの参加・授業への貢献、期末レポートで判断する。

- ・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
山本 沙希	火曜	2, 3限 要予約	

【オフィスアワーに関する補足】

事前にメール等でアポイントを取ってください。なお上記時間以外でも面談のための日程調整は可能です。

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☒ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|--|--|
| ☐ 対面のみ | ☒ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☒ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
地域社会学特論	Community Sociology (Advanced)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12J39	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81560271
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	成田 凌	人文社会科学部	
2			
3			
4			
5			

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

地域社会学の古典を読む

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

地域社会学の基本的な発想・専門知識を習得するとともに、社会学における(地域)社会の研究視角を理解することが目的となります。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

地域社会学演習、社会学特論、社会学演習

授業の概要【COURSE SUMMARY】

この授業では、受講者の研究関心等をふまえながら、地域社会学における古典ないし基礎文献を選定し、文献の講読とディスカッションをおこないます。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	地域社会学および関連領域の基本的な理論や概念について適切に理解し、説明することができる。
2	現代の(地域)社会をめぐる社会的事象や社会問題・課題について、地域社会学的な視点から分析・考察できる。
3	調べて考察したことを表現し、議論することができる。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

社会学、地域社会学、地域社会、地方農山漁村、過疎

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・(地域)社会学についての基礎的な知識・理解があること
- ・毎回、十分に準備をして授業・議論に参加すること

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	成田 凌	
	授業内容	ガイダンス・イントロダクション 文献の選定・報告スケジュールの決定	
第2回	担当教員	成田 凌	
	授業内容	文献の報告とディスカッション	
第3回	担当教員	成田 凌	
	授業内容	文献の報告とディスカッション	
第4回	担当教員	成田 凌	
	授業内容	文献の報告とディスカッション	
第5回	担当教員	成田 凌	
	授業内容	文献の報告とディスカッション	
第6回	担当教員	成田 凌	
	授業内容	文献の報告とディスカッション	
第7回	担当教員	成田 凌	
	授業内容	文献の報告とディスカッション	
第8回	担当教員	成田 凌	
	授業内容	ここまでのまとめと振り返り	
第9回	担当教員	成田 凌	
	授業内容	文献の報告とディスカッション	
第10回	担当教員	成田 凌	
	授業内容	文献の報告とディスカッション	
第11回	担当教員	成田 凌	
	授業内容	文献の報告とディスカッション	
第12回	担当教員	成田 凌	
	授業内容	文献の報告とディスカッション	
第13回	担当教員	成田 凌	
	授業内容	文献の報告とディスカッション	
第14回	担当教員	成田 凌	
	授業内容	文献の報告とディスカッション	
第15回	担当教員	成田 凌	
	授業内容	ここまでのまとめと振り返り	
第16回	担当教員		
	授業内容		

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

毎回、事前学習(テキストの精読と報告資料の作成)、および復習がなされていることを前提に授業をすすめるため、十分に時間をかけて準備してきてください。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

- ・使用するテキストは受講者の興味・関心をふまえて決めます
- ・参考書等についても、授業の中で紹介します

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	50
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	
その他	50

【成績評価に関する補足】

その他:レジュメ・レポート等の報告資料

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
成田 凌	火曜	2限	成田研究室(要予約)

【オフィスアワーに関する補足】

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|--|--|
| ☐ 対面のみ | ☒ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☒ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
地域社会学演習	Regional Community (Seminar)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12J40	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81565221
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR' S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	成田 凌	人文社会科学部	
2			
3			
4			
5			

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

地域社会学における近年の研究動向を理解する

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

地域社会学特論で学んだ理論や概念についての理解を深めるとともに、社会学における(地域)社会の研究視角を理解することが目的となります。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

地域社会学特論、社会学特論、社会学演習

授業の概要【COURSE SUMMARY】

この授業では、受講者の研究関心等をふまえながら、地域社会学および関連領域の重要文献・近年の主要な研究成果を選定し、文献の講読とディスカッションをおこないます。また、各自の研究課題についての報告と検討もおこないます。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	地域社会学および関連領域の基本的な理論や概念について適切に理解し、説明することができる。
2	現代の(地域)社会をめぐる社会的事象や社会問題・課題について、地域社会学的な視点から分析・考察できる。
3	調べて考察したことを表現し、議論することができる。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

社会学、地域社会学、地域社会、地方農山漁村、過疎

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・(地域)社会学についての基礎的な知識・理解があること
- ・毎回、十分に準備をして授業・議論に参加すること

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	成田 凌	
	授業内容	ガイダンス・イントロダクション 文献の選定・報告スケジュールの決定	
第2回	担当教員	成田 凌	
	授業内容	文献の報告とディスカッション	
第3回	担当教員	成田 凌	
	授業内容	文献の報告とディスカッション	
第4回	担当教員	成田 凌	
	授業内容	文献の報告とディスカッション	
第5回	担当教員	成田 凌	
	授業内容	文献の報告とディスカッション	
第6回	担当教員	成田 凌	
	授業内容	研究報告とディスカッション	
第7回	担当教員	成田 凌	
	授業内容	研究報告とディスカッション	
第8回	担当教員	成田 凌	
	授業内容	ここまでのまとめと振り返り	
第9回	担当教員	成田 凌	
	授業内容	文献の報告とディスカッション	
第10回	担当教員	成田 凌	
	授業内容	文献の報告とディスカッション	
第11回	担当教員	成田 凌	
	授業内容	文献の報告とディスカッション	
第12回	担当教員	成田 凌	
	授業内容	文献の報告とディスカッション	
第13回	担当教員	成田 凌	
	授業内容	研究報告とディスカッション	
第14回	担当教員	成田 凌	
	授業内容	研究報告とディスカッション	
第15回	担当教員	成田 凌	
	授業内容	ここまでのまとめと振り返り	
第16回	担当教員		
	授業内容		

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

毎回、事前学習(テキストの精読と報告資料の作成)、および復習がなされていることを前提に授業をすすめるため、十分に時間をかけて準備してきてください。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

- ・使用するテキストは受講者の興味・関心をふまえて決めます
- ・参考書等についても、授業の中で紹介します

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	50
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	
その他	50

【成績評価に関する補足】

その他:レジュメ・レポート等の報告資料

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
成田 凌	火曜	2限	成田研究室(要予約)

【オフィスアワーに関する補足】

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|--|--|
| ☐ 対面のみ | ☒ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☒ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
感情心理学特論Ⅱ	Emotional Psychology (AdvancedⅡ)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12A39	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81512871
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免—高校(公民)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	日比野 桂	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

感情喚起と対処に関する心理学的検討

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

- ・本授業のテーマは、心理学的観点から感情について理解するとともに、研究動向を批判的に捉えながら自らの研究に活かすことにある。
- ・この授業は人文科学研究コースの中で、人間の多様性について他側面から研究する「人間学領域」に属する科目である。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

感情心理学演習

授業の概要【COURSE SUMMARY】

本授業のテーマは、心理学的観点から感情について理解するとともに、研究動向を批判的に捉えながら自らの研究に活かすことにあ
る。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	感情に関する研究知見を理解し、その相違について説明することができる。
2	感情に関する研究の動向を踏まえ、新しい研究計画を立案できる
3	日常における感情の影響について心理学的な考察を行うことができる
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

心理学, 感情

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・答えのない問に対して考えを深めることができること。
- ・心理学の基礎的知見を理解していること。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	日比野 桂	
	授業内容	オリエンテーション 授業の概要説明。発表者の決定。	
第2回	担当教員	日比野 桂	
	授業内容	論文1についての検討 発表とディスカッション	
第3回	担当教員	日比野 桂	
	授業内容	論文1についての検討 発表とディスカッション	
第4回	担当教員	日比野 桂	
	授業内容	論文1についての検討 発表とディスカッション	
第5回	担当教員	日比野 桂	
	授業内容	論文2についての検討 発表とディスカッション	
第6回	担当教員	日比野 桂	
	授業内容	論文2についての検討 発表とディスカッション	
第7回	担当教員	日比野 桂	
	授業内容	論文2についての検討 発表とディスカッション	
第8回	担当教員	日比野 桂	
	授業内容	論文3についての検討 発表とディスカッション	
第9回	担当教員	日比野 桂	
	授業内容	論文3についての検討 発表とディスカッション	
第10回	担当教員	日比野 桂	
	授業内容	論文3についての検討 発表とディスカッション	
第11回	担当教員	日比野 桂	
	授業内容	論文4についての検討 発表とディスカッション	
第12回	担当教員	日比野 桂	
	授業内容	論文4についての検討 発表とディスカッション	
第13回	担当教員	日比野 桂	
	授業内容	論文4についての検討 発表とディスカッション	
第14回	担当教員	日比野 桂	
	授業内容	論文4についての検討 発表とディスカッション	
第15回	担当教員	日比野 桂	
	授業内容	全体の総括 各自発表	
第16回	担当教員	日比野 桂	
	授業内容	総括レポートの作成・提出 総括レポートの作成・提出	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

- ・関連する文献の収集と内容理解。
- ・最低でも週4時間程度の自主的研究を基本とする。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

特に指定はない

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	40
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	20
その他	40

【成績評価に関する補足】

発表内容40%、ディスカッションへの参加態度40%、総括レポート20%の総合評価とする。到達目標1および2は毎回の授業態度の中で評価する。到達目標3については授業態度に加え総括レポートにて評価する。

・ 成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
日比野 桂	木曜	3限	人文社会科学部棟4階420室

【オフィスアワーに関する補足】

要予約

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| ☐ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☒ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☐ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
感情心理学演習Ⅱ	Emotional Psychology (Seminar II)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12A40	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81517821
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免—高校(公民)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	日比野 桂	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

感情喚起と対処に関する心理学的検討

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

- ・本授業のテーマは、心理学的観点から感情について理解するとともに、研究動向を批判的に捉えながら自らの研究に活かすことにある。
- ・この授業は人文科学研究コースの中で、人間の多様性について他側面から研究する「人間学領域」に属する科目である。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

感情心理学特論

授業の概要【COURSE SUMMARY】

本授業のテーマは、心理学的観点から感情について理解するとともに、研究動向を批判的に捉えながら自らの研究に活かすことにあ
る。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	感情に関する研究知見を理解し、その相違について説明することができる
2	感情に関する研究の動向を踏まえ、新しい研究計画を立案できる
3	日常における感情の影響について心理学的な考察を行うことができる
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

心理学, 感情

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・答えのない問いに対して考えを深めることができること。
- ・心理学の基礎的知見を理解していること

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	日比野 桂	
	授業内容	オリエンテーション 論文1についての検討	
第2回	担当教員	日比野 桂	
	授業内容	論文1についての検討 発表とディスカッション	
第3回	担当教員	日比野 桂	
	授業内容	論文1についての検討 発表とディスカッション	
第4回	担当教員	日比野 桂	
	授業内容	論文1についての検討 発表とディスカッション	
第5回	担当教員	日比野 桂	
	授業内容	論文2についての検討 発表とディスカッション	
第6回	担当教員	日比野 桂	
	授業内容	論文2についての検討 発表とディスカッション	
第7回	担当教員	日比野 桂	
	授業内容	論文2についての検討 発表とディスカッション	
第8回	担当教員	日比野 桂	
	授業内容	論文3についての検討 発表とディスカッション	
第9回	担当教員	日比野 桂	
	授業内容	論文3についての検討 発表とディスカッション	
第10回	担当教員	日比野 桂	
	授業内容	論文3についての検討 発表とディスカッション	
第11回	担当教員	日比野 桂	
	授業内容	論文4についての検討 発表とディスカッション	
第12回	担当教員	日比野 桂	
	授業内容	論文4についての検討 発表とディスカッション	
第13回	担当教員	日比野 桂	
	授業内容	論文4についての検討 発表とディスカッション	
第14回	担当教員	日比野 桂	
	授業内容	研究計画の立案1 発表とディスカッション	
第15回	担当教員	日比野 桂	
	授業内容	研究計画の立案2 発表とディスカッション	
第16回	担当教員	日比野 桂	
	授業内容	研究計画書の作成・提出 研究計画書の作成・提出	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

・関連する文献の収集と内容理解。・最低でも週4時間程度の自主的研究を基本とする。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

特に指定はない

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL 】

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	40
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	20
その他	40

【成績評価に関する補足】

・発表内容40%, ディスカッションへの参加態度40%, 研究計画書20%の総合評価とする。到達目標1および2は毎回の授業態度の中で評価する。到達目標3については授業態度に加え提出される研究計画書にて評価する。

・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
日比野 桂	木曜	3限	人文社会科学部棟4階420室

【オフィスアワーに関する補足】

要予約

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| ☐ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☒ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☐ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
人文地理学特論Ⅰ	Human Geography (Advanced I)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12B45	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校(社会)専修、教免—高校(地理歴史)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR' S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	佐竹 泰和	教育学部	satake@kochi-u.ac.jp
2			
3			
4			
5			

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

農村・都市をとりまく地理学的課題を知る

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

本授業では、農村・都市の現状をとらえるために、系統地理学の観点から国内外の先行研究やケーススタディを踏まえながら理論と実践を学ぶ。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

系統地理学のなかでも、都市・農村、経済地理学を中心に近年の研究動向についてさまざまな文献や資料を通じて理解を深める。具体的には、生活文化や産業立地に焦点をあてて、その地域差を生むメカニズムを検討する。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	講義と文献輪読を通じて系統地理学の基礎を身につける。
2	地理学的視点で文献および資料を解釈できるようになる。
3	地理学的視点を地域問題の解決に応用して、地域問題を考えることができるようになる。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

人口地理学、農村地理学、都市地理学、経済地理学、地域政策

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

地域格差など地域問題について関心を持っていること。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	佐竹 泰和	
	授業内容	オリエンテーション	
第2回	担当教員	佐竹 泰和	
	授業内容	人口の視点で地域をとらえる①：人口移動の動向を把握する	
第3回	担当教員	佐竹 泰和	
	授業内容	人口の視点で地域をとらえる②：人口移動の要因について考える	
第4回	担当教員	佐竹 泰和	
	授業内容	農村地理学の基礎：農業地域とその変動	
第5回	担当教員	佐竹 泰和	
	授業内容	農村の土地利用と現代的課題	
第6回	担当教員	佐竹 泰和	
	授業内容	農村問題と農村政策①：生活環境	
第7回	担当教員	佐竹 泰和	
	授業内容	農村問題と農村政策②：地域経済	
第8回	担当教員	佐竹 泰和	
	授業内容	都市地理学の基礎：都市の内部構造	
第9回	担当教員	佐竹 泰和	
	授業内容	都市問題と都市計画①：全国の事例	
第10回	担当教員	佐竹 泰和	
	授業内容	都市問題と都市計画②：高知市の事例	
第11回	担当教員	佐竹 泰和	
	授業内容	経済地理学の基礎：立地論	
第12回	担当教員	佐竹 泰和	
	授業内容	農業立地と現代的課題	
第13回	担当教員	佐竹 泰和	
	授業内容	工業立地と現代的課題	
第14回	担当教員	佐竹 泰和	
	授業内容	商業・サービス業立地と現代的課題	
第15回	担当教員	佐竹 泰和	
	授業内容	まとめ：振り返りと論点の整理	
第16回	担当教員	佐竹 泰和	
	授業内容	期末レポートの作成・提出	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

講義内容のふりかえり、論文検索、論文読解

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

参考書

岡橋秀典(2020)『現代農村の地理学』古今書院
伊藤達也・小田宏信・加藤幸治編(2020)『経済地理学への招待』ミネルヴァ書房
その他、授業時に適宜紹介する。

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	20
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	40
その他	40

【成績評価に関する補足】

その他は文献・課題報告への取り組みとその内容。
学習意欲・授業参加度20%、期末レポート40%、文献・課題報告40%で評価する。

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
佐竹 泰和	火曜	2 限	教育学部棟3号館佐竹研究室

【オフィスアワーに関する補足】

事前にメールで予約してください。

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☒ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☒ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| ☐ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☒ 調整中 | |

授業形態

- ☒ 講義形式が中心
- ☒ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
人文地理学演習 I	Human Geography (Seminar I)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12B46	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校(社会)専修、教免—高校(地理歴史)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR' S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	佐竹 泰和	教育学部	satake@kochi-u.ac.jp
2			
3			
4			
5			

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

地域統計分析とその表現技法を学ぶ

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

本授業では、地理学的分析能力を身に付けるために、地域統計分析およびその可視化の一手法として地図表現の技法について学ぶ。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

地域差を把握・分析する手法として、まず、国勢調査、経済センサス、農林業センサスなどのさまざまな地域統計とその活用場面を知る。その後、実際のデータを用いながら、これらを用いた地域分析手法、さらにその空間分析手法としてGIS(地理情報システム)の習得を目指す。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	地域統計の種類を知り、その活用場面を説明することができる。
2	GISを用いて基本的な地域分析を行うことができる。
3	地域統計およびGISを自らの研究に応用できる。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

地域統計、地域分析、GIS

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

人文地理学に関する基本的な知識を有することが望ましい。基本的なパソコン操作をできることが望ましい。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	佐竹 泰和	
	授業内容	オリエンテーション	
第2回	担当教員	佐竹 泰和	
	授業内容	地域調査手法に関する文献輪読①	
第3回	担当教員	佐竹 泰和	
	授業内容	地域調査手法に関する文献輪読②	
第4回	担当教員	佐竹 泰和	
	授業内容	地域調査手法に関する文献輪読③	
第5回	担当教員	佐竹 泰和	
	授業内容	地域統計を調べる①	
第6回	担当教員	佐竹 泰和	
	授業内容	地域統計を調べる②	
第7回	担当教員	佐竹 泰和	
	授業内容	地域統計を分析する①	
第8回	担当教員	佐竹 泰和	
	授業内容	地域統計を分析する②	
第9回	担当教員	佐竹 泰和	
	授業内容	GISを用いた空間分析①	
第10回	担当教員	佐竹 泰和	
	授業内容	GISを用いた空間分析②	
第11回	担当教員	佐竹 泰和	
	授業内容	GISを用いた空間分析③	
第12回	担当教員	佐竹 泰和	
	授業内容	GISを用いた空間分析④	
第13回	担当教員	佐竹 泰和	
	授業内容	GISを用いた空間分析⑤	
第14回	担当教員	佐竹 泰和	
	授業内容	データ／地図をわかりやすく表現する方法を検討する①	
第15回	担当教員	佐竹 泰和	
	授業内容	データ／地図をわかりやすく表現する方法を検討する② / まとめ	
第16回	担当教員	佐竹 泰和	
	授業内容	期末レポートの作成・提出	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

授業内容のふりかえり、課題（データ分析、作図）への取り組み

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

岩佐光広 編(2024)『越境する視点から地域をみる－高知をフィールドに』高知新聞総合印刷
野間晴雄・香川貴志・土平 博・山田周二・河角龍典・小原文明 編著(2017)『ジオ・パルNEO [第2版] 地理学・地域調査便利帖』海青社
半澤誠司・武者忠彦・近藤 章夫・濱田博之 編(2015)『地域分析ハンドブック Excelによる図表づくりの道具箱』ナカニシヤ出版
その他、GISに関する各種参考書を授業時に適宜紹介する。

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL 】

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	20
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	40
その他	40

【成績評価に関する補足】

その他は文献・課題報告への取り組みとその内容。
学習意欲・授業参加度20%、期末レポート40%、文献・課題報告40%で評価する。

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィシアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
佐竹 泰和	火曜	2 限	教育学部棟3号館佐竹研究室

【オフィシアワーに関する補足】

事前にメールで予約してください。

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| ☐ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☒ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☒ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
地誌学特論 I	Advanced Regional Geography I
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12B49	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校(社会)専修、教免—高校(地理歴史)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR' S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	新名 阿津子	人文社会科学系	niina@kochi-u.ac.jp
2			
3			
4			
5			

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

四国地方を考える

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

In the case of Shikoku region

授業の目的【COURSE AIMS】

本科目は、四国地方の空間的地域的特徴について地誌学的観点から検討し、地理的思考力を養うことを目的とする。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

地誌学特論Ⅱ，地誌学演習Ⅰ・Ⅱ，人文地理学特論Ⅰ・Ⅱ，人文地理学演習Ⅰ・Ⅱ

授業の概要【COURSE SUMMARY】

本科目では分布、場所・空間、空間的相互作用、自然と文化の相互依存関係などの地理学の基礎概念と、矢ヶ崎ほか(2007)が示した網羅累積地誌、比較交流地誌、広域動態地誌といった方法を用いて議論し、四国地方の特徴を捉え、地理学的思考力を養っていく。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	地理学の基礎概念について説明することができる
2	地誌学の方法論について説明することができる
3	四国の地域性について考え、伝えることができる
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

地誌学，地理学，四国地方

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

四国地方に関する地理学の論文をよく読むこと。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

統計分析や地図の作成や読解を行いますので、授業には必ずパソコンを持参すること。

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	新名阿津子	ガイダンス
	授業内容	本授業の概要と評価について説明し、四国地方の特徴について議論する。	
第2回	担当教員	新名阿津子	地理学・地誌学とは
	授業内容	地理学の学説史、基礎概念について解説し、地誌学の方法論について紹介する。	
第3回	担当教員	新名阿津子	各県の特徴①香川県
	授業内容	香川県の自然環境や人口動態・産業特性などについて議論する。	
第4回	担当教員	新名阿津子	各県の特徴②香川県
	授業内容	香川県の自然環境や人口動態・産業特性などについて議論する。	
第5回	担当教員	新名阿津子	各県の特徴③徳島県
	授業内容	徳島県の自然環境や人口動態・産業特性などについて議論する。	
第6回	担当教員	新名阿津子	各県の特徴④徳島県
	授業内容	徳島県の自然環境や人口動態・産業特性などについて議論する。	
第7回	担当教員	新名阿津子	各県の特徴⑤愛媛県
	授業内容	愛媛県の自然環境や人口動態・産業特性などについて議論する。	
第8回	担当教員	新名阿津子	各県の特徴⑥愛媛県
	授業内容	愛媛県の自然環境や人口動態・産業特性などについて議論する。	
第9回	担当教員	新名阿津子	各県の特徴⑦高知県
	授業内容	高知県の自然環境や人口動態・産業特性などについて議論する。	
第10回	担当教員	新名阿津子	各県の特徴⑧高知県
	授業内容	高知県の自然環境や人口動態・産業特性などについて議論する。	
第11回	担当教員	新名阿津子	比較交流地誌から考える四国①
	授業内容	交通の発達から地域間のつながりについて考える	
第12回	担当教員	新名阿津子	比較交流地誌から考える四国②
	授業内容	四国遍路を事例に空間的相互作用について考える	
第13回	担当教員	新名阿津子	広域動態地誌から考える四国①
	授業内容	広域動態地誌的観点から四国地方について検証する	
第14回	担当教員	新名阿津子	広域動態地誌から考える四国②
	授業内容	広域動態地誌的観点から四国地方について検証する	
第15回	担当教員	新名阿津子	総合討論：四国地方の地域的・空間的特徴
	授業内容	これまでの議論を踏まえ、四国地方の地域的・空間的特徴とそれを規定する要因を議論する	
第16回	担当教員		
	授業内容		

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

- ・四国に関する論文収集
- ・四国に関するデータ収集と分析
- ・四国に関する地図の作成と分析
(方法については講義内で紹介する)

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

教科書 矢ヶ崎典隆・加賀美雅弘・吉田悦造編著 2007.『地理学基礎シリーズ3地誌学概論』朝倉書店.

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	60
その他:授業内でのプレゼンテーション	40

【成績評価に関する補足】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
新名阿津子	月曜日	2・3限	人文社会科学棟441室

【オフィスアワーに関する補足】

- * 人文社会科学棟の改修工事に伴い、研究室が移動している場合がある。
- * できる限りアポイントメントをお願いします。

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☒ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|--|--|
| ☐ 対面のみ | ☒ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☒ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☒ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
地誌学演習 I	Regional Geography (Seminar I)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12B50	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校(社会)専修、教免—高校(地理歴史)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR' S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	新名阿津子	人文社会科学系	niina@kochi-u.ac.jp
2			
3			
4			
5			

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

野外巡検から地域調査法を学ぶ

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

Field excursion methods

授業の目的【COURSE AIMS】

本演習では野外巡検の企画立案・実施を通じて、修士論文作成に必要な地誌学に関するデータの収集、分析方法を習得し、野外調査の実施能力を身につけることを目的とする。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

地誌学特論Ⅰ・Ⅱ, 地誌学演習Ⅱ, 人文地理学特論Ⅰ・Ⅱ, 人文地理学演習Ⅰ・Ⅱ

授業の概要【COURSE SUMMARY】

本講義は、野外巡検のテーマ・対象地域の決定、対象地域に関する情報収集と分析、巡検案内書の作成、巡検先との調整、巡検の実施、巡検報告書の作成などを行う。なお、テーマと対象地域については、受講生と相談の上、決定する。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	野外巡検の企画立案・実施ができるようになること
2	巡検案内書・報告書の作成ができるようになること
3	野外調査の基礎を習得すること
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

野外巡検, 地域調査法, 地理学, 地誌学

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

野外調査マナーを身につけるようにしてください。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

野外巡検は授業時間外に実施します。
宿泊を伴う場合がありますので、旅費等の準備をしてください。

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	新名阿津子	ガイダンス
	授業内容	野外巡検と地理学調査法について解説し、テーマと対象地域を検討する。	
第2回	担当教員	新名阿津子	テーマ・対象地域の決定
	授業内容	野外巡検のテーマと対象地域を決定する	
第3回	担当教員	新名阿津子	案内ポイント・ルートの選定
	授業内容	テーマに沿った案内地点とルート、内容を考える	
第4回	担当教員	新名阿津子	現地確認
	授業内容	現地を確認し、企画の妥当性を検討する	
第5回	担当教員	新名阿津子	巡検案内書の作成①
	授業内容	現地確認の結果から内容を精査し、案内書の作成を行う	
第6回	担当教員	新名阿津子	巡検案内書の作成②
	授業内容	案内書を作成し、製本する	
第7回	担当教員	新名阿津子	巡検の実施①
	授業内容	野外巡検の実施	
第8回	担当教員	新名阿津子	巡検の実施②
	授業内容	野外巡検の実施	
第9回	担当教員	新名阿津子	巡検の実施③
	授業内容	野外巡検の実施	
第10回	担当教員	新名阿津子	巡検の実施④
	授業内容	野外巡検の実施	
第11回	担当教員	新名阿津子	巡検の実施⑤
	授業内容	野外巡検の実施	
第12回	担当教員	新名阿津子	巡検の実施⑥
	授業内容	野外巡検の実施	
第13回	担当教員	新名阿津子	野外巡検の振り返り
	授業内容	実施した野外巡検を評価する	
第14回	担当教員	新名阿津子	野外巡検報告書の作成
	授業内容	評価をもとに、野外巡検報告書を作成する	
第15回	担当教員	新名阿津子	総合討論:野外巡検と地域調査法
	授業内容	野外巡検と地域調査法について議論する	
第16回	担当教員		
	授業内容		

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

- ・対象地域、テーマの論文収集
- ・対象地域・テーマのデータ収集
- ・巡検案内書および巡検報告書の収集

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

授業内で適宜紹介する

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	
その他:巡検の企画立案・実施, 案内書・報告書から総合的に判断する	100

【成績評価に関する補足】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
新名阿津子	月	2・3	人文社会科学棟441室

【オフィスアワーに関する補足】

- * 人文社会科学棟の改修工事に伴い、研究室が移動している場合があります。
- * できる限りアポイントメントをお願いします。

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|--|--|
| ☒ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☐ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☒ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☒ その他

【授業形態(その他)】

野外巡検を含む

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
産業立地論特論	Industrial Location Theory (Advanced)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12J49	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81561871
ナンバリングコード2	81581871
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免一中学校(社会)専修、教免一高校(公民)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	田中 康一	人文社会科学部	ktanaka@kochi-u.ac.jp

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

産業立地の理論、現状と課題、及び課題解決のための方策等の検討

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

・本授業のテーマは、産業立地論の分析視角を用いて、産業立地の理論及び現状を理解するとともに、当該分野における課題の理解及び解決策等について、調査・分析・考察・提案等を行うことにある。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

産業立地論演習

授業の概要【COURSE SUMMARY】

本授業では、産業立地に関する主なトピックについて、文献やニュース等を輪読のテキスト・資料として用い、産業立地論の視角から検討する。輪読と並行して、参加者個々の研究発表を随時盛り込むことを予定している。
なお、輪読で用いるテキスト・資料は、基本的に参加者の関心や研究進捗度などを考慮に入れつつ選択する。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	・産業立地に関する基本的知識を獲得しており、またそれらを活用できる。
2	・産業立地に関心を持ち、地域の経済的諸課題の解明と解決に主体的に取り組む意欲を身に付けている。
3	・産業立地に関する情報の収集・評価等ができる。
4	・産業立地に関する情報を用いて産業立地政策、地域経済活性化策等の企画・提案等ができる。
5	・産業立地に関する一定水準の報告書・論文等の執筆・投稿等ができる。
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

産業立地、産業振興、地域経済、地域活性化、まちづくり

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・日本(及び世界各地域)の産業立地の現状を理解し、日々情報収集に努めていること。
- ・なお、産業立地論の基本概念を理解していることが望ましい。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	田中 康一	
	授業内容	オリエンテーション 授業の概要説明。報告ローテーションの決定。文献収集についてのアドバイス。	
第2回	担当教員	田中 康一	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第3回	担当教員	田中 康一	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第4回	担当教員	田中 康一	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第5回	担当教員	田中 康一	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第6回	担当教員	田中 康一	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第7回	担当教員	田中 康一	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第8回	担当教員	田中 康一	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第9回	担当教員	田中 康一	
	授業内容	文献2冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第10回	担当教員	田中 康一	
	授業内容	文献2冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第11回	担当教員	田中 康一	
	授業内容	文献2冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第12回	担当教員	田中 康一	
	授業内容	文献2冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第13回	担当教員	田中 康一	
	授業内容	文献2冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第14回	担当教員	田中 康一	
	授業内容	文献2冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第15回	担当教員	田中 康一	
	授業内容	全体の総括 各自発表	
第16回	担当教員	田中 康一	
	授業内容	総括レポートの作成・提出	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

- ・テキスト・資料の精読と報告資料の作成。あわせて授業に関連する資料の収集。
- ・最低でも週5時間程度の自主的研究を基本とする。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

輪読で用いるテキスト・資料は、基本的に参加者の関心や研究進捗度などを考慮に入れつつ選択する。

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	40
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	20
その他	40

【成績評価に関する補足】

・テキスト報告担当時の報告内容40%、毎回の議論における参加態度40%、期末レポート20%の総合評価とする。

・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
田中 康一	木曜	3限	人文社会科学部棟3F 田中康一研究室

【オフィスアワーに関する補足】

要予約(予約手段は電子メールが望ましい)

この授業とSDGsの関連

- ☒ 1 貧困をなくそう
- ☒ 2 飢餓をゼロに
- ☒ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☒ 4 質の高い教育をみんなに
- ☒ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☒ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☒ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☒ 8 働きがいも経済成長も
- ☒ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☒ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☒ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☒ 12 つくる責任つかう責任
- ☒ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☒ 14 海の豊かさを守ろう
- ☒ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☒ 16 平和と公正をすべての人に
- ☒ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| ☐ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☒ 調整中 | |

授業形態

- ☒ 講義形式が中心
- ☒ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
産業立地論演習	Industrial Location Theory (Seminar)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12J50	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81566821
ナンバリングコード2	81586821
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免一中学校(社会)専修、教免一高校(公民)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	田中 康一	人文社会科学部	ktanaka@kochi-u.ac.jp

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

産業立地の理論、現状と課題、及び課題解決のための方策等の検討

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

・本授業のテーマは、産業立地論の分析視角を用いて、産業立地の理論及び現状を理解するとともに、当該分野における課題の理解及び解決策等について、調査・分析・考察・提案等を行うことにある。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

産業立地論特論

授業の概要【COURSE SUMMARY】

本授業では、産業立地に関する主なトピックについて、文献やニュース等を輪読のテキスト・資料として用い、産業立地論の視角から検討する。輪読と並行して、参加者個々の研究発表を随時盛り込むことを予定している。
なお、輪読で用いるテキスト・資料は、基本的に参加者の関心や研究進捗度などを考慮に入れつつ選択する。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	・産業立地に関する基本的知識を獲得しており、またそれらを活用できる。
2	・産業立地に関心を持ち、地域の経済的諸課題の解明と解決に主体的に取り組む意欲を身に付けている。
3	・産業立地に関する情報の収集・評価等ができる。
4	・産業立地に関する情報を用いて産業立地政策、地域経済活性化策等の企画・提案等ができる。
5	・産業立地に関する一定水準の報告書・論文等の執筆・投稿等ができる。
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

産業立地、産業振興、地域経済、地域活性化、まちづくり

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・日本(及び世界各地域)の産業立地の現状を理解し、日々情報収集に努めていること。
- ・なお、産業立地論の基本概念を理解していることが望ましい。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	田中 康一	
	授業内容	授業の概要説明。報告ローテーションの決定。文献収集についてのアドバイス。	
第2回	担当教員	田中 康一	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第3回	担当教員	田中 康一	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第4回	担当教員	田中 康一	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第5回	担当教員	田中 康一	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第6回	担当教員	田中 康一	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第7回	担当教員	田中 康一	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第8回	担当教員	田中 康一	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第9回	担当教員	田中 康一	
	授業内容	文献2冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第10回	担当教員	田中 康一	
	授業内容	文献2冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第11回	担当教員	田中 康一	
	授業内容	文献2冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第12回	担当教員	田中 康一	
	授業内容	文献2冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第13回	担当教員	田中 康一	
	授業内容	文献2冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第14回	担当教員	田中 康一	
	授業内容	文献2冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第15回	担当教員	田中 康一	
	授業内容	全体の総括 各自発表	
第16回	担当教員	田中 康一	
	授業内容	総括レポートの作成・提出	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

- ・テキスト・資料の精読と報告資料の作成。あわせて授業に関連する資料の収集。
- ・最低でも週5時間程度の自主的研究を基本とする。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

輪読で用いるテキスト・資料は、基本的に参加者の関心や研究進捗度などを考慮に入れつつ選択する。

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	40
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	20
その他	40

【成績評価に関する補足】

・テキスト報告担当時の報告内容40%、毎回の議論における参加態度40%、期末レポート20%の総合評価とする。

・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
田中 康一	木曜	3限	人文社会科学部棟3F 田中康一研究室

【オフィスアワーに関する補足】

要予約(予約手段は電子メールが望ましい)

この授業とSDGsの関連

- ☒ 1 貧困をなくそう
- ☒ 2 飢餓をゼロに
- ☒ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☒ 4 質の高い教育をみんなに
- ☒ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☒ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☒ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☒ 8 働きがいも経済成長も
- ☒ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☒ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☒ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☒ 12 つくる責任つかう責任
- ☒ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☒ 14 海の豊かさを守ろう
- ☒ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☒ 16 平和と公正をすべての人に
- ☒ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| ☐ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☒ 調整中 | |

授業形態

- ☒ 講義形式が中心
- ☒ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
中国現代文化論特論	Contemporary Chinese Culture (Advanced)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12D51	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81543471
ナンバリングコード2	81533271
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校・高校(国語)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	高橋 俊	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

中国の地域文化について

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

Chinese Regional Culture

授業の目的【COURSE AIMS】

中国の地域文化について理解する。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

中国の地域文化に関する文献を講読する。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	中国の地域文化に関して理解する
2	中国の各地域にはどのような文化があるかを理解する。
3	0
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

中国、地域、文化

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

中国文化に関する基礎的な知識があること

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	高橋 俊	
	授業内容	ガイダンス	
第2回	担当教員	高橋 俊	
	授業内容	中国の地域文化文献講読1	
第3回	担当教員	高橋 俊	
	授業内容	中国の地域文化文献講読2	
第4回	担当教員	高橋 俊	
	授業内容	中国の地域文化文献講読3	
第5回	担当教員	高橋 俊	
	授業内容	中国の地域文化文献講読4	
第6回	担当教員	高橋 俊	
	授業内容	中国の地域文化文献講読5	
第7回	担当教員	高橋 俊	
	授業内容	中国の地域文化文献講読6	
第8回	担当教員	高橋 俊	
	授業内容	中国の地域文化文献講読7	
第9回	担当教員	高橋 俊	
	授業内容	中国の地域文化文献講読8	
第10回	担当教員	高橋 俊	
	授業内容	中国の地域文化文献講読9	
第11回	担当教員	高橋 俊	
	授業内容	中国の地域文化文献講読10	
第12回	担当教員	高橋 俊	
	授業内容	中国の地域文化文献講読11	
第13回	担当教員	高橋 俊	
	授業内容	中国の地域文化文献講読12	
第14回	担当教員	高橋 俊	
	授業内容	中国の地域文化文献講読13	
第15回	担当教員	高橋 俊	
	授業内容	まとめ	
第16回	担当教員	高橋 俊	
	授業内容		

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

中国に関する様々な文献を読んでおくこと。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

なし

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	30
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	70
その他	

【成績評価に関する補足】

普通の授業態度:30%
期末レポート:70%

・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
高橋 俊	月曜	1限	高橋研究室(人文社会科学部棟511)

【オフィスアワーに関する補足】

木曜14:00～16:00

この授業とSDGsの関連

- ☒ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| ☐ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☒ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☐ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
中国現代文化論演習	Contemporary Chinese Culture (Seminar)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12D52	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81548421
ナンバリングコード2	81538221
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校・高校(国語)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	高橋 俊	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

中国都市文化

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

Chinese Urban Culture

授業の目的【COURSE AIMS】

中国の都市文化について理解する
中国の都市にはいかなる文化があるのかについて理解する

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

中国の都市文化について、文献を講読しながら理解する。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	中国の都市文化について理解する
2	中国の都市文化について理解する各都市における文化の違いについて理解する。
3	
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

中国、都市、文化

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

中国の都市文化に関する文献を読んでおくこと

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	高橋 俊	
	授業内容	ガイダンス	
第2回	担当教員	高橋 俊	
	授業内容	中国の都市文化文献講読1	
第3回	担当教員	高橋 俊	
	授業内容	中国の都市文化文献講読2	
第4回	担当教員	高橋 俊	
	授業内容	中国の都市文化文献講読3	
第5回	担当教員	高橋 俊	
	授業内容	中国の都市文化文献講読4	
第6回	担当教員	高橋 俊	
	授業内容	中国の都市文化文献講読5	
第7回	担当教員	高橋 俊	
	授業内容	中国の都市文化文献講読6	
第8回	担当教員	高橋 俊	
	授業内容	中国の都市文化文献講読7	
第9回	担当教員	高橋 俊	
	授業内容	中国の都市文化文献講読8	
第10回	担当教員	高橋 俊	
	授業内容	中国の都市文化文献講読9	
第11回	担当教員	高橋 俊	
	授業内容	中国の都市文化文献講読10	
第12回	担当教員	高橋 俊	
	授業内容	中国の都市文化文献講読11	
第13回	担当教員	高橋 俊	
	授業内容	中国の都市文化文献講読12	
第14回	担当教員	高橋 俊	
	授業内容	中国の都市文化文献講読13	
第15回	担当教員	高橋 俊	
	授業内容	まとめ	
第16回	担当教員	高橋 俊	
	授業内容		

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

中国都市文化に関する書籍を読んでおくこと。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

なし。

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	30
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	70
その他	

【成績評価に関する補足】

期末レポート:70%
授業態度:30%

・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
高橋 俊	月曜	1限	高橋研究室(人文社会科学部棟511)

【オフィスアワーに関する補足】

木曜14:00～16:00

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| ☐ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☒ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☐ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
組織の経済学特論 I	Organizational Economics (Advanced I)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12J51	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81562771
ナンバリングコード2	81582771
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	雨宮 祐樹	人文社会科学部	amemiya@kochi-u.ac.jp

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

契約理論と組織の経済学の応用としての企業金融論

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

- ・基本的なゲーム理論、ミクロ経済学の知識を前提として、契約理論および組織の経済学における主要な理論モデルとその応用について、講義を通して理解を深めることを目的とします。
- ・また、企業の資金調達についての経済学的な理解を得ることも目的とします。
- ・なお、この授業は社会科学研究コースの中で、「経済政策領域」に属し、企業や組織を主なトピックとして経済理論分析を学びます。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

組織の経済学特論II, 組織の経済学演習I, II

授業の概要【COURSE SUMMARY】

契約理論を応用した企業金融論について、講義形式で進める。
「組織の経済学演習II」でも用いるテキスト Tirole (2006) に基づいて、「演習II」で輪読するにあたって必要な前提知識、履修者による発表が困難と思われる箇所、および解説が必要な箇所について講義を行う。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	企業や組織に関する諸問題について考えるための理論分析の方法を習得できる。
2	企業の資金調達について、経済学的な考え方を背景として、その仕組みや諸問題について説明できる。
3	企業や組織に関する諸問題について、学んだ理論分析を応用して考えることができる。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

ミクロ経済学, 契約理論, ゲーム理論, 企業金融.

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

後期に必ず、「組織の経済学演習II」を履修すること。
入門レベルのミクロ経済学を履修し終えていることが必要です。
加えて、経済学の中級テキストを把握できる程度の数学的素養が必要です。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	雨宮 祐樹	
	授業内容	オリエンテーションと数学的知識の復習・補足① 本講義全体の概要の説明。講義内容の理解に必要な数学の復習。	
第2回	担当教員	雨宮 祐樹	
	授業内容	数学的知識の復習・補足② 講義内容の理解に必要な数学の復習。	
第3回	担当教員	雨宮 祐樹	
	授業内容	株式と債券① Chapter 3, Supplementary Sections を中心に金融契約の理論モデルについて解説。	
第4回	担当教員	雨宮 祐樹	
	授業内容	株式と債券② Chapter 3, Supplementary Sections を中心に金融契約の理論モデルについて解説。	
第5回	担当教員	雨宮 祐樹	
	授業内容	株式と債券③ Chapter 3, Supplementary Sections を中心に金融契約の理論モデルについて解説。	
第6回	担当教員	雨宮 祐樹	
	授業内容	非対称情報下の金融契約① Chapter 6, Supplementary Sections を中心に非対称情報下の金融契約について解説。	
第7回	担当教員	雨宮 祐樹	
	授業内容	非対称情報下の金融契約② Chapter 6, Supplementary Sections を中心に非対称情報下の金融契約について解説。	
第8回	担当教員	雨宮 祐樹	
	授業内容	非対称情報下の金融契約③ Chapter 6, Supplementary Sections を中心に非対称情報下の金融契約について解説。	
第9回	担当教員	雨宮 祐樹	
	授業内容	中間試験とこれまでの講義内容の補足。 中間試験とこれまでの講義内容の補足。	
第10回	担当教員	雨宮 祐樹	
	授業内容	市場競争と企業の資本構成① Chapter 7, Supplementary Sections を中心に市場競争と企業の資本構成の関係について解説。	
第11回	担当教員	雨宮 祐樹	
	授業内容	市場競争と企業の資本構成② Chapter 7, Supplementary Sections を中心に市場競争と企業の資本構成の関係について解説。	
第12回	担当教員	雨宮 祐樹	
	授業内容	市場競争と企業の資本構成③ Chapter 7, Supplementary Sections を中心に市場競争と企業の資本構成の関係について解説。	
第13回	担当教員	雨宮 祐樹	
	授業内容	証券の設計① Chapter 10, Supplementary Sections を中心に金融契約と企業統治について解説。	
第14回	担当教員	雨宮 祐樹	
	授業内容	証券の設計② Chapter 10, Supplementary Sections を中心に金融契約と企業統治について解説。	
第15回	担当教員	雨宮 祐樹	
	授業内容	証券の設計③ Chapter 11の内容を中心に、企業買収に関する経済理論について解説。	
第16回	担当教員	雨宮 祐樹	
	授業内容	期末試験	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

- ・講義内容の復習と宿題。
- ・毎回、回答の作成に2から3時間程度を要する宿題を課す。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

Jean Tirole (2006), The Theory of Corporate Finance, Princeton University Press.

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	
中間試験	30
中間レポート	
期末試験	40
期末レポート	
その他	30

【成績評価に関する補足】

・中間試験30%, 期末試験40%, 宿題30%によって評価する。

・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
雨宮 祐樹	木曜	3限	雨宮研究室(人文社会科学部棟2F215)

【オフィスアワーに関する補足】

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| ☐ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☒ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☐ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
組織の経済学演習 I	Organizational Economics (Seminar I)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12J52	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81567721
ナンバリングコード2	81587721
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	雨宮 祐樹	人文社会科学部	amemiya@kochi-u.ac.jp

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

契約理論と組織の経済学の応用としての企業金融論の演習

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

- ・基本的なゲーム理論、ミクロ経済学の知識を前提として、契約理論および組織の経済学における主要な理論モデルとその応用について、輪読を通して理解を深め、最終的に自分で理論モデルを構築できるようになることを目的とします。
- ・また、企業の資金調達についての経済学的な理解を得ることも目的とします。
- ・なお、この授業は社会科学研究コースの中で、「経済政策領域」に属し、企業や組織を主なトピックとして経済理論分析を学びます。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

組織の経済学特論I, II, 組織の経済学演習II

授業の概要【COURSE SUMMARY】

「組織の経済学特論II」でも用いるテキスト Tirole (2006) の輪読を通して、企業や組織に関する理論分析についての理解を深めます。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	企業や組織に関する諸問題についての理論分析について、文献を読み自力で理解することができる。
2	企業や組織に関する諸問題についての理論分析について、自分の理解に基づいて説明することができる。
3	企業の資金調達について、経済学的な考え方を背景として、その仕組みや諸問題について説明できる。
4	企業や組織に関する諸問題について分析するための理論モデルを構築できる。
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

ミクロ経済学, 契約理論, ゲーム理論, 企業金融.

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

必ず、「組織の経済学特論II」を履修済みであること。
入門レベルのミクロ経済学を履修し終えていることが必要です。
加えて、経済学の中級テキストを把握できる程度の数学的素養が必要です。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	雨宮 祐樹	
	授業内容	オリエンテーション 授業の概要説明、報告ローテーションの決定。	
第2回	担当教員	雨宮 祐樹	
	授業内容	輪読 1（雨宮が担当） Chapter 2 の報告とディスカッション。	
第3回	担当教員	雨宮 祐樹	
	授業内容	輪読 2（雨宮が担当） Chapter 2 の報告とディスカッション。	
第4回	担当教員	雨宮 祐樹	
	授業内容	輪読 3 Chapter 3 の報告とディスカッション。	
第5回	担当教員	雨宮 祐樹	
	授業内容	輪読 4 Chapter 3 の報告とディスカッション。	
第6回	担当教員	雨宮 祐樹	
	授業内容	輪読 5 Chapter 4 の報告とディスカッション。	
第7回	担当教員	雨宮 祐樹	
	授業内容	輪読 6 Chapter 4 の報告とディスカッション。	
第8回	担当教員	雨宮 祐樹	
	授業内容	輪読 7 Chapter 5 の報告とディスカッション。	
第9回	担当教員	雨宮 祐樹	
	授業内容	輪読 8 Chapter 5 の報告とディスカッション。	
第10回	担当教員	雨宮 祐樹	
	授業内容	輪読 9 Chapter 6 の報告とディスカッション。	
第11回	担当教員	雨宮 祐樹	
	授業内容	輪読 10 Chapter 6 の報告とディスカッション。	
第12回	担当教員	雨宮 祐樹	
	授業内容	輪読 11 Chapter 7 の報告とディスカッション。	
第13回	担当教員	雨宮 祐樹	
	授業内容	輪読 12 Chapter 7 の報告とディスカッション。	
第14回	担当教員	雨宮 祐樹	
	授業内容	輪読 13 Chapter 10 の報告とディスカッション。	
第15回	担当教員	雨宮 祐樹	
	授業内容	輪読 14 Chapter 10 の報告とディスカッション。	
第16回	担当教員	雨宮 祐樹	
	授業内容	期末レポートの作成・提出	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

報告の準備、その日の輪読箇所の復習、期末レポートの作成。
報告の準備には大変な時間を要すると思われるので、早めに準備に着手することをお勧めします。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

Jean Tirole (2006), The Theory of Corporate Finance, Princeton University Press.

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	50
その他	50

【成績評価に関する補足】

輪読における報告の内容：50%，期末レポート：50%

・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
雨宮 祐樹	金曜	4限	雨宮研究室(人文社会科学部棟2F215)

【オフィスアワーに関する補足】

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| ☐ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☒ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☐ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
英語学特論	Special Sminar in English Linguistics (Advanced)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12D67	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81540871
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免一中学校・高校(英語)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR' S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	石井 達也	人文社会科学部	t-ishii@kochi-u.ac.jp
2			
3			
4			
5			

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

認知言語学

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

Cognitive linguistics

授業の目的【COURSE AIMS】

認知言語学が扱ってきた言語現象についての理解し、英語・日本語の様々な言語現象に関して考察できる観察眼を養う。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

英語学演習、英語構文特論、英語構文演習

授業の概要【COURSE SUMMARY】

認知言語学に関する論文を読み、扱ってきた言語現象について理論的枠組みの中で説明できるようになる。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	認知言語学の基本的な理論的枠組みを理解する。
2	認知言語学の扱う言語現象について理解する。
3	英語・日本語の違いについて理論的枠組みの中で説明できるようになる。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

認知言語学、日英語の違い

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

英語論文を読むための基本的な英語力

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

受講者による輪読形式を基本とします。毎回英語論文を読み、発表準備、質問準備をすることが求められます。

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	石井 達也	
	授業内容	Chapter 1	
第2回	担当教員	石井 達也	
	授業内容	Chapter 2	
第3回	担当教員	石井 達也	
	授業内容	Chapter 3	
第4回	担当教員	石井 達也	
	授業内容	Chapter 4	
第5回	担当教員	石井 達也	
	授業内容	Chapter 5	
第6回	担当教員	石井 達也	
	授業内容	Chapter 6	
第7回	担当教員	石井 達也	
	授業内容	Chapter 7	
第8回	担当教員	石井 達也	
	授業内容	Chapter 8	
第9回	担当教員	石井 達也	
	授業内容	Chapter 9	
第10回	担当教員	石井 達也	
	授業内容	Chapter 10	
第11回	担当教員	石井 達也	
	授業内容	Chapter 11	
第12回	担当教員	石井 達也	
	授業内容	Chapter 12	
第13回	担当教員	石井 達也	
	授業内容	Chapter 13	
第14回	担当教員	石井 達也	
	授業内容	Chapter 14	
第15回	担当教員	石井 達也	
	授業内容	Chapter 15	
第16回	担当教員	石井 達也	
	授業内容	レポートの発表	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

テキストの精読・発表準備・質問準備に4時間は必要です。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

Evans, V. (2019). *Cognitive Linguistics: A Complete Guide*. Edinburgh University Press.

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	50
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	50
その他	

【成績評価に関する補足】

・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
石井 達也	木	1	朝倉 研究室

【オフィスアワーに関する補足】

メールをして下さい。Team等でも対応します。

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☒ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| ☐ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☒ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☒ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☒ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
英語学演習	Special Sminar in English Linguistics (Seminar)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12D68	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81545821
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免一中学校・高校(英語)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR' S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	石井達也	人文社会科学部	t-ishii@kochi-u.ac.jp
2			
3			
4			
5			

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

認知言語学

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

Cognitive linguistics

授業の目的【COURSE AIMS】

認知言語学が扱ってきた言語現象についての理解し、英語・日本語の様々な言語現象に関して考察できる観察眼を養う。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

英語学特論、英語構文特論、英語構文演習

授業の概要【COURSE SUMMARY】

認知言語学に関する論文を読み、扱ってきた言語現象について理論的枠組みの中で説明できるようになる。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	認知言語学の基本的な理論的枠組みを理解する。
2	認知言語学の扱う言語現象について理解する。
3	英語・日本語の違いについて理論的枠組みの中で説明できるようになる。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

認知言語学、日英語の違い

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

英語論文を読むための基本的な英語力

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

受講者による輪読形式を基本とします。毎回英語論文を読み、発表準備、質問準備をすることが求められます。

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	石井 達也	
	授業内容	Chapter 16	
第2回	担当教員	石井 達也	
	授業内容	Chapter 17	
第3回	担当教員	石井 達也	
	授業内容	Chapter 18	
第4回	担当教員	石井 達也	
	授業内容	Chapter 19	
第5回	担当教員	石井 達也	
	授業内容	Chapter 20	
第6回	担当教員	石井 達也	
	授業内容	Chapter 21	
第7回	担当教員	石井 達也	
	授業内容	Chapter 22	
第8回	担当教員	石井 達也	
	授業内容	Chapter 23	
第9回	担当教員	石井 達也	
	授業内容	Chapter 24	
第10回	担当教員	石井 達也	
	授業内容	Chapter 25	
第11回	担当教員	石井 達也	
	授業内容	Chapter 26	
第12回	担当教員	石井 達也	
	授業内容	Chapter 27	
第13回	担当教員	石井 達也	
	授業内容	Chapter 28	
第14回	担当教員	石井 達也	
	授業内容	Chapter 29	
第15回	担当教員	石井 達也	
	授業内容	Chapter 30	
第16回	担当教員	石井 達也	
	授業内容	レポートの発表	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

テキストの精読・発表準備・質問準備に4時間は必要です。□

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

Evans, V. (2019). Cognitive Linguistics: A Complete Guide. Edinburgh University Press.□

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	50
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	50
その他	

【成績評価に関する補足】

・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
石井 達也	木	1	朝倉 研究室

【オフィスアワーに関する補足】

メールをして下さい。Team等でも対応します。

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☒ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| ☐ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☒ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☒ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☒ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
国際英語特論	World Englishes
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12D73	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81540C72
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免一中学校・高校(英語)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	ショーン バーゴイン	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

国際英語

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

World Englishes, phonology, English as a lingua franca

授業の目的【COURSE AIMS】

The aim of this course is develop a deeper understanding of phonology through the study of NS and NNS varieties of Englishes.

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

The aim of this course is develop a deeper understanding of phonology through the study of NS and NNS varieties of Englishes.

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	To apply knowledge of English phonology to understand distinctions in World Englishes.
2	To discuss and debate the relevance the LFC with regards to phonetic instruction.
3	To discuss and debate myths relating to pronunciation instruction, supporting opinions with recent research.
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

Phonetics, World Englishes, Phonology

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

Students should have the ability to read and discuss academic articles in English. An interest in English phonetics is also desirable.

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	ショーン バーゴイン	
	授業内容	Orientation and course overview	
第2回	担当教員	ショーン バーゴイン	
	授業内容	The history of pronunciation instruction	
第3回	担当教員	ショーン バーゴイン	
	授業内容	Pronunciation instruction myths	
第4回	担当教員	ショーン バーゴイン	
	授業内容	Current research into pronunciation instruction	
第5回	担当教員	ショーン バーゴイン	
	授業内容	The sound system of North American English	
第6回	担当教員	ショーン バーゴイン	
	授業内容	The sound system of RP	
第7回	担当教員	ショーン バーゴイン	
	授業内容	World Englishes and phonology	
第8回	担当教員	ショーン バーゴイン	
	授業内容	Asian Englishes; focus on Hong Kong	
第9回	担当教員	ショーン バーゴイン	
	授業内容	Asian Englishes; focus on India	
第10回	担当教員	ショーン バーゴイン	
	授業内容	Asian Englishes; focus on Singapore	
第11回	担当教員	ショーン バーゴイン	
	授業内容	Asian Englishes; focus on Malaysia	
第12回	担当教員	ショーン バーゴイン	
	授業内容	European Englishes; focus on Germany	
第13回	担当教員	ショーン バーゴイン	
	授業内容	European Englishes; focus on Scandinavia	
第14回	担当教員	ショーン バーゴイン	
	授業内容	European Englishes; focus on British dialects	
第15回	担当教員	ショーン バーゴイン	
	授業内容	Australian English	
第16回	担当教員	ショーン バーゴイン	
	授業内容	Final presentation (test)	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

It will be necessary for students to review material presented in the seminar and do preparatory reading of academic articles

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

Materials and selected readings to be provided. 資料と精選された読み物を配布する。

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	40
その他	60

【成績評価に関する補足】

Short weekly presentations based on assigned reading 60%. Final Report 40%

・ 成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
ショーン バーゴイン	火曜	1限	人文社会科学部棟5階537番

【オフィスアワーに関する補足】

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| ☐ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☒ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☐ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
国際英語演習	World Englishes
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12D74	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
授業種別【Course Classification】	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
令和5年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81545C22
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免一中学校・高校(英語)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	ショーン バーゴイン	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

国際英語

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

World Englishes, phonology, English as a lingua franca
--

授業の目的【COURSE AIMS】

--

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

--

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	To apply knowledge of English phonology to understand distinctions in World Englishes.
2	To discuss and debate the relevance the LFC with regards to phonetic instruction.
3	To discuss and debate myths relating to pronunciation instruction, supporting opinions with recent research.
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

Phonetics, World Englishes, Phonology

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

Students should have the ability to read and discuss academic articles in English. An interest in English phonetics is also desirable.

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	ショーン バーゴイン	
	授業内容	Course overview	
第2回	担当教員	ショーン バーゴイン	
	授業内容	The history of English	
第3回	担当教員	ショーン バーゴイン	
	授業内容	Kachru's Circles of English	
第4回	担当教員	ショーン バーゴイン	
	授業内容	Who speaks English today?	
第5回	担当教員	ショーン バーゴイン	
	授業内容	English as a lingua franca Lesson 1	
第6回	担当教員	ショーン バーゴイン	
	授業内容	English as a lingua franca Lesson 2	
第7回	担当教員	ショーン バーゴイン	
	授業内容	The Lingua Franca Core	
第8回	担当教員	ショーン バーゴイン	
	授業内容	Merits of the LFC	
第9回	担当教員	ショーン バーゴイン	
	授業内容	Demerits of the LFC	
第10回	担当教員	ショーン バーゴイン	
	授業内容	Pronunciation controversies in ELF/LFC Lesson 1	
第11回	担当教員	ショーン バーゴイン	
	授業内容	Pronunciation controversies in ELF/LFC Lesson 2	
第12回	担当教員	ショーン バーゴイン	
	授業内容	Implications of the LFC for Japan	
第13回	担当教員	ショーン バーゴイン	
	授業内容	Who owns English today? Lesson 1	
第14回	担当教員	ショーン バーゴイン	
	授業内容	Who owns English today? Lesson 2	
第15回	担当教員	ショーン バーゴイン	
	授業内容	ELF and education	
第16回	担当教員	ショーン バーゴイン	
	授業内容	Final presentation (test)	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

It will be necessary for students to review material presented in the seminar and do preparatory reading of academic articles

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

Materials and selected readings to be provided. 資料と精選された読み物を配布する。

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	
その他	100

【成績評価に関する補足】

Evaluation will be equally based on seminar discussions, presentations, and reports

・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
ショーン バーゴイン	火曜	1限	人文社会科学部棟5階537番

【オフィスアワーに関する補足】

この授業とSDGsの関連

- ☐ 1 貧困をなくそう
- ☐ 2 飢餓をゼロに
- ☐ 3 すべての人に健康と福祉を
- ☐ 4 質の高い教育をみんなに
- ☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ☐ 8 働きがいも経済成長も
- ☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 10 人や国の不平等をなくそう
- ☐ 11 住み続けられるまちづくりを
- ☐ 12 つくる責任つかう責任
- ☐ 13 気候変動に具体的な対策を
- ☐ 14 海の豊かさを守ろう
- ☐ 15 陸の豊かさを守ろう
- ☐ 16 平和と公正をすべての人に
- ☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| ☐ 対面のみ | ☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| ☐ オンライン同期型のみ | ☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☐ オンライン非同期型のみ | ☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| ☐ オンライン同期型+非同期型 | ☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| ☒ 調整中 | |

授業形態

- ☐ 講義形式が中心
- ☐ 口頭での質疑やディスカッションを含む
- ☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- ☐ その他

【授業形態(その他)】

2025年度 シラバスフォーマット(2025 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
現代日本語演習	Contemporary Japanese (Seminar)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81501821
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR' S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	和田 美砂子		wada-misako@kochi-u.ac.jp

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

日本語アカデミックライティング

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

Academic writing in Japanese

授業の目的【COURSE AIMS】(必須 required)

日本語による論文執筆のための基礎的な知識を身につけるとともに、それぞれの論文執筆につながる演習を行う。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】(必須 required)

日本語によるアカデミックライティングの基礎的な知識を演習形式で学ぶクラスです。論文にふさわしい文体や語彙・表現の選択、引用の仕方、パラグラフライティングの基礎について学ぶとともに、実際にテーマを決めて書いてみます。日本語で論文を書く予定の、日本語を母語としない学生を対象とします。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】(必須 required)

No	授業科目の到達目標 (COURSE OBJECTIVES)
1	日本語による論文執筆に必要なルールや表現を身につける。
2	論理的な文章の構成を理解する。
3	自身の論文執筆に必要な書き方や考え方を理解する。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】(必須 required)

アカデミックライティング 日本語論文作成 現代日本語

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】(必須 required)

日本語能力検定試験N2レベル以上の日本語力を有していること。
自身の論文執筆を想定し、実践的に取り組む姿勢を求めます。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

クラスの受講生の状況や希望により、進度やスケジュールを変える場合があります。

授業計画【LESSON PLAN】(必須 required)

第1回	担当教員	和田 美砂子	
	授業内容	ガイダンス 学術的な文章とは 課題レポート説明	
第2回	担当教員	和田 美砂子	
	授業内容	論文にふさわしい文体 課題レポートテーマ決め	
第3回	担当教員	和田 美砂子	
	授業内容	一文一義 文と文の関係	
第4回	担当教員	和田 美砂子	
	授業内容	論文にふさわしい語彙、表現(1)和語・漢語、ジャンルによる使い分け パラグラフライティング	
第5回	担当教員	和田 美砂子	
	授業内容	論文にふさわしい語彙、表現(2)上位概念、簡潔な表現 パラグラフライティング	
第6回	担当教員	和田 美砂子	
	授業内容	学術論文の構成 課題レポートの構成発表準備	
第7回	担当教員	和田 美砂子	
	授業内容	引用の仕方 課題レポートの構成発表準備	
第8回	担当教員	和田 美砂子	
	授業内容	課題レポート構成発表	
第9回	担当教員	和田 美砂子	
	授業内容	文献リストの書き方 レポート執筆、ピアリーディング、個別指導	
第10回	担当教員	和田 美砂子	
	授業内容	データ・資料の分析と表現① 資料の説明方法 レポート執筆、ピアリーディング、個別指導	
第11回	担当教員	和田 美砂子	
	授業内容	データ・資料の分析と表現② 文末・接続表現 レポート執筆、ピアリーディング、個別指導	
第12回	担当教員	和田 美砂子	
	授業内容	データ・資料の分析と表現③ 研究結果、主張のまとめかた レポート執筆、ピアリーディング、個別指導	
第13回	担当教員	和田 美砂子	
	授業内容	レポート執筆、ピアリーディング、個別指導	
第14回	担当教員	和田 美砂子	
	授業内容	レポート執筆、ピアリーディング、個別指導	
第15回	担当教員	和田 美砂子	
	授業内容	課題レポート発表会	
第16回	担当教員	和田 美砂子	
	授業内容	期末課題レポート	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】(必須 required)

前半(第7回まで)は学術論文を書くための基礎的な知識を身につけるため、毎回課題を課します。後半は、自分のテーマに沿って課題レポートを作成していきます。授業時のピアリーディングや個別指導をもとに、授業時間外でも執筆を進めるようにしてください。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】(必須 required)

教科書は指定しません。随時必要な教材を配布します。

参考書 留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック 二通信子 他 著 東京大学出版会
これから研究を書くひとのためのガイドブック[第二版] 佐渡島紗織・吉野亜矢子 著 ひつじ書房
アカデミック・ライティングのためのパラフレーズ演習 鎌田美千子・仁科浩美 著 スリーエーネットワーク
小論文への12のステップ 友松悦子 著 スリーエーネットワーク

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL 】

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】(必須 required)

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	30%
その他	70%

【成績評価に関する補足】

評価方法の「その他」は以下の通り
中間発表: 20%
期末発表: 20%
授業の事前・事後課題: 30%

・ 成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】(必須 required)

氏名	曜日	時間	場所

【オフィスアワーに関する補足】

授業後に教室にて対応、またはメールでも対応します。

教員の実務経験との関連

☐ 実務経験のある教員による授業科目

この授業とSDGsの関連

☐ 1 貧困をなくそう

☐ 2 飢餓をゼロに

☐ 3 すべての人に健康と福祉を

☒ 4 質の高い教育をみんなに

☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう

☐ 6 安全な水とトイレを世界中に

☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに

☐ 8 働きがいも経済成長も

☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう

☐ 10 人や国の不平等をなくそう

☐ 11 住み続けられるまちづくりを

☐ 12 つくる責任つかう責任

☐ 13 気候変動に具体的な対策を

☐ 14 海の豊かさを守ろう

☐ 15 陸の豊かさを守ろう

☐ 16 平和と公正をすべての人に

☐ 17 パートナリシップで目標を達成しよう

授業実施方法(必須 required)

☒ 対面のみ

☐ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン

☐ オンライン同期型のみ

☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面

☐ オンライン非同期型のみ

☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部

☐ オンライン同期型+非同期型

☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面

☐ 調整中

授業形態

授業中にどのような活動が含まれるかを事前に伝えることで、受講生は授業形態などについて了解した上で授業を選択できます（複数選択可）。

☐ 講義形式が中心

☒ 口頭での質疑やディスカッションを含む

☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心

☐ その他

【授業形態(その他)】

授業形態で「その他」にチェックをつけた場合、内容を書いてください。